



取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

BLADE



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。 (ドアの開閉、シートの調整、チャイルドシートの取り扱いなど)
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。 (エンジンのかけ方、メーターの見方など)
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。 (室内灯のつけ方、室内装備の使い方など)
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。 (内・外装の手入れ、電球の交換など)
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。 (けん引について、警告灯がついたときの対処など)
6	車両スペック	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。 (指定燃料、各オイル量、カスタマイズ項目など)
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着されたかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー	20
----------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	22
ワイヤレスリモコン	31
ドア (フロントドア、リヤドア)	32
バックドア	35

1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた

フロントシート	40
リヤシート	42
ヘッドレスト	45
シートベルト	47
ハンドル	52
インナーミラー	53
ドアミラー	54

1-4. ドアガラスの開け方、 閉め方

パワーウィンドウ	56
----------------	----

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	58
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	62
---------------------------	----

1-7. 安全に

お使いいただくために

正しい運転姿勢	63
SRS エアバッグ	65
チャイルドシートの 取り付け	74

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	82
エンジン (イグニッション) スイッチ	91
オートマチック トランスミッション	94
方向指示レバー	100
パーキングブレーキ	101
ホーン (警告器)	102

2-2. メーターの見方

計器類	103
表示灯/警告灯	105
マルチインフォメーション ディスプレイ	108

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	114
フロントフォグライト スイッチ	117
ワイパー & ウォッシャー (フロント)	118
ワイパー & ウォッシャー (リヤ)	120

2-4. その他の走行装置の

使い方

4WD オートモード スイッチ	122
レーダークルーズ コントロール	123
運転を補助する装置	133
ヒルスタートアシスト コントロール	137
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	139

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	145
寒冷時の運転	147

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォグガーの

使い方

左右独立温度コントロールフルオー トエアコン	152
フルオートエアコン	158
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り)	164
フロントワイパー デアイザー	165

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類	166
ラジオの使い方	168
CD プレーヤーの使い方	171
MP3/WMA ディスクの 聞き方	176
快適に聞くために (メーカーオプ ションの CD プレーヤー、AM/ FM ラジオ装着車)	183
ステアリングスイッチ	185

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	188
-------------	-----

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧	190
--------------	-----

3-5. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	198
バニティミラー	199
アクセサリースOCKET	200
アームレスト	201
アシストグリップ& コートフック	202
フロアマット	203
ラゲージルーム内装備	204
快適温熱シートヒーター	207

4 お手入れのしかた**4-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ.....	210
内装の手入れ.....	213
タイヤについて.....	216

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	219
ガレージジャッキ.....	221
エンジンルームカバー.....	223
電球（バルブ）の交換.....	225
ヒューズの点検、交換.....	236
キーの電池交換.....	243
ウォッシャー液の補給.....	245
エアコンフィルターの 清掃、交換.....	246

5 トラブルが起きたら**5-1. まず初めに**

故障したときは.....	250
非常点滅灯.....	251
発炎筒.....	252
けん引について.....	254
イベントデータレコーダー.....	258

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	260
警告メッセージが 表示されたときは.....	264
パンクしたときは.....	274
エンジンが かからないときは.....	283
シフトレバーが シフトできないときは.....	285
キーを無くしたときは.....	286
電子キーが正常に 働かないときは.....	287
バッテリーが あがったときは.....	289
オーバーヒートしたときは.....	292
スタックしたときは.....	294

6 車両の仕様**6-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ （油脂類の容量と銘柄）.....	298
-------------------------------	-----

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧.....	306
-------------------------	-----

さくいん

略語一覧.....	308
-----------	-----

五十音順さくいん.....	309
---------------	-----

症状別さくいん.....	317
--------------	-----

1

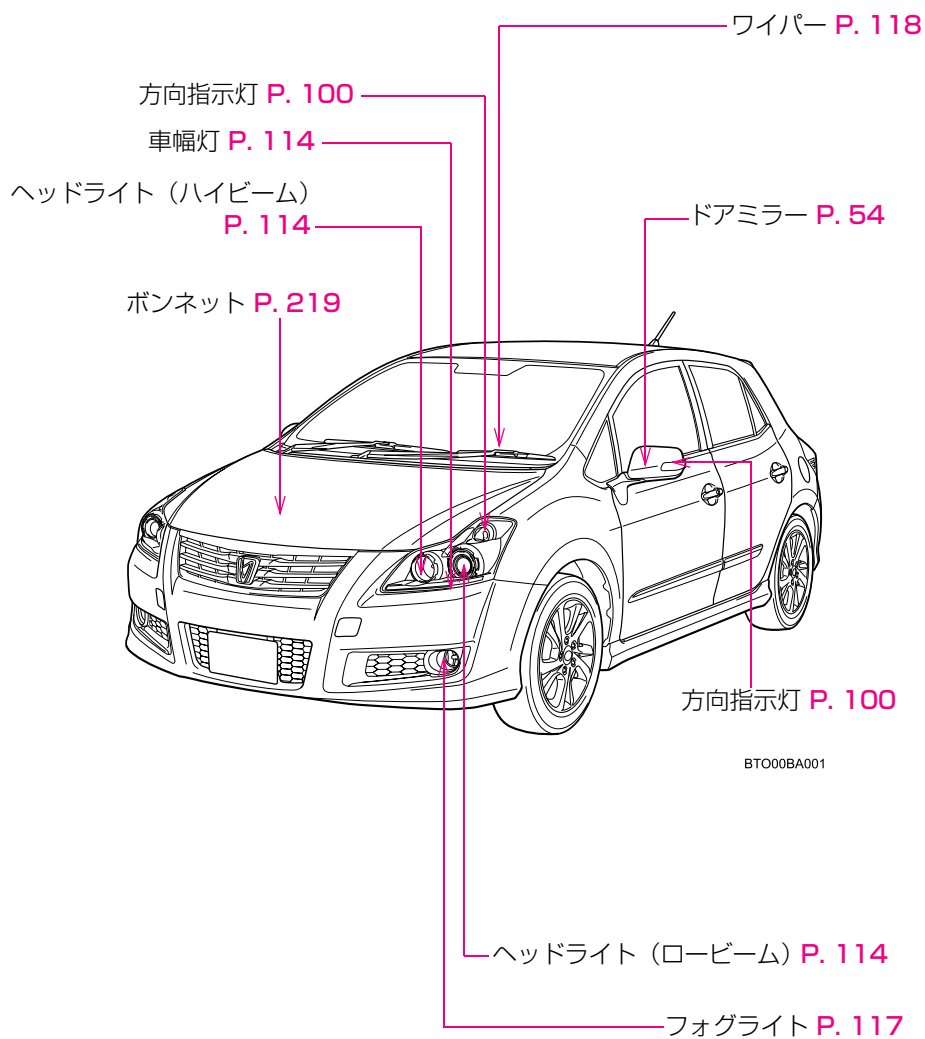
2

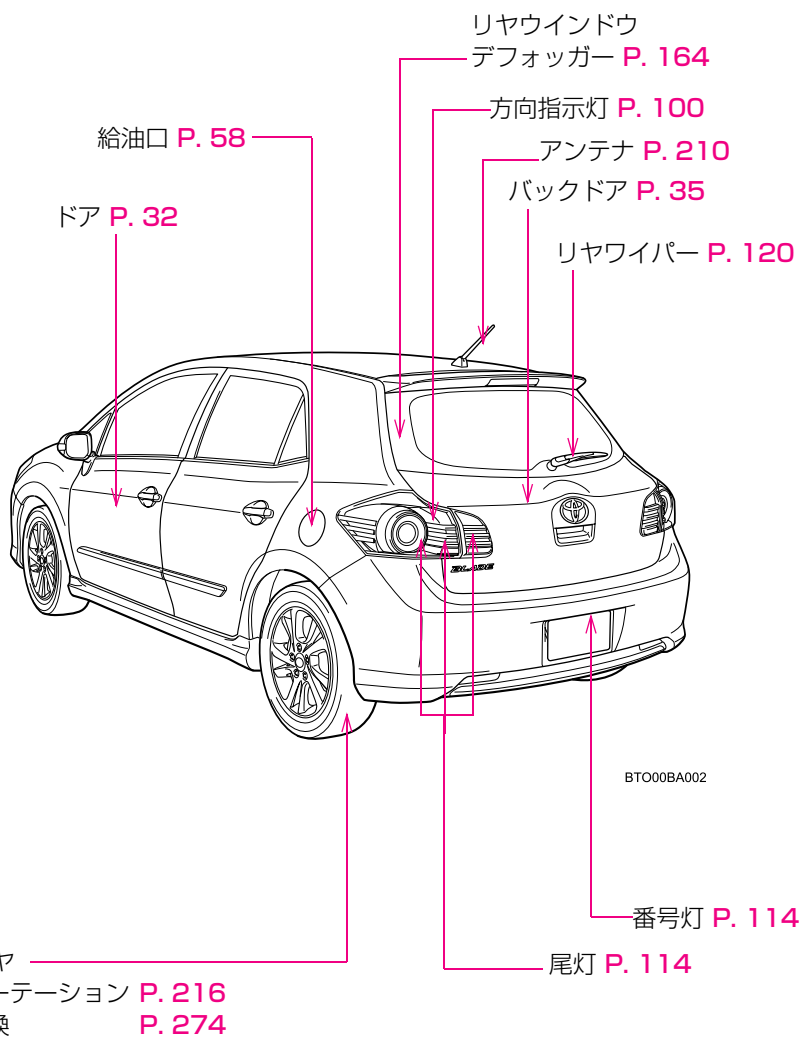
3

4

5

6





運転席 SRS エアバッグ P. 65

シフトレバー P. 94

助手席アッパー
ボックス P. 191

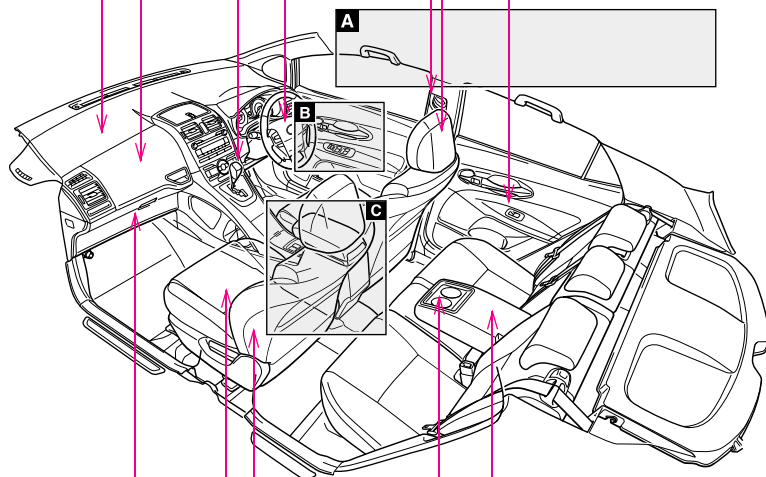
助手席 SRS
エアバッグ

P. 65

シートベルト P. 47

ヘッドレスト P. 45

パワーウィンドウ
スイッチ P. 56



グローブボックス P. 191

フロントシート P. 40

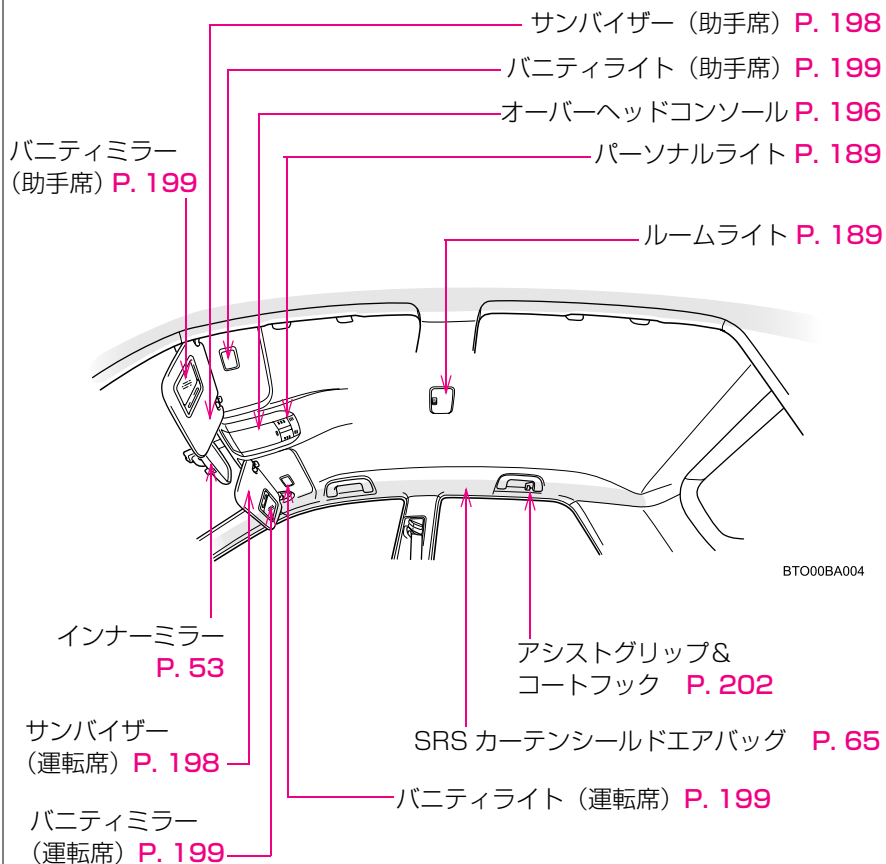
SRS サイドエアバッグ
P. 65

アームレスト P. 201

カップホルダー P. 193

BTO00BA003

A



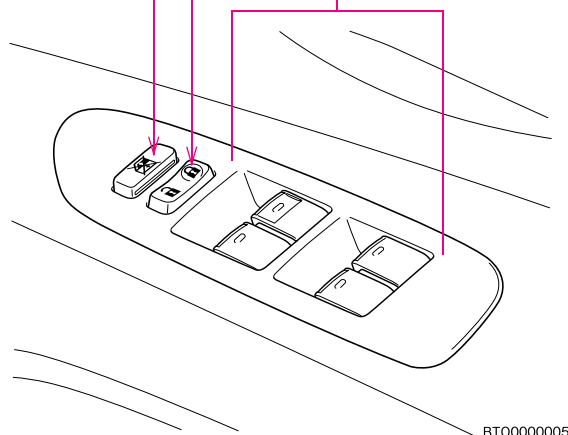
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B

パワーウィンドウスイッチ P. 56

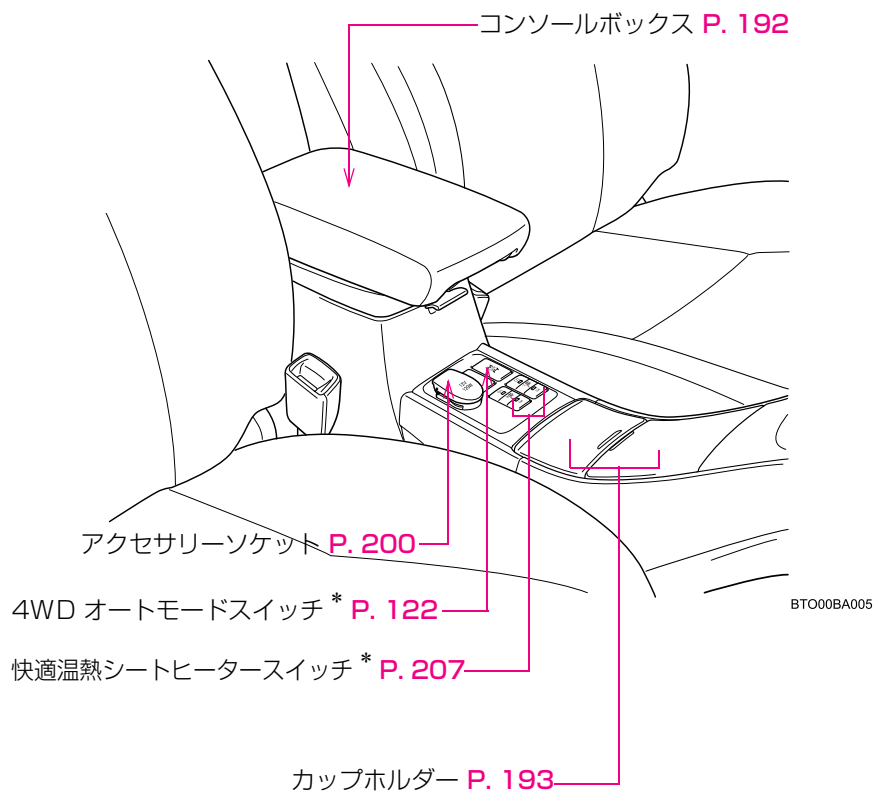
ドアロックスイッチ P. 32

ウィンドウロックスイッチ P. 56

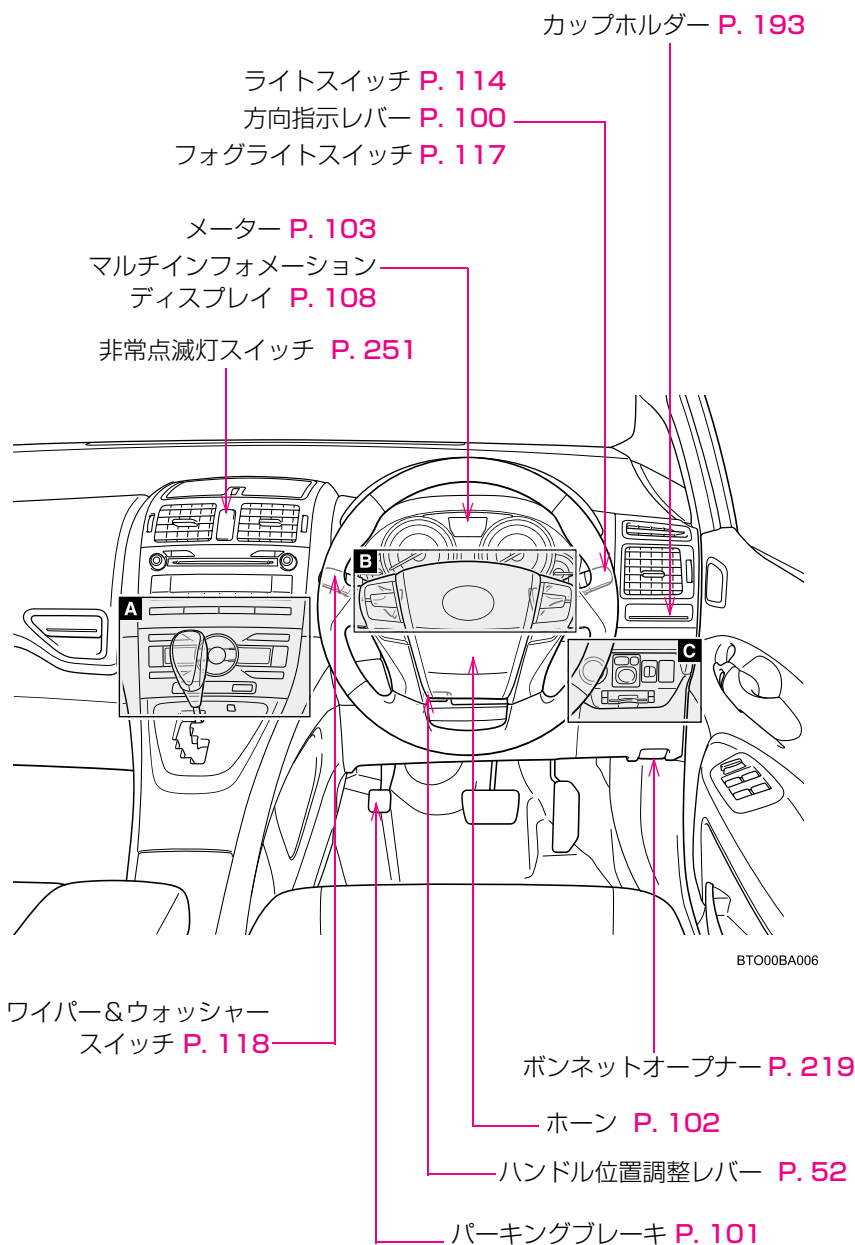


BT00000005

C



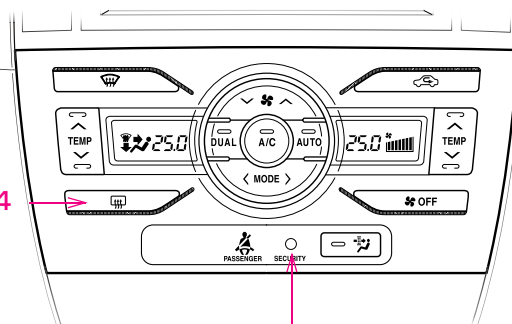
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



A

▶ 左右独立温度コントロールフルオートエアコン装着車

リヤウインドウ
デフォッガー
スイッチ P. 164



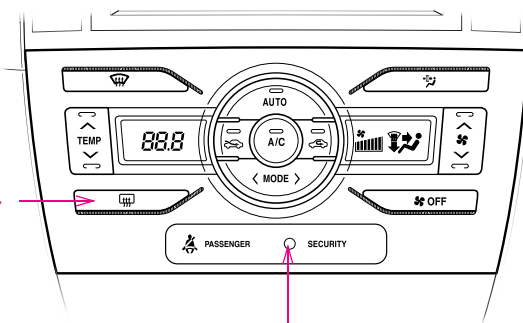
エアコン
P. 152

BTO00BA007

セキュリティインジケータ P. 62

▶ フルオートエアコン装着車

リヤウインドウ
デフォッガー
スイッチ P. 164



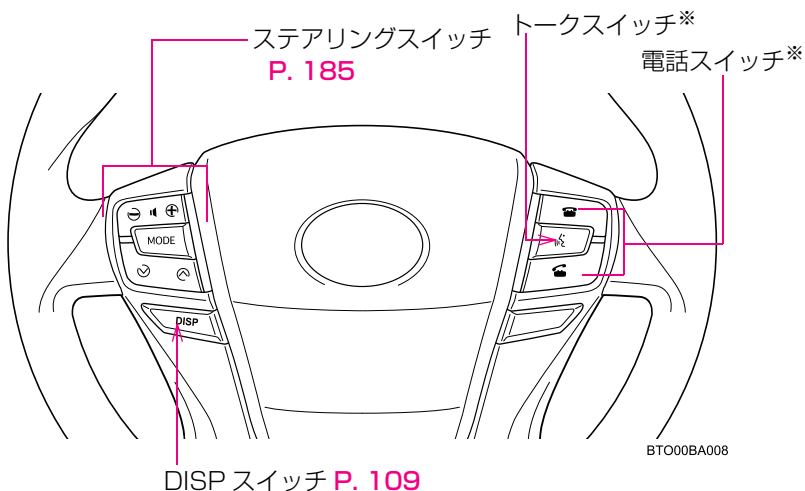
エアコン
P. 158

BTO00BA099

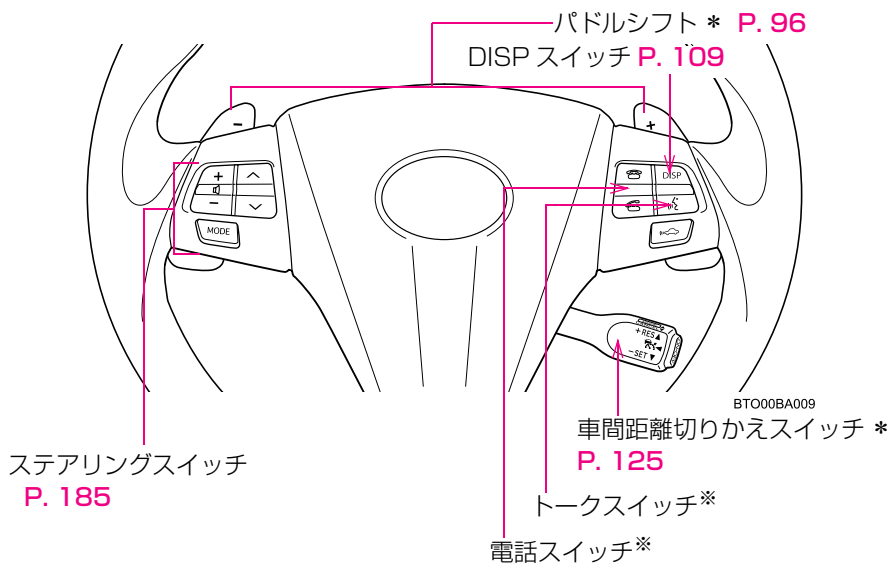
セキュリティインジケータ P. 62

B

▶ 4 本スポークステアリング装着車



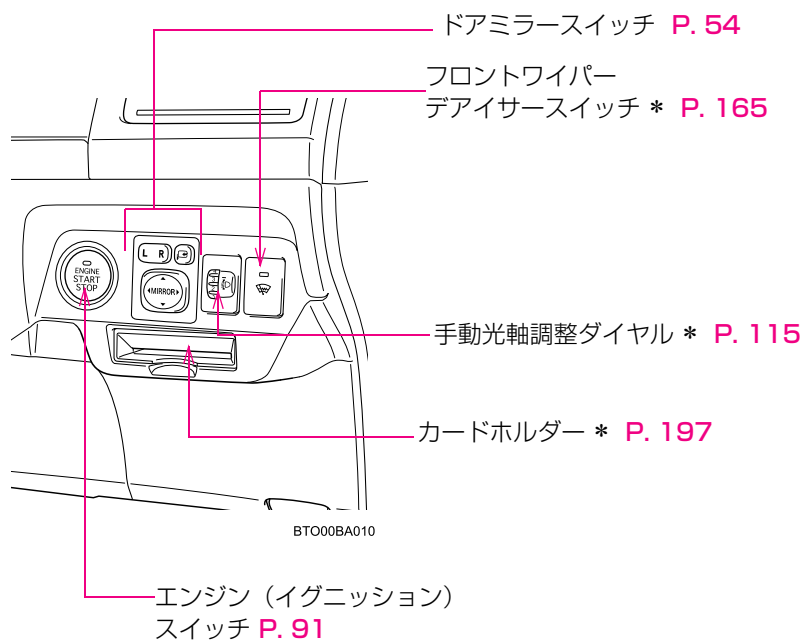
▶ 3 本スポークステアリング装着車



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

C



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 74）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

📖 知識

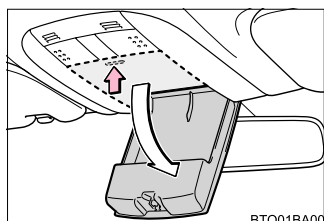
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

- ➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。
- ⇒ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取扱い

キー	20
----------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	22
ワイヤレスリモコン	31
ドア（フロントドア、 リヤドア）	32
バックドア	35

1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた

フロントシート	40
リヤシート	42
ヘッドレスト	45
シートベルト	47
ハンドル	52
インナーミラー	53
ドアミラー	54

1-4. ドアガラスの開け方、 閉め方

パワーウインドウ	56
----------------	----

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	58
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

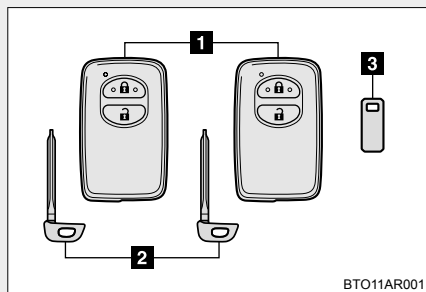
エンジンイモビライザー システム	62
---------------------------	----

1-7. 安全に

お使いいただくために

正しい運転姿勢	63
SRS エアバッグ	65
チャイルドシートの 取り付け	74

お客様へ以下のキーをお渡しします。



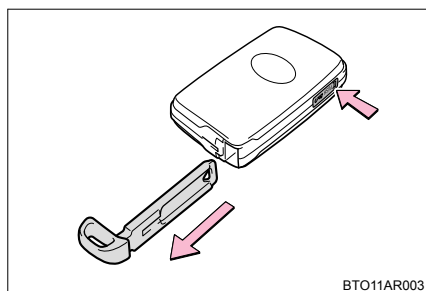
1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 22)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 31)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 287)

知識

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 286)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

 注意**■キーの故障を防ぐために**

- キーに衝撃を与えたり、直射日光の当たる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

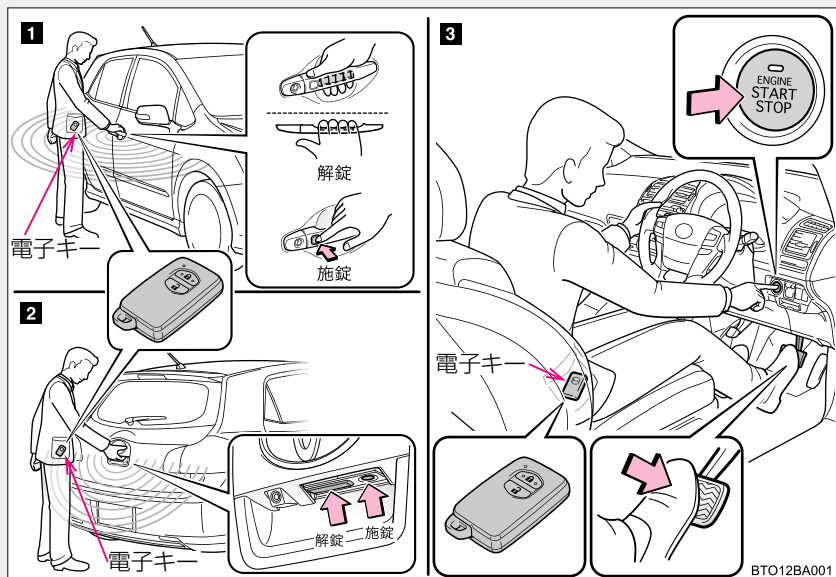
■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

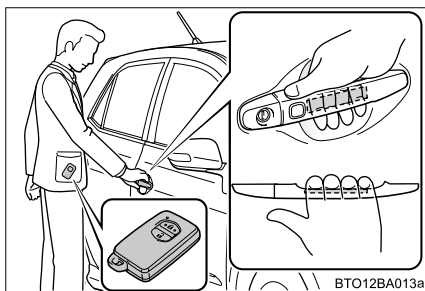
1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください。)



- 1** ドアの解錠・施錠 (→P. 23)
- 2** バックドアの解錠・施錠 (→P. 24)
- 3** エンジンの始動 (→P. 91)

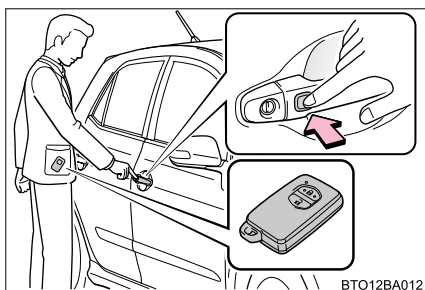
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。

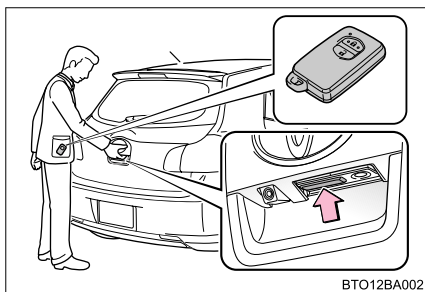


ロックスイッチを押して施錠する

1

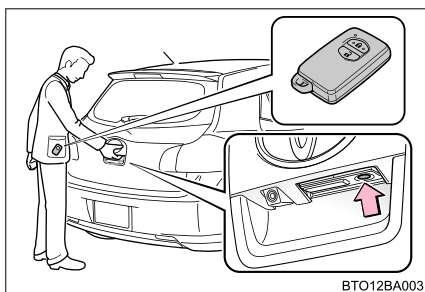
運転する前に

バックドアの解錠・施錠



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

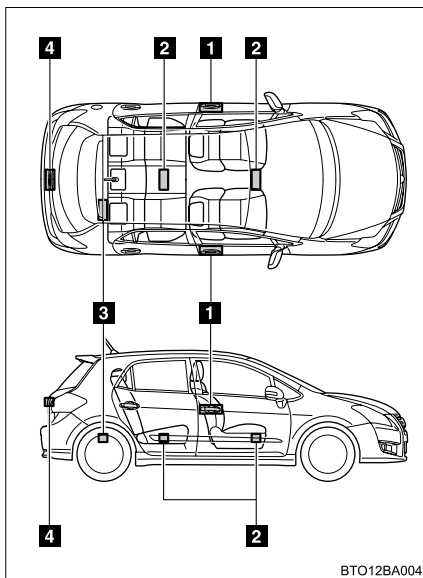
施錠操作後3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

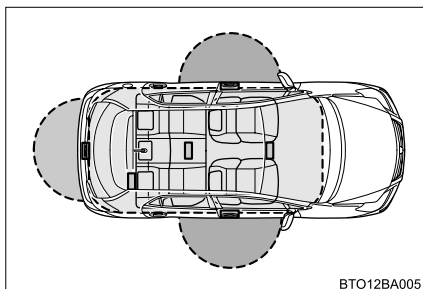
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 ラゲージルーム内アンテナ
- 4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : エンジン始動時またはモード切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

 知識

■ **作動の合図**

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ **節電機能**

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 2 週間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する (→P. 31)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 287)

■ **電池の消耗について**

- 電池の標準的な寿命は 1～2 年です。(電子キーを使用しなくても電池は消耗します。) スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。(→P. 243)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 272)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
 - ・ 電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、パッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。)
- 手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。)

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 264)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせず、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー” と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー” と鳴り続ける	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの施錠、解錠：→P. 287
- エンジン始動：→P. 287

■電池が切れたときは

→P. 243

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができません。（カスタマイズ一覧→P. 306）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 25）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

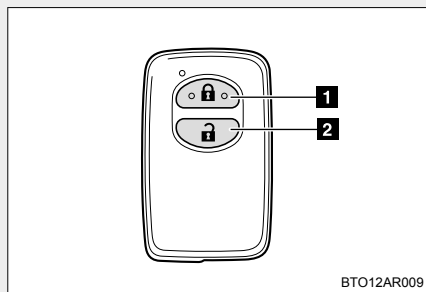
■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 287）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
 - ・ ほかの車の電子キー
 - ・ 電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 電池の消耗について

→P. 26

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 28

■ 電池が切れたときは

→P. 243

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

■ 販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 306)

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 23

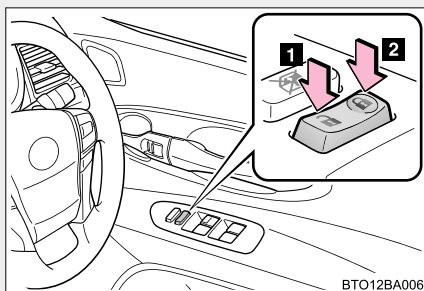
■ ワイヤレス機能

→P. 31

■ キー

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 287）

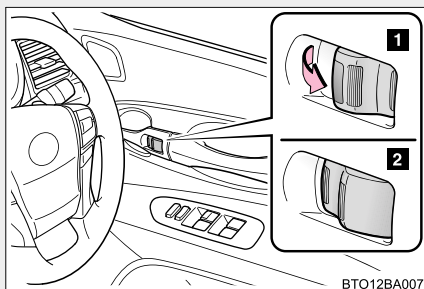
■ ドアロックスイッチ



1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

■ ロックレバー



1 解錠

2 施錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

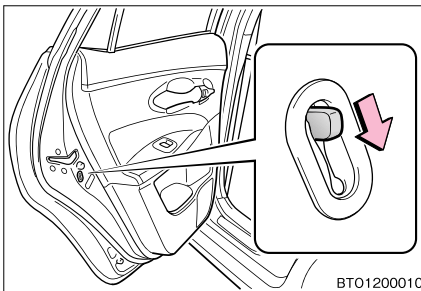
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。



警告

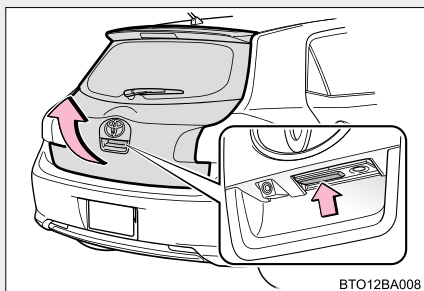
■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっ
ていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内か
らドアが開かないようにする

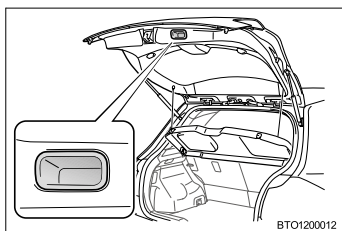
1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア



バックドアオープンスイッチを
押したまま、バックドアを持ち
上げる

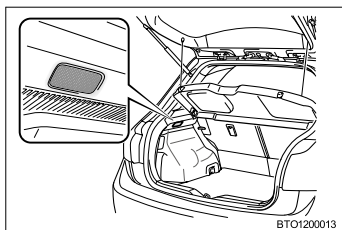
知識

■ バックドアを閉めるときは



バックドアハンドルをもってバックドアを
引き下げ、必ず外から押して閉めてくださ
い。

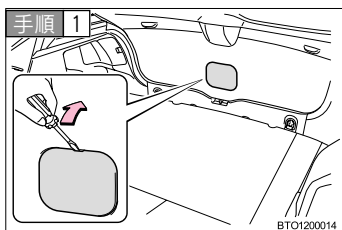
■ ラゲージルームライト



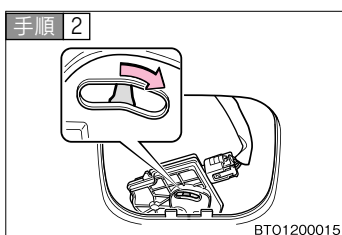
バックドアを開けたとき、ラゲージルーム
ライトが点灯します。

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。



カバーをはずす



レバーを押す

 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉じてください。
開けたままにしておくと、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

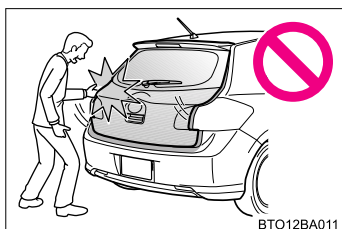
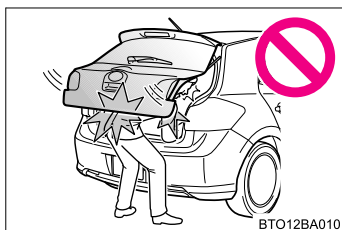
⚠ 警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

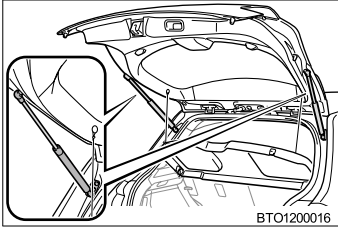
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないように十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や指を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

 注意**■ バックドアダンパーステアについて**

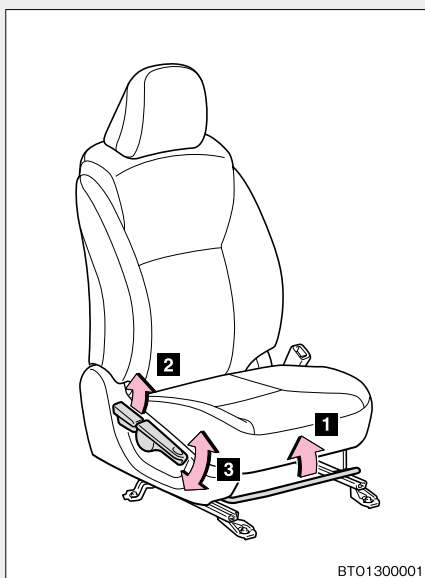
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

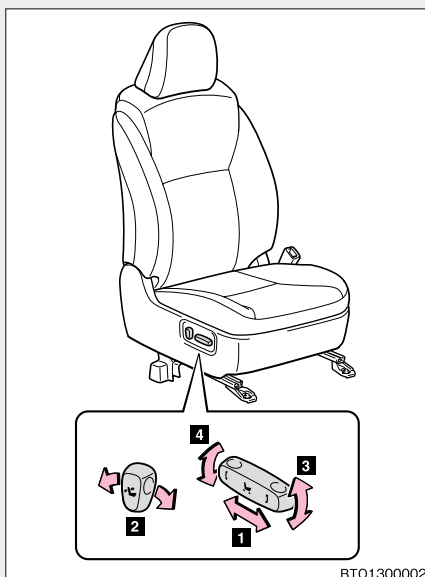
▶ マニュアルシート*



- 1** 前後位置調整
- 2** リクライニング調整
- 3** シート全体の上下調整
(運転席のみ)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ パワーシート*



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端的上下調整
(運転席のみ)
- 4 シート全体の上下調整
(運転席のみ)

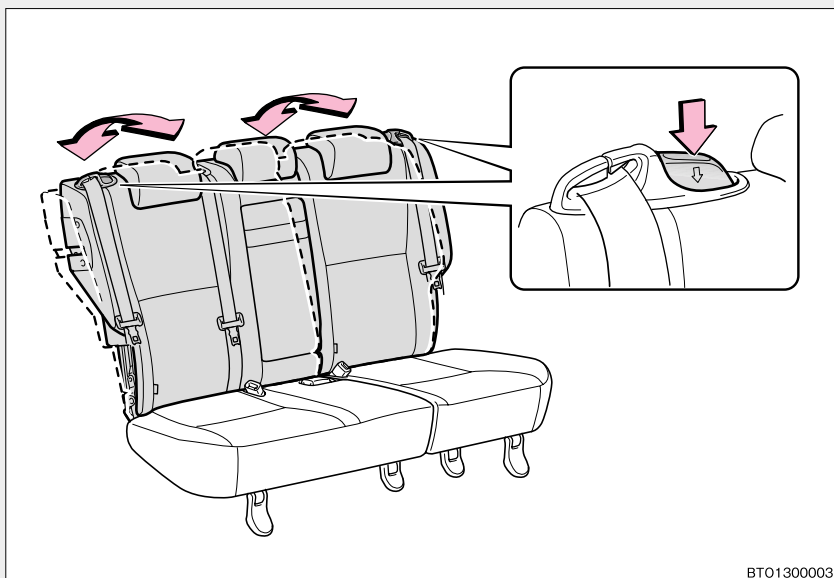
警告

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた リヤシート

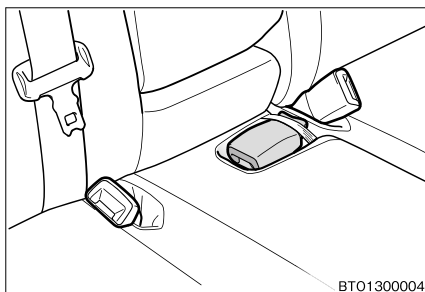


リクライニング調整

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

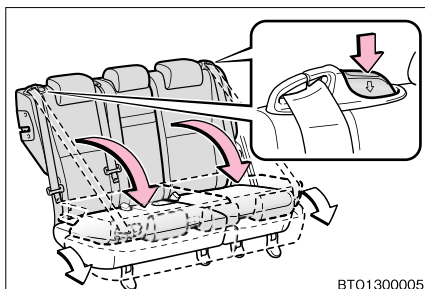
背もたれを前に倒す

■ 前に倒すまえに



リヤ中央バックルを格納する

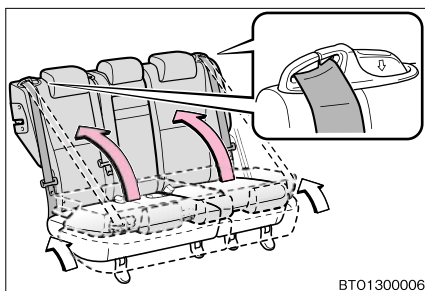
■ 前に倒すときは



ロック解除ボタンを押しながら、
背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタ
ンを下に押し込んでください。

■ 背もたれをもとの位置にもどすときは



背もたれを起こし、固定する

シートベルトがガイドに確実に通っ
ていることを確認してください。

⚠ 警告

■ 背もたれを前に倒すときは

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないように注意する

■ リクライニング調整について

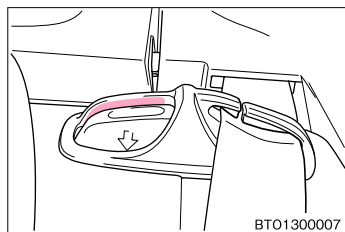
背もたれは必要以上に倒さないで下さい。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

以下のことを必ずお守りください。

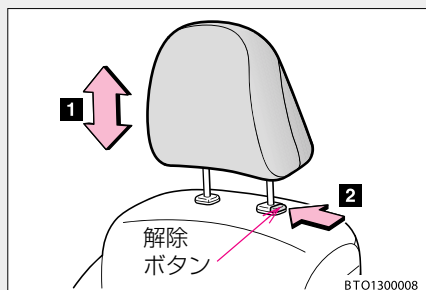
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、ロック解除ボタンの後方に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

- シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト



1 上下調整

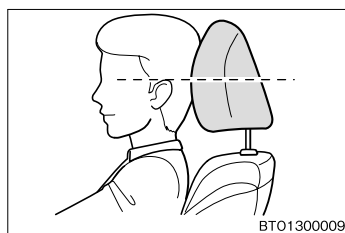
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

知識

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳の一番上の辺りになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。



警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

1

運転する前に

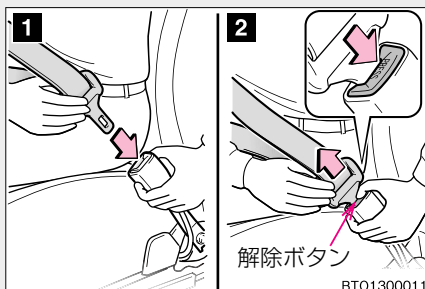
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



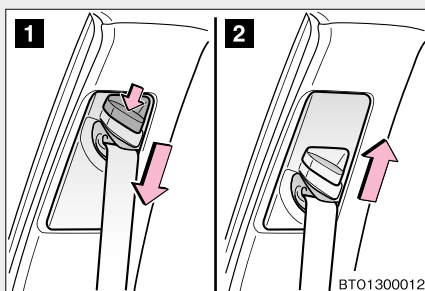
1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

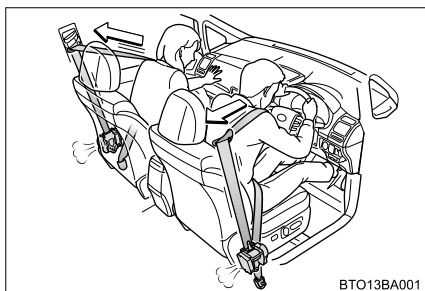


1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティ付き車のフロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き込み、プリテンショナーの効果を高めます。

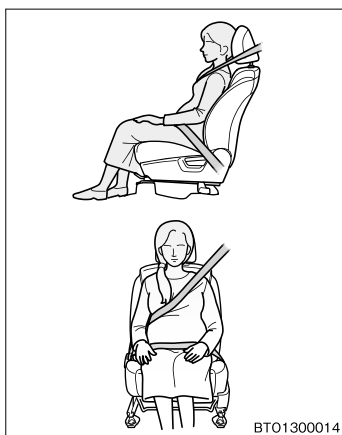
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 139)

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性や疾患のある方の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 47)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるとしてお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかると着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 74)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 47)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

 警告**■ シートベルトの損傷・故障について**

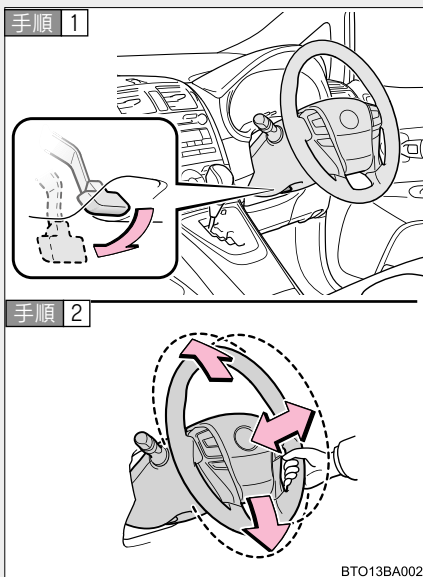
- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

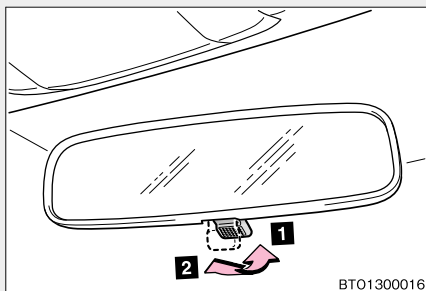
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



⚠ 警告

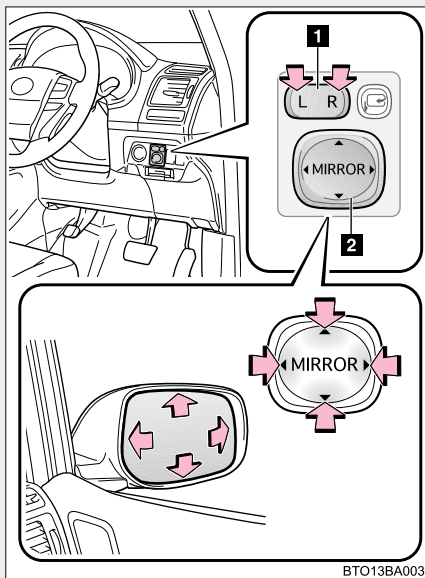
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

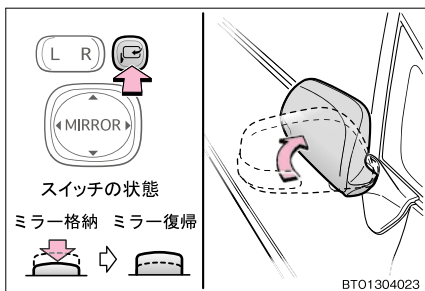
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。



- 1 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)
- 2 スイッチを操作してミラーを
上下左右方向に調整する

ドアミラーを格納するときは



ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

 知識

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 164）

■レインクリアリングミラー

- 雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。
- 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間当てると回復します。
 - ・ミラーの汚れを拭き取ったとき
 - ・ミラーが曇ったとき
 - ・自動洗車機でワックス洗車したとき
 - ・長時間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

 警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

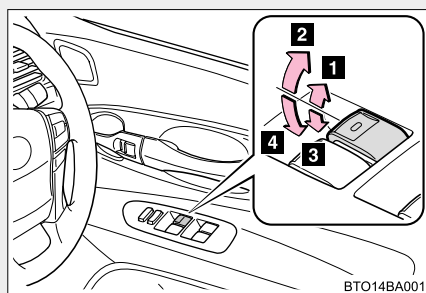
 注意

■ミラー鏡面が凍結したときは

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさず、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

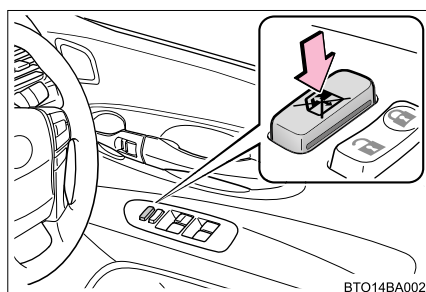
スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

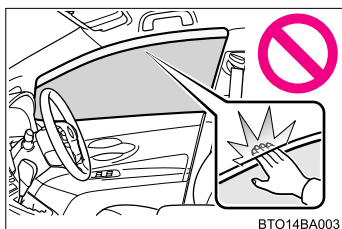
ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

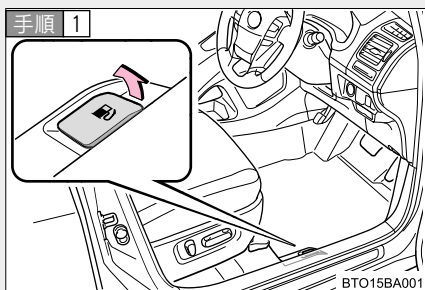
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

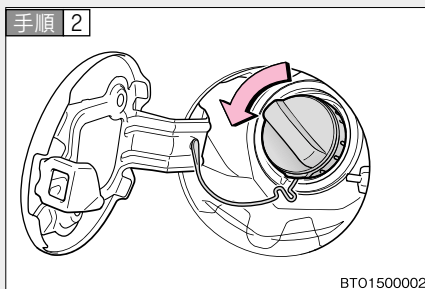
■ 給油する前に

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

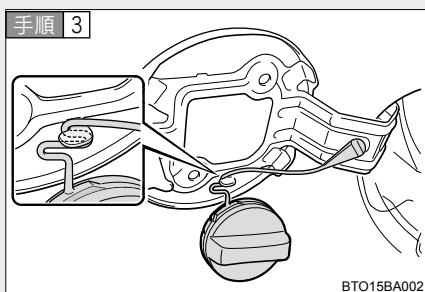
■ 給油口の開け方



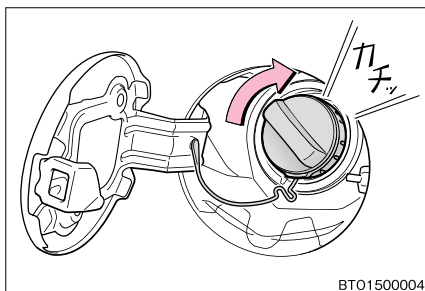
給油口を開ける



キャップをゆっくり回して開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識**■ 燃料の種類**

2AZ-FE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。この場合エンジン性能を十分発揮できません。

■ 燃料タンク容量

約 60 L

警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップを緩めたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをす
るおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

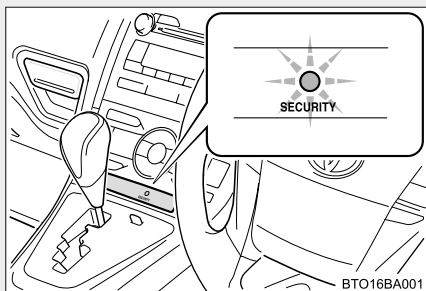
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

(インジケーターの意匠は、グレードや装備等により異なります。)

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

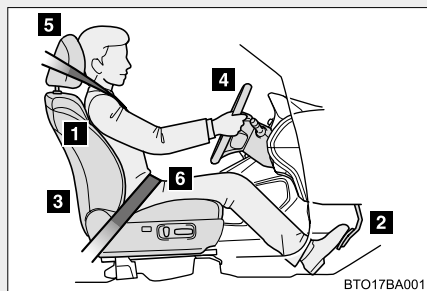
注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない (→ P. 40)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 40)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 52)
- 5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる (→ P. 45)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 47)

 警告

■ **走行中は**

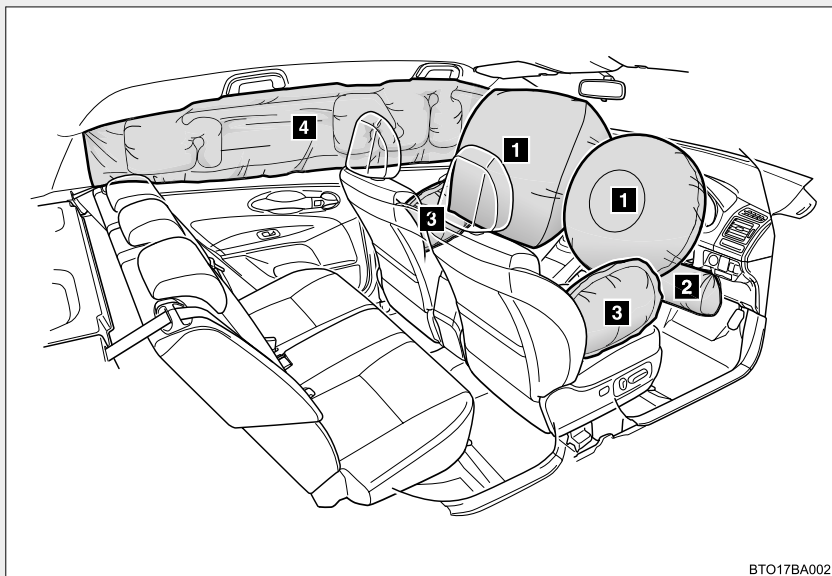
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ **シートを調整するときは**

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



BTO17BA002

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 運転席 SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリア外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)

 知識

■ **SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ **SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）**

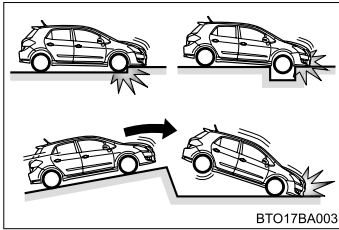
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ **SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）**

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき

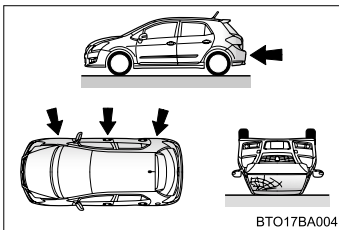
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRSエアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

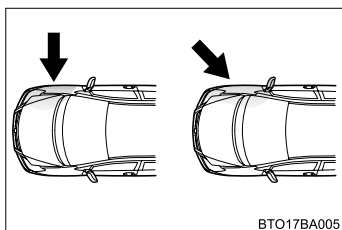


- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

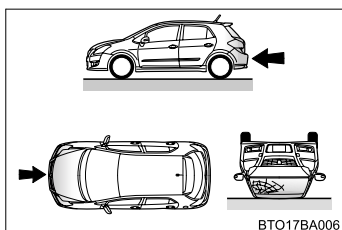
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



BTO17BA005

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。



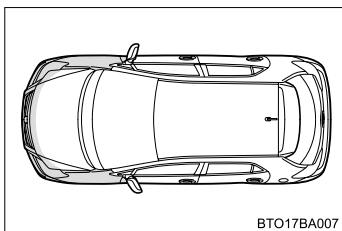
BTO17BA006

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

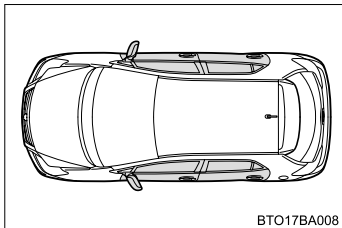
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。
トヨタ販売店に連絡する前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



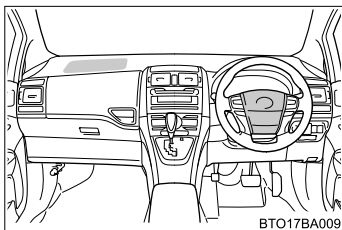
BTO17BA007

- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



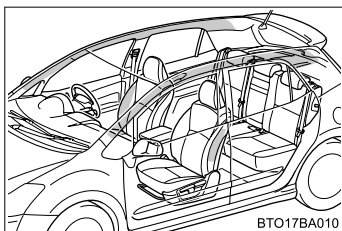
BTO17BA008

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



BTO17BA009

- ハンドルのパッド部分や助手席 SRS エアバッグ付近、運転席側インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



BTO17BA010

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤビラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

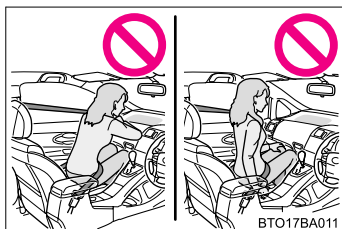
⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

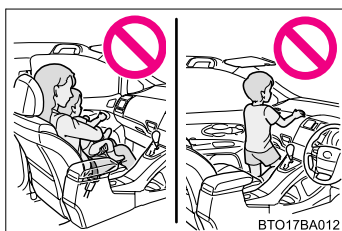
必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 74)



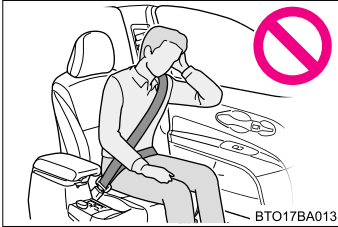
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

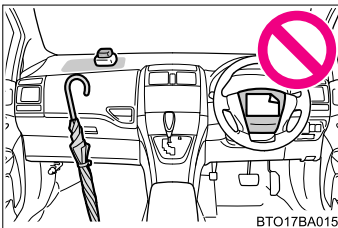
■ SRS エアバッグについて



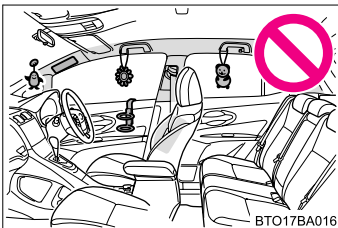
- ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。



- 助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、運転席側インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

 警告

■ **SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な障害または死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

 警告**■ 改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

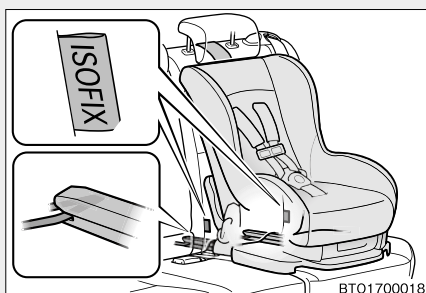
1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

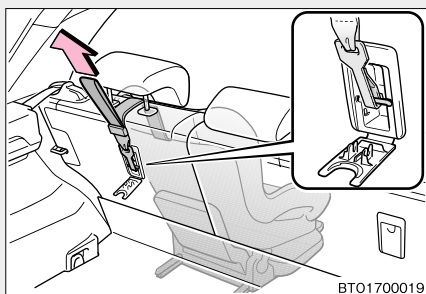


シートベルトによる取り付け
(→ P. 75)



ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー (→ P. 76)

リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

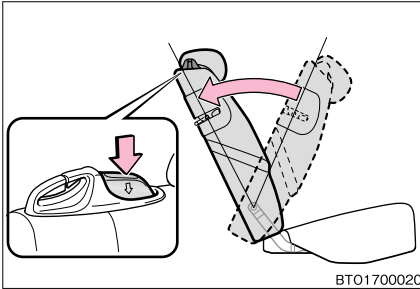


トップテザーアンカー
(→ P. 77)

テザーベルトを固定するときに使います。

トップテザーアンカーはリヤシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

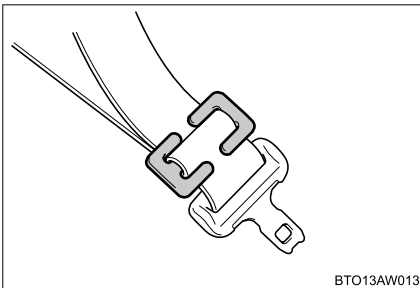


ロック解除ボタンを押しながら、背もたれを一度前方に倒す。背もたれを立てて1段目の固定位置で固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



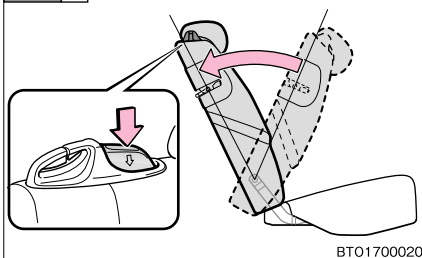
チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

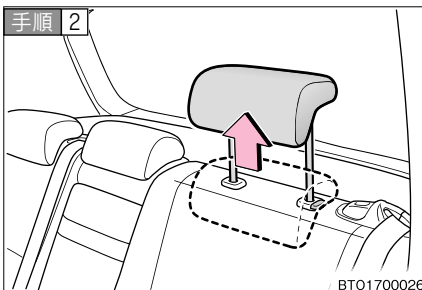
手順 1



BT01700020

解除ボタンを押しながら、背もたれを一度前方に倒す。背もたれを立てて1段目の固定位置で固定する

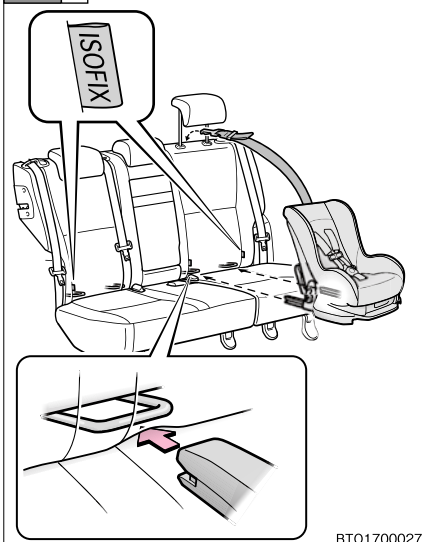
手順 2



BT01700026

ヘッドレストを一番上まで上げる

手順 3



BT01700027

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

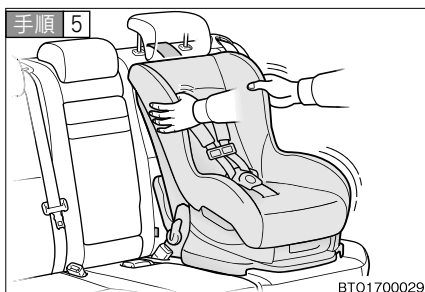
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書に従ってください。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ **チャイルドシートについて**

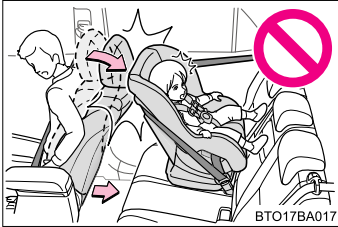
- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **チャイルドシートを取り付けるときは**

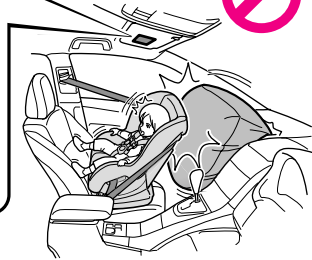
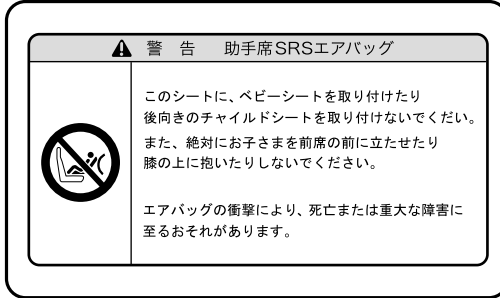
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

警告

■チャイルドシートについて



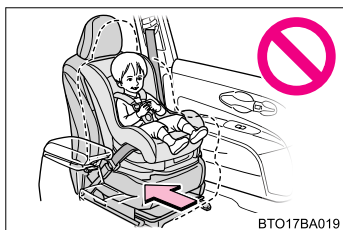
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席にはチャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを一番後ろに下げて取り付けてください。

助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートを取り付けてください（→P. 75,76）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	82
エンジン（イグニッション） スイッチ	91
オートマチック トランスミッション	94
方向指示レバー	100
パーキングブレーキ	101
ホーン（警音器）	102

2-2. メーターの見方

計器類	103
表示灯／警告灯	105
マルチインフォメーション ディスプレイ	108

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	114
フロントフォグライト スイッチ	117
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	118
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	120

2-4. その他の走行装置の 使い方

4WD オートモード スイッチ	122
レーダークルーズ コントロール	123
運転を補助する装置	133
ヒルスタートアシスト コントロール	137
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	139

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	145
寒冷時の運転	147

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける (→P. 91)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 94)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 101)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする (→P. 94)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 101)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 94)

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてエンジンを止める

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→P. 137)

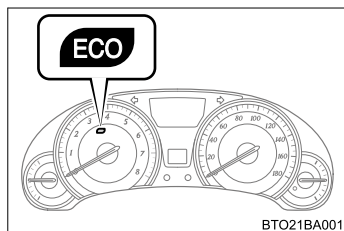
■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなった
りするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境にやさしい運転をするには



エコドライブインジケーターランプが点灯すると環境にやさしい運転をしていることをお知らせします。

必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。(D ポジションで走行時に作動します。ただし、パドルシフト装着車は、パドルシフト使用時作動しません。)

■販売店で設定可能な機能

エコドライブインジケーターの ON / OFF を変更できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 306)

 警告

■ **発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ **運転するときは**

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

● 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

● 走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。

 警告**■運転するときは**

- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はエンジンを切らないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 94)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ 駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

 警告

■ **排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ **仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ **ブレーキをかけるときは**

- 万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 警告**■ 万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転中は**

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

 注意

■ **走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。(→P. 276)

■ **冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

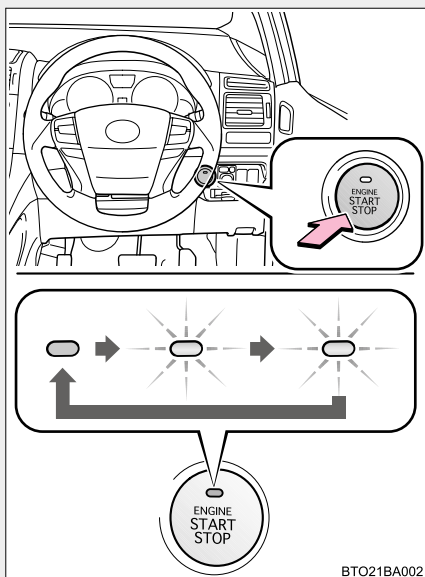
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー (4WD 車)、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (4WD 車)、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切りかえることができます。

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切りかえ
ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）



1 OFF

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

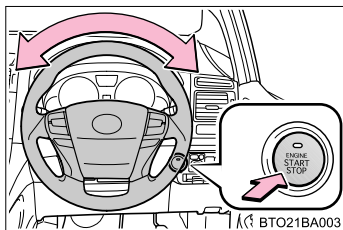
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
どのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■ステアリングロックを解除するには



ステアリングを左右に動かしながら、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 62)

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 20 秒間保持します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 26

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 287

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

■ご注意くださいこと

→P. 27

**警告**

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3秒以上“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**注意**

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

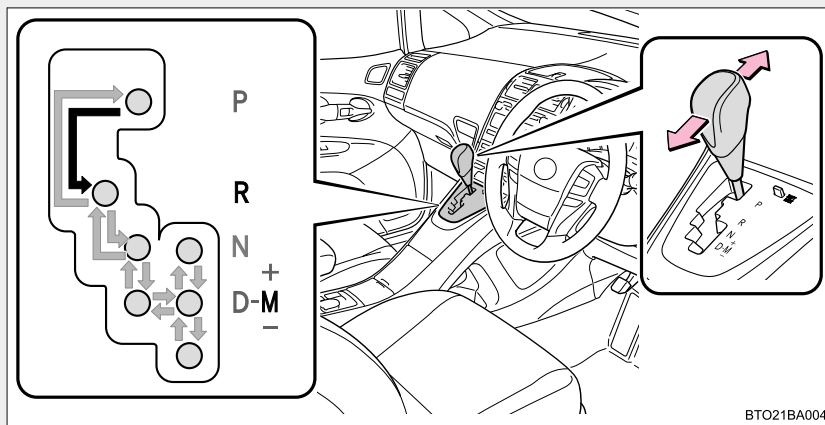
■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



BTO21BA004

← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

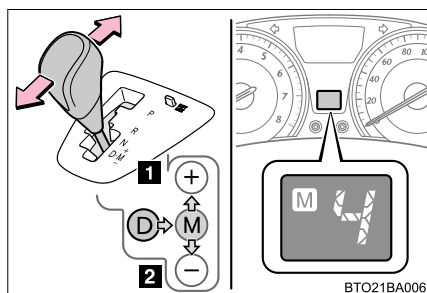
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2AZ-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M	7速スポーツ シーケンシャルシフト マチックモード走行 (→P. 95)	6速スポーツダイレクト シフトモード走行 (→P. 96)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでのシフト切りかえ

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。
(2AZ-FE エンジン搭載車)



1 シフトアップ

2 シフトダウン

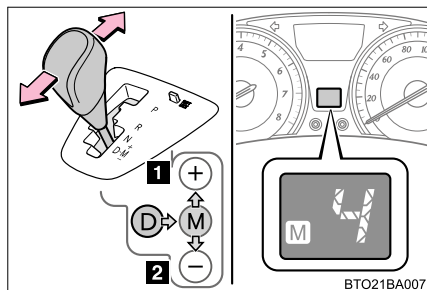
シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

6 速スポーツダイレクトシフトモードでのシフト切りかえ

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーまたはパドルシフトを操作します。(2GR-FE エンジン搭載車)

▶ シフトレバー



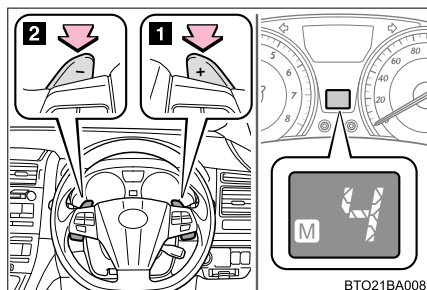
1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 6 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

▶ パドルシフト



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 6 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

M ポジションへ操作したときの初期シフトは、D ポジション走行時のギヤ段に設定されます。

M ポジションでは車速が低下した場合（シフトダウンのみ）を除いてシフトレバーまたは、パドルシフトを操作しない限り変速しません。

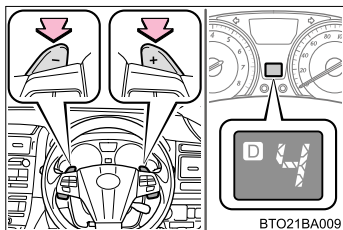
知識

■ 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について (2AZ-FE エンジン搭載車)

- ・ エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- ・ エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

知識

■ 坂道を走行中などに一時的にシフトダウンするときは(Dポジションでのレンジ選択)(2GR-FE エンジン搭載車)



シフトレバーが D の位置で走行中に、パドルシフトのシフトダウン側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキを切りかえることができます。

- シフトポジション表示灯に D が点灯し、レンジが表示されます。
- パドルシフトにより、レンジを切りかえることができます。
- D ポジションでのレンジ選択制御は以下の状態になると解除されます。
 - ・ 4 レンジ以上で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けた
 - ・ パドルシフトのシフトアップ側を一定時間以上押し続けた
 - ・ 車両停止状態

■ シフトダウン制限警告ブザー

(7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードまたは、6 速スポーツダイレクトシフトモードで走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバー（パドルシフト）を操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 285

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき
(レーダークルーズコントロール装着車)

D ポジションでのレンジ選択走行中に 5 または 4 レンジヘダウンしてもエンジンプレーキは効きません。

■ シフトレバーを M にしても、シフトポジション表示灯の M が点灯しないときは

- イグニッション ON モードに切りかえてから数秒間はシステムチェックを実施します。システムチェック終了前にシフトレバーを M ポジションにしても、6 速スポーツダイレクトシフトモードには切りかわりません。
この場合は、しばらくしてから再度操作してください。
- 上記以外の場合はシステム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ M ポジションで走行中に停車したときは
(7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードまたは、6 速スポーツダイレクトシフトモードで走行時)

- ・ 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- ・ 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- ・ 停止後は M1 に固定されます。(2GR-FE エンジン搭載車)

■ NAVI・AI-SHIFT について

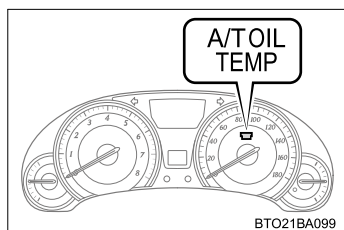
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■ AI-SHIFT について (2GR-FE エンジン搭載車)

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを M にすると、機能が解除されます。)

■ オートマチックトランスミッション油温警告灯が点灯したときは
(2GR-FE エンジン搭載車)



走行中にオートマチックトランスミッション油温警告灯が点灯したときは、Dポジションの通常走行に切りかえたうえでアクセルをゆるめ、車速を落としてください。

安全な場所に車両を停止させ、シフトレバーをPポジションに操作して、警告灯が消灯するまでアイドリング状態にしてください。

消灯後、再び走行することができます。

しばらくしても消灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

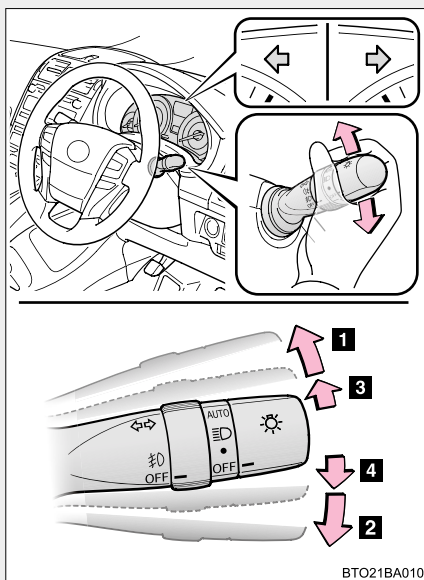
警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた

方向指示レバー



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯
が点滅します。

4 右側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯
が点滅します。

知識

■ 作動条件

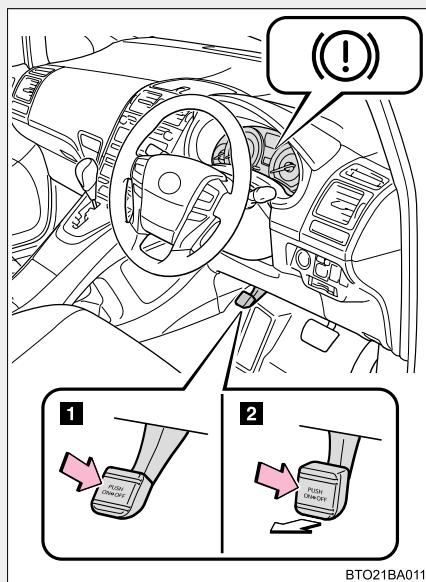
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 147）の記載を参照してください。

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 268

注意

■ 走行前の注意

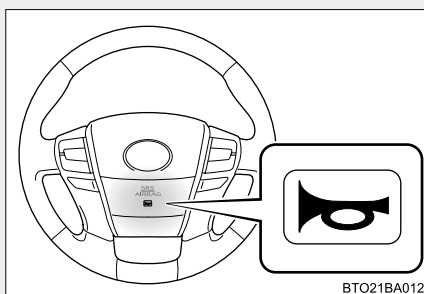
パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

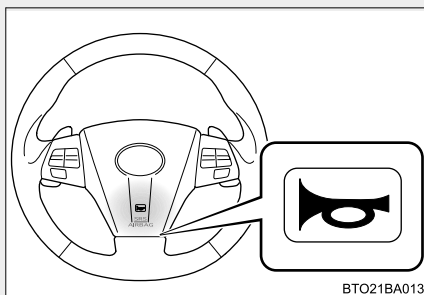
ホーン（警音器）

▶ 4 本スポークステアリング装着車



ハンドルの周辺を押すとホーンが鳴ります。

▶ 3 本スポークステアリング装着車

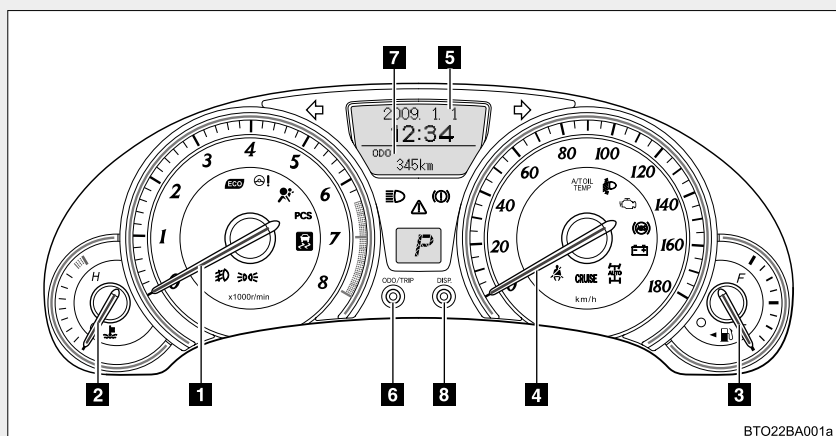


知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 52）



BTO22BA001a

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 108

6 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面の切りかえができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が 0 にもどります。

7 オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整画面

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整画面

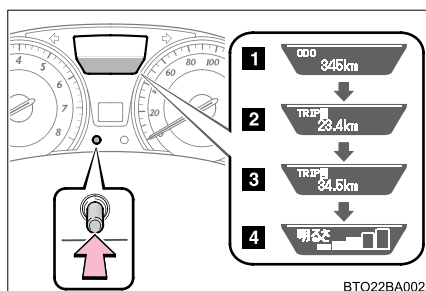
メーター照度の明るさを調整できます。

8 DISP ボタン

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえます。

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに以下のように切りかわります。



1 オドメーター

2 トリップメーター A ※ 1

3 トリップメーター B ※ 1

4 メーター照度調整画面※ 2 (車幅灯点灯時、表示されます。)

※ 1 長押しで 0 にもどります。

※ 2 長押しで照度を調整できます。

⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

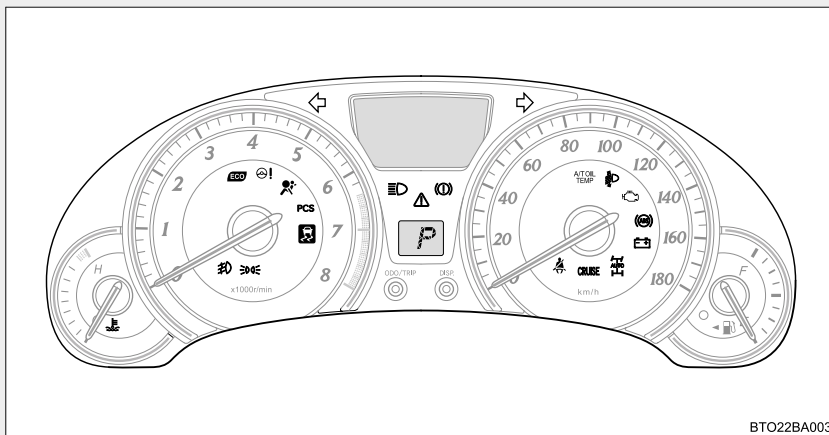
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンにはいったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 292）

2-2. メーターの見方

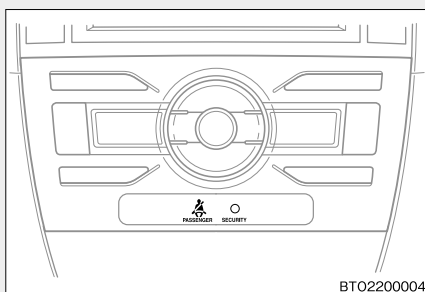
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ センターパネル



※：インジケーターの意匠は、グレードや装備等により異なります。

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→P. 100)		※ 4WD オートモード 表示灯* (→P. 122)
	尾灯表示灯 (→P. 114)		※ スリップ表示灯 (→P. 134)
	ヘッドライト 上向き表示灯 (→P. 114)		フロントフォグライト 表示灯 (→P. 117)
	※ エコドライブ インジケーターランプ (→P. 83)		
	クルーズコントロール 表示灯* (→P. 123)		

シフトポジション表示灯 (→P. 94)

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 260)

	※ 	※ 	※ 	※ 	※ 
	※ 	※ ※ 		※ ※ 	※ ※ 
			PASSENGER		A/T OIL TEMP

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

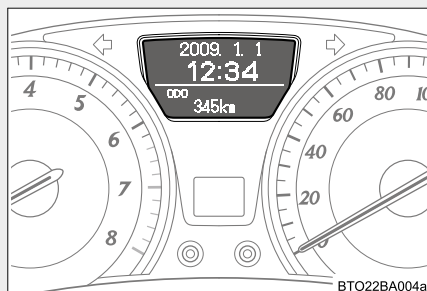
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバックなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

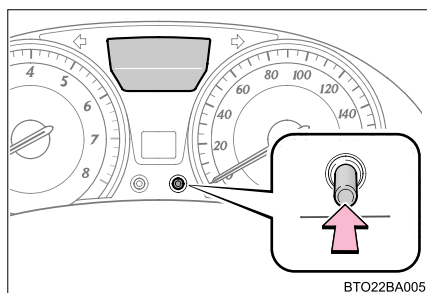
マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。



- 外気温表示 (→P. 109)
外気温を表示します。
- 時計表示 (→P. 109)
時刻を表示します。
- 日付表示 (→P. 109)
日付を表示します。
- トリップインフォメーション (→P. 109)
航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。
- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 123)
レーダークルーズコントロール使用時に表示されます。
- 警告メッセージ (→P. 264)
各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

画面切りかえ



画面を切りかえるには、DISP ボタンを押します。

ステアリングのDISPスイッチを押して操作することもできます。

● 日付、時計



現在の日付と時刻を表示します。

時計表示中に DISP ボタンを長押しすると時計が点滅します。この状態で DISP ボタンを長押しすると「リセットしました」と表示され「分」を 00 にすることができます。

・時報と同時に DISP ボタンを長押しすると正時に合わせることができます。

(例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00

● 外気温



外気温を表示します。

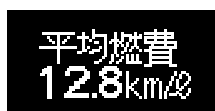
－ 40℃～ 50℃の間で表示します。

● 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

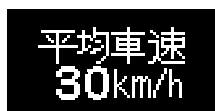
● 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

● 平均車速



リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 走行時間

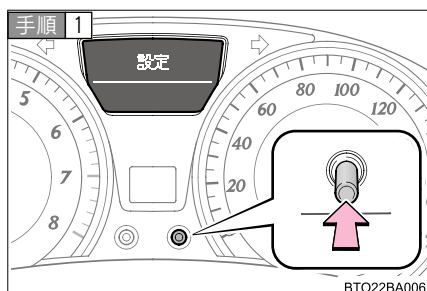


リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

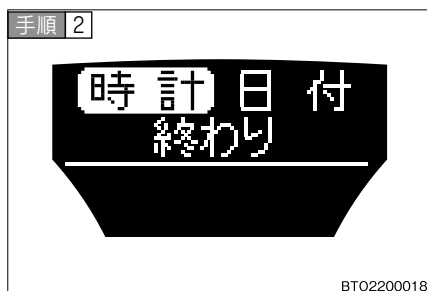
時計 / 日付の設定変更

■ 設定画面の選択



停車した状態で、DISP ボタンを押して設定画面を表示させ、DISP ボタンを長押しする

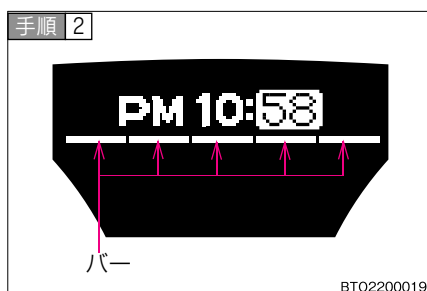
ステアリングのDISPスイッチを押して操作することもできます。



メニュー画面で項目を選択し、DISP ボタンを長押しする

● 時刻設定

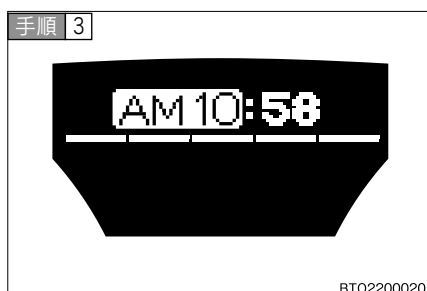
手順 1 メニュー画面で“時計”を選択し、DISP ボタンを長押しする



DISP ボタンを押して“分”を調整する

5 秒経過すると決定します。

5 本のバーが秒数を表しており、1 秒経過するたびに 1 本消えます。



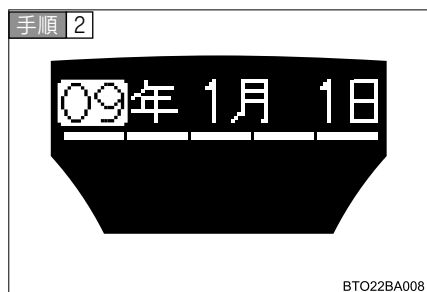
DISP ボタンを押して“時”を調整する

5 秒経過すると決定します。

5 本のバーが秒数を表しており、1 秒経過するたびに 1 本消えます。

● 日付設定

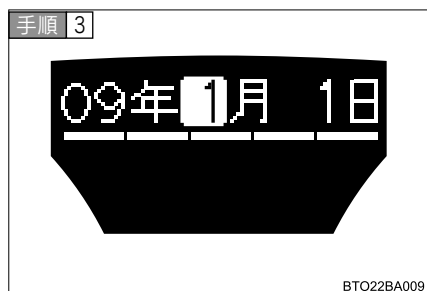
手順 1 メニュー画面で“日付”を選択し、DISP ボタンを長押しする



希望の数値になるまで DISP ボタンを押して“年”を調整する

5 秒経過すると決定します。

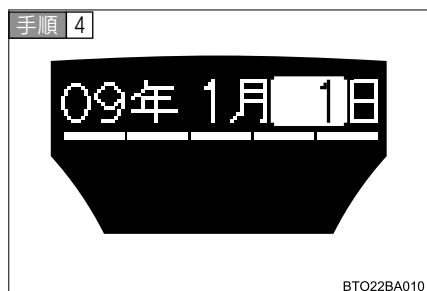
5 本のバーが秒数を表しており、1 秒経過するたびに 1 本消えます。



希望の数値になるまで DISP ボタンを押して“月”を調整する

5 秒経過すると決定します。

5 本のバーが秒数を表しており、1 秒経過するたびに 1 本消えます。



希望の数値になるまで DISP ボタンを押して“日”を調整する

5 秒経過すると決定します。

5 本のバーが秒数を表しており、1 秒経過するたびに 1 本消えます。

 知識**■ システムチェック表示**

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため以下の表示になります。チェックが終わると通常の画面表示にもどります。

- ・ チェック中 V S C (FF < 前輪駆動 >)
- ・ チェック中 V S C 4WD (4WD < 4 輪駆動 >)

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、以下のデータはリセットされます。

- ・ 日付、時計
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 平均車速
- ・ 走行時間

■ 外気温度表示について

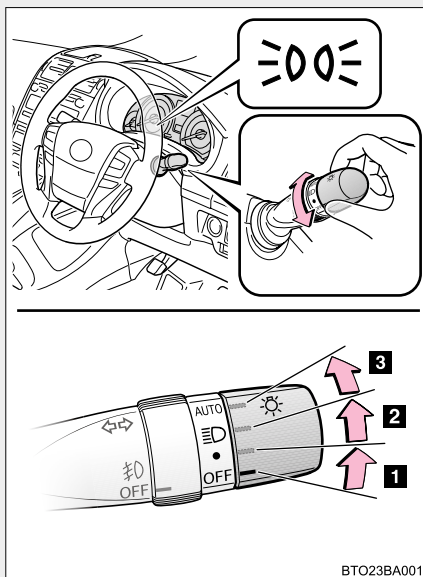
次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20Km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

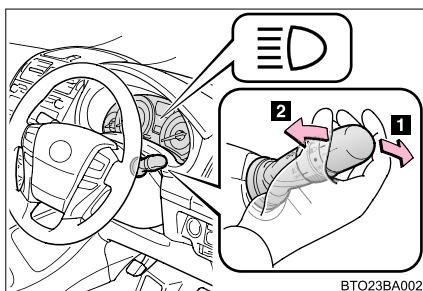
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯
 - 2 上記ライトとヘッドライトを点灯
 - 3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

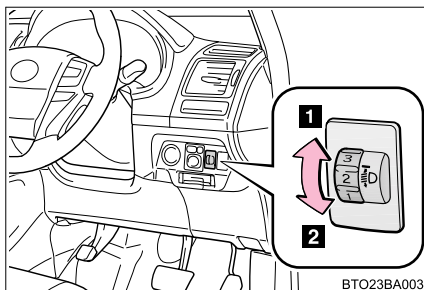
ハイビームにする



- 1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

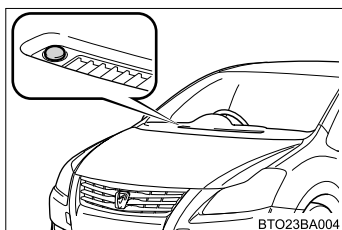
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF (前輪駆動)	4WD (4 輪駆動)
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0.5	0.5
全乗員	なし	2	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2	2
運転者	ラゲージルーム 満載時	3	3

知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度

- または  の位置にします。

■ ライト消し忘れ警告ブザー

ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF のときに働きます。
- ライトスイッチが ● または  の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■ オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

（カスタマイズ一覧 →P. 306）

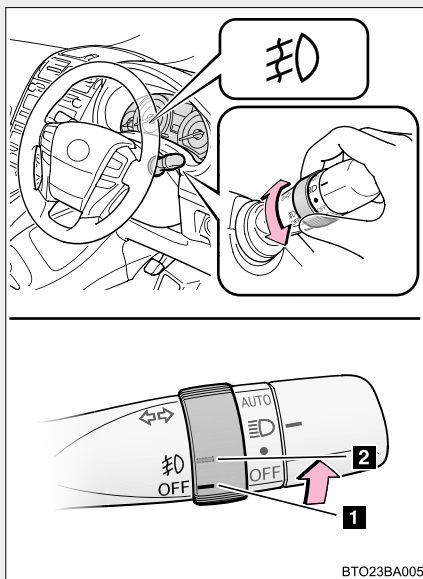
注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フロントフォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。



1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

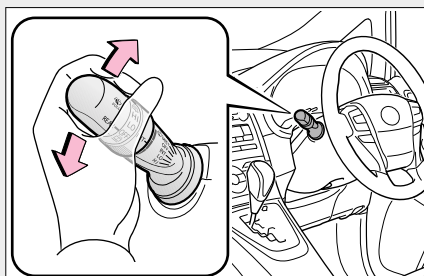
知識

■ 点灯条件

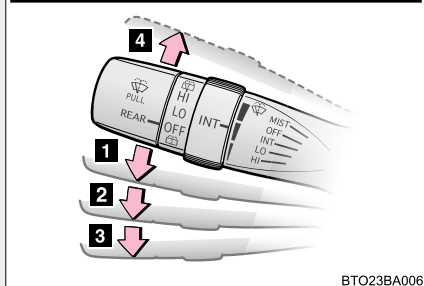
ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

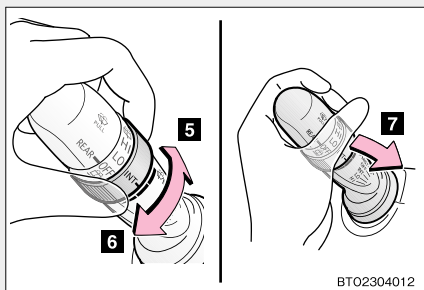
INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。



- 1** 間欠作動（INT）
- 2** 低速作動（LO）
- 3** 高速作動（HI）
- 4** 一時作動（MIST）



BTO23BA006



BT02304012

- 5** 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- 6** 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- 7** ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意

■ 窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

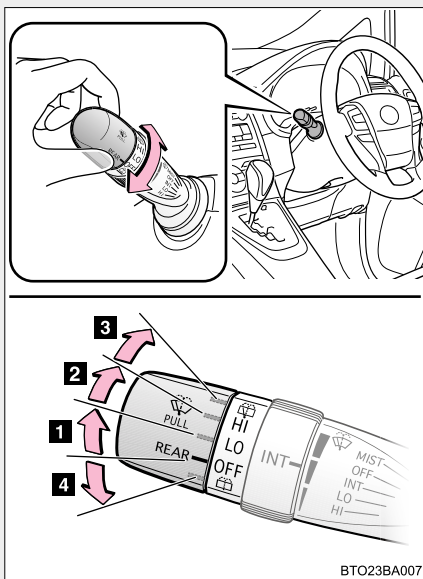
■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（リヤ）



- 1 間欠作動（LO）
- 2 通常作動（HI）
- 3 ウォッシャー液を出す
- 4 ウォッシャー液を出す

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**注意****■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

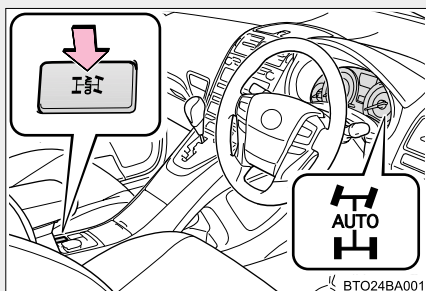
ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモードスイッチ*

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて F F（前輪駆動）走行と 4 W D（4 輪駆動）走行を自動的に切りかえます。



4WD オートモードを使用する

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。

知識

■ 4WD オートモード表示灯について

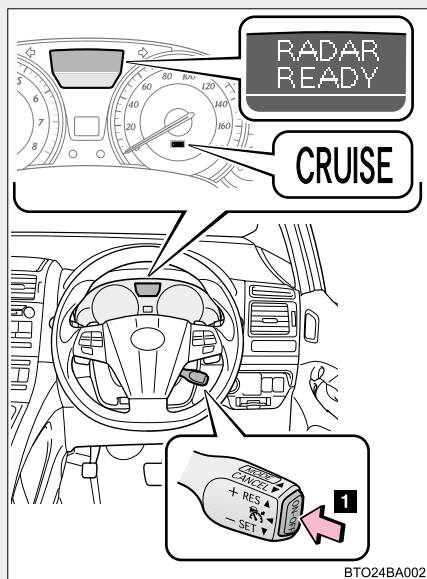
- 4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。
 - ・ 表示灯が消灯するまで車速を落とす。
 - ・ 表示灯が消灯するまで停車する。（エンジンは停止しない）
- 4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

レーダークルーズコントロール*

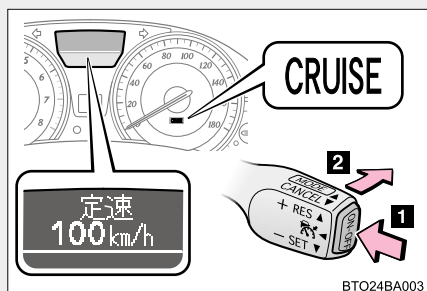
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

■ 制御モードを選択する



車間制御モードを選択する

- 1 メインスイッチを ON にする
OFF には再びスイッチを押します。



定速制御モードを選択する

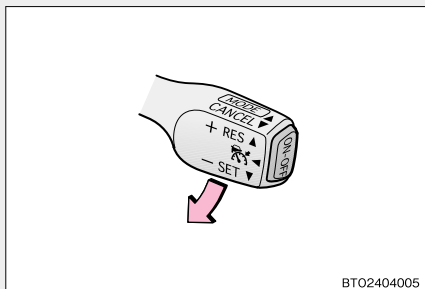
- 1 メインスイッチを ON にする
- 2 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間長押し)

OFF には再びスイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

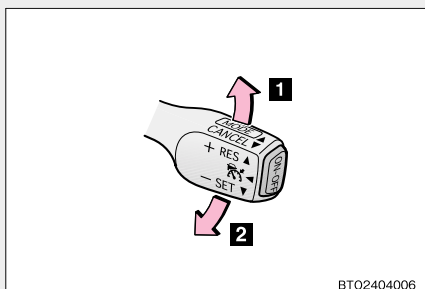
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

■ 設定速度を変えるには



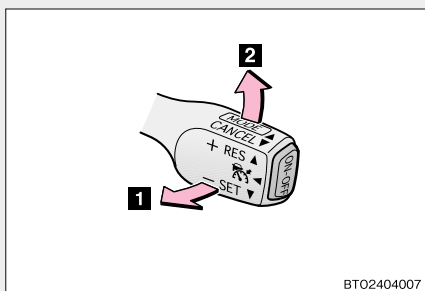
1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

制御中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

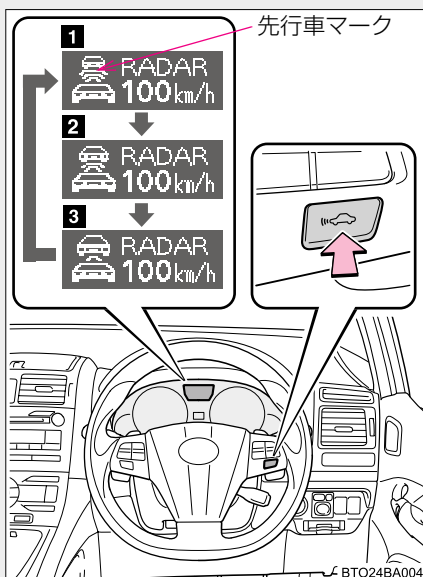
レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切りかえる

1 長い

2 中間

3 短い

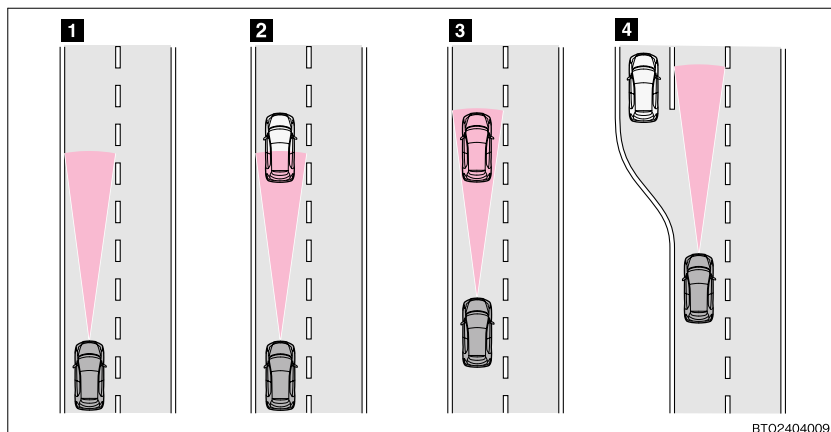
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードになるたびに**1**に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行（先行車がないとき）：

100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：

100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 270）を鳴らします。

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：

100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：

100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

 知識**■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示・警報**

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示、警報で注意をうながします。(→P. 264)

■設定条件について

- シフトレバーがDまたは、パドルシフト操作時のD4～D6のとき設定できます。(→P. 97)
- 車速は約 50 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

- 車速が 40 km/h 以下になった
- VSC が働いた
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h 以下になった
- VSC が働いた

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 125) (車速 80 km/h で走行している場合)

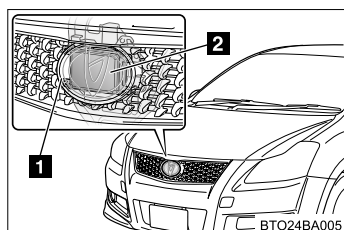
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

 警告**■ システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

 警告

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき
- 車両けん引時

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 270）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の車両の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動の妨げになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。

センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付ける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

 警告

■ **レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に前輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面における、発進時のアクセルペダル・ブレーキペダルの操作を補助します。→P. 137

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

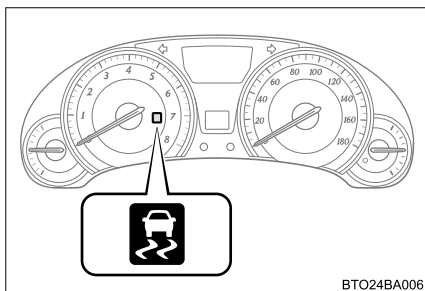
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 139

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

知識

■ABS、BA、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、オーバーヒート为了避免のため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を抑えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる時

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を抑えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。



■ **タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 304）

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC、TRC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度)その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- 以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
 - ・ シフトレバーが P 以外の位置のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっていないとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- マルチインフォメーションディスプレイに V S C チェックが表示されているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。(シフトレバーが R の位置以外)
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。(シフトレバーが R の位置以外)
 - ・ ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・ シフトレバーを P の位置にしたとき
 - ・ パーキンブレーキをかけたとき
 - ・ ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
- シフトレバーが R の位置での使用は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始、終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅、消灯で作動状態をお知らせします。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の障害物と衝突が避けられないと感知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 48）

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いと判断したときブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

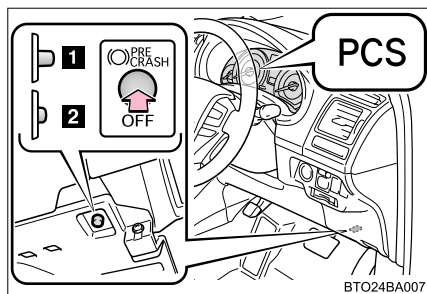
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切りかえ

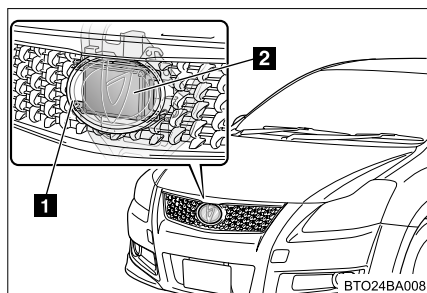
プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。



- 1 プリクラッシュブレーキ ON
- 2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

レーダーセンサー



走行中に進路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー

知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

 知識

■ システムの作動条件

- シートベルトの作動条件①
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
 - ・ 車速が約 5 km/h 以上
 - ・ 自車からみた対向車が障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
- シートベルトの作動条件②
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 急ブレーキや、車両の横すべりを判断したとき
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトを着けている
- ブレーキアシストへの作動条件：
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
 - ・ ブレーキペダルが踏まれているとき
- ブレーキへの作動条件：
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
 - ・ 自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されてない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれ違ったとき
- 細い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれ違ったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- E T C ゲートを通過するとき
- 歩道橋や高架下などを通過したとき
- 道路上の標識や案内看板などあったとき
- 車高が極端に変化している場合（ノーズアップ・ノーズダウン）
- ミリ波レーダーの軸ズレが発生しているとき
- 路面の勾配の為、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 260、264）

 警告**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 警告

■ **レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード
- ・ フタのない小物入れ / トレイ

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

 警告

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 304）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示に従ってください。

- ・ 安全に作業できる場所で行う
- ・ 前2輪に取り付ける
- ・ タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- ・ 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

 警告**■ タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

必ずブレイド指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。
上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

左右独立温度コントロールフル オートエアコン.....	152
フルオートエアコン.....	158
リヤウインドウデフォグガー （曇り取り）.....	164
フロントワイパー デアイサー	165

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類	166
ラジオの使い方	168
CD プレーヤーの使い方.....	171
MP3/WMA ディスクの 聞き方	176
快適に聞くために（メーカーオプ ションの CD プレーヤー、AM/ FM ラジオ装着車）.....	183
ステアリングスイッチ	185

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	188
-------------	-----

3-4. 収納装備の使い方

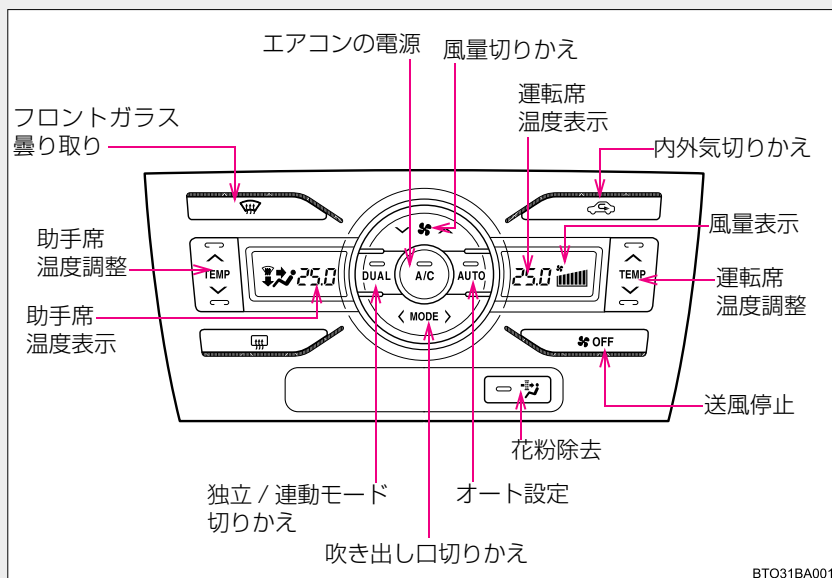
収納装備一覧.....	190
-------------	-----

3-5. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー.....	198
パニティミラー	199
アクセサリソケット	200
アームレスト.....	201
アシストグリップ& コートフック	202
フロアマット.....	203
ラゲージルーム内装備	204
快適温熱シートヒーター	207

左右独立温度コントロールフルオートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは  の△を、下げるときは▽を押す

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2  を押す

手順 3 運転席側は 、助手席側は  を押し、温度を調整する

再び  を押すと、連動モードになります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

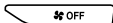
運転席側は 、助手席側は  を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の  を押すと独立モードに切りかわります。

■ 風量をかえるには

 の $\wedge$ (増) か $\vee$ (減) を押す

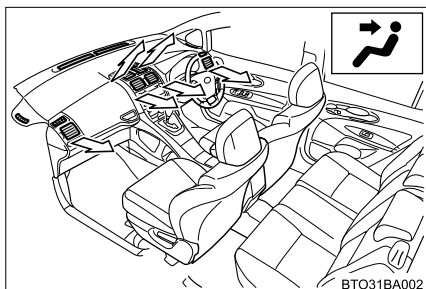
風量は7段階に調整できます。

送風を止めるときは  を押す

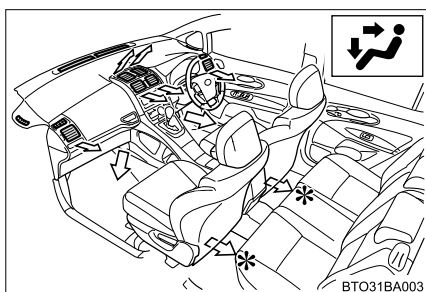
■ 吹き出し口を切りかえるには

 の < 側か > 側を押す

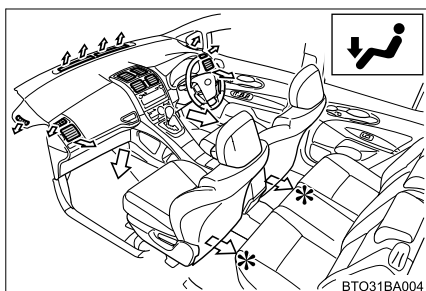
押すたびに吹き出し口が切りかわります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。



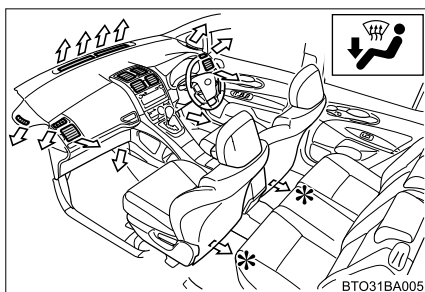
上半身に送風



上半身と足元に送風



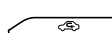
足元に送風

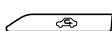


足元に送風・ガラスの曇りを取る

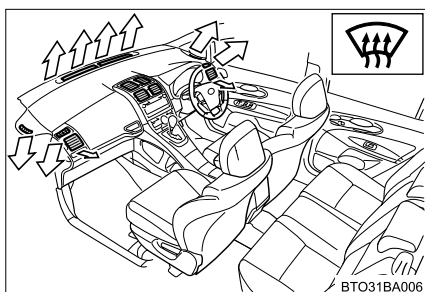
*一部車種のみ

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには



 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

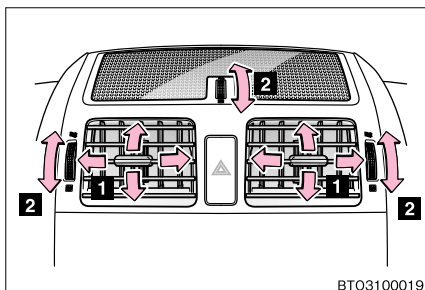
 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に（外気温が低いときは 約1分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度  を押すと前のモードにもどります。

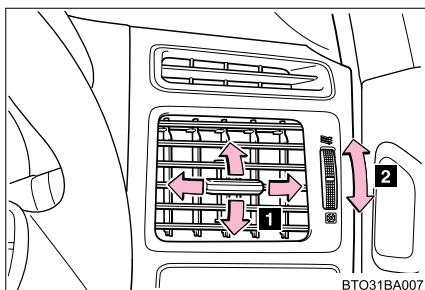
風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

知識

■ オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

-  を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

 知識

■ 外気温度が0℃以下のとき



を押してもエアコンは作動しません。

■ フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■ 花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

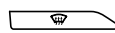
- 内気循環に切りかわらない
- エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

 警告

■ フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは  を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

 注意

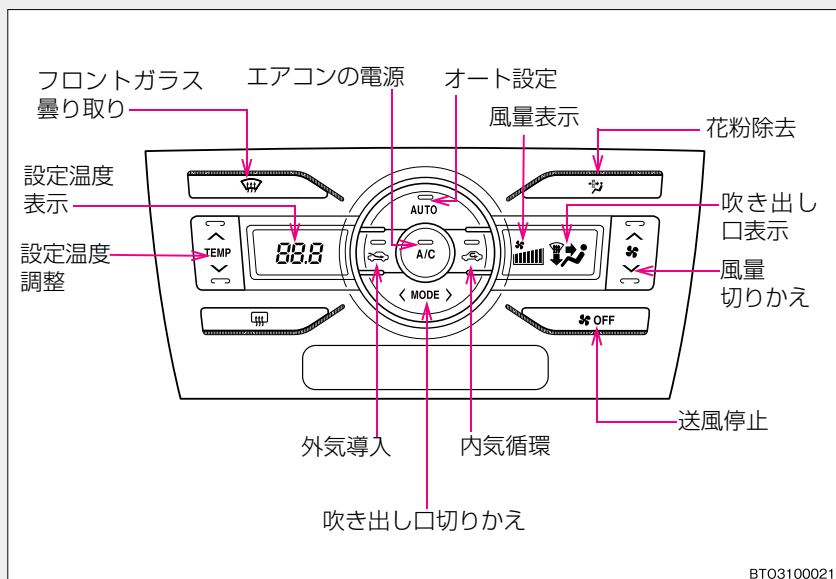
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は長時間エアコンを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

フルオートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは  の△を、下げるときは▽を押す

手順 3  を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには



を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは



の△を、下げるときは▽を押す

■ 風量をかえるには



の△（増）か▽（減）を押す

風量は7段階に調整できます。

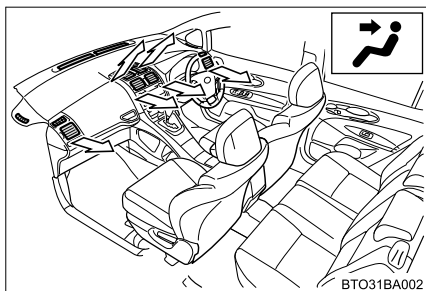
送風を止めるときは  を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

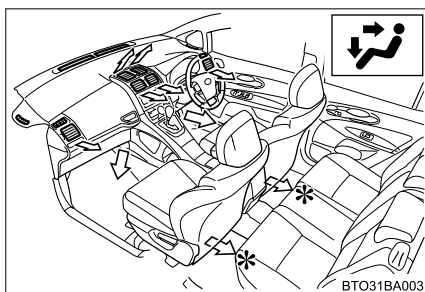


の＜側か＞側を押す

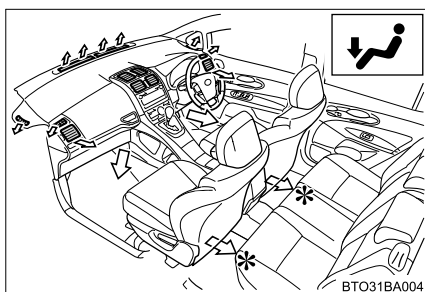
押すたびに吹き出し口が切りかわります。吹き出し口は以下の状態を示しています。



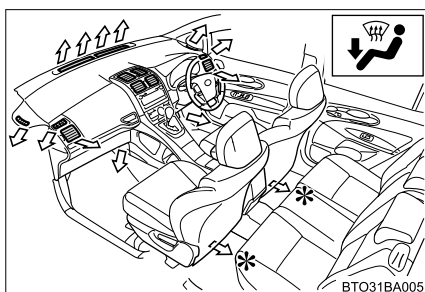
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



足元に送風・ガラスの曇りを取る

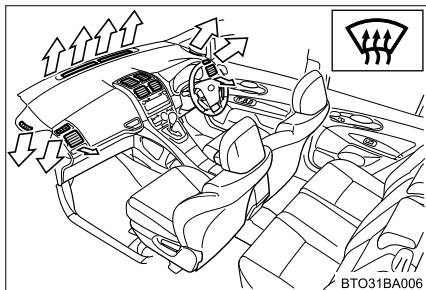
*一部車種のみ

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内気循環に切りかえるには、 を押す

外気導入に切りかえるには、 を押す

フロントガラスの曇りを取るには

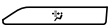


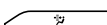
 を押す

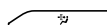
エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

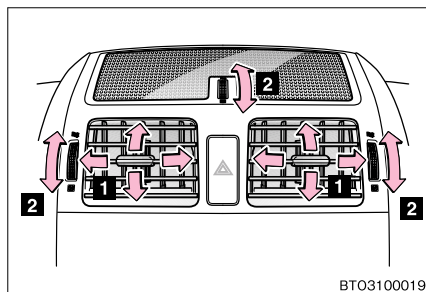
 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に（外気温が低いときは 約1分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度  を押すと前のモードにもどります。

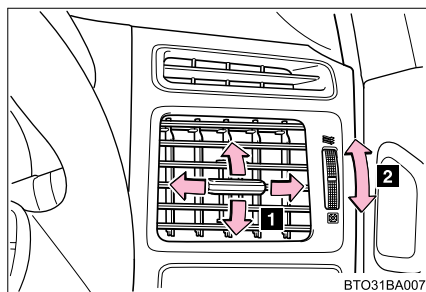
風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

知識

■ オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

-  を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

 知識

■ フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が0℃以下のとき



を押してもエアコンは作動しません。

■ 花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

- 内気循環に切りかわらない
- エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

 警告

■ フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

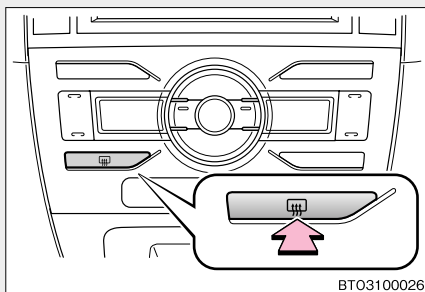
 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るにお使いください。



オン／オフ

リヤウインドウデフォグガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォグガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

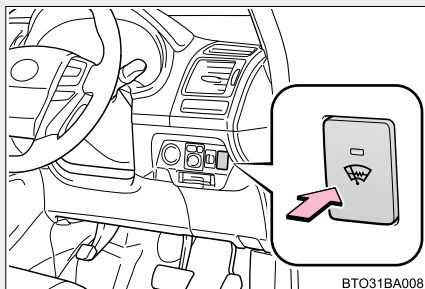
■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

フロントワイパーデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。



オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

警告

■ 作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

3

室内装備の使い方

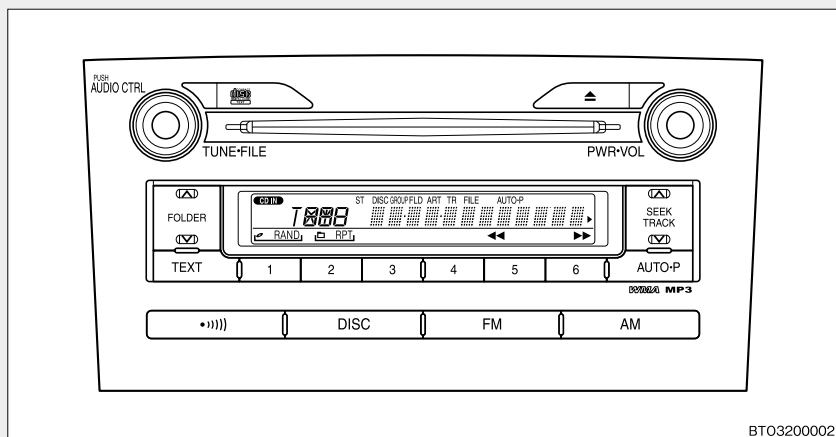
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ*



BTO3200002

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 168
CD プレーヤーの使い方	P. 171
MP 3 / WMA ディスクの聞き方	P. 176
快適に聞かために	P. 183
ステアリングスイッチ	P. 185

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえるときがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

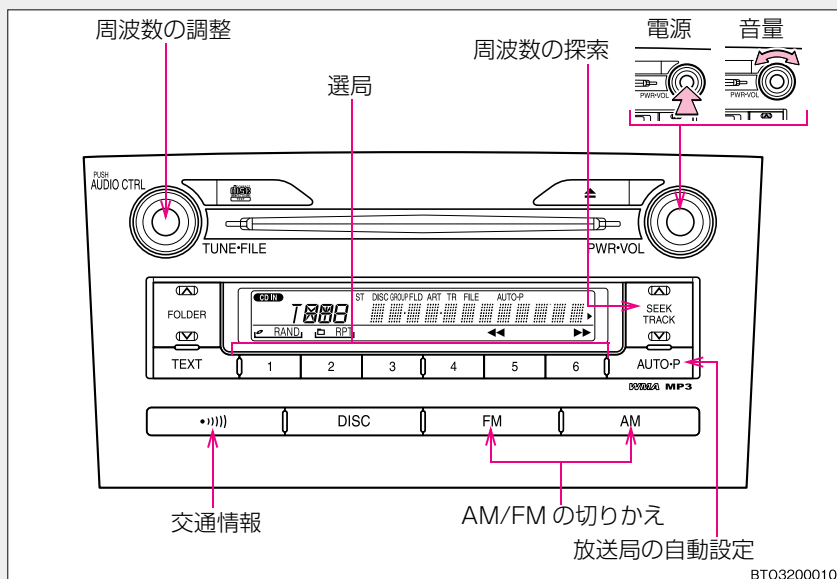
**注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■ オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオ*の使い方



放送局を記憶させる

■ 手動設定

- 手順 1**  を回して、または  の "Λ" (高い周波数) または "V" (低い周波数) を押して、お好みの放送局を探す
- 手順 2** 記憶させたいスイッチ 1 ~ 6 を "ピッ" と音が鳴るまで長押しする

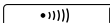
■ 自動設定

AUTO-P を "ピッ" と音が鳴るまで長押しする

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると "ピッピッ" と音が鳴ります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

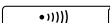
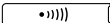
交通情報を受信する

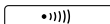
 を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ について

- 新車時は、1620kHz にセットしてあります。
- AMラジオモードのとき  を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を  に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

-  を押して、ラジオを受信しているときは、



 ~  ・  を操作しても、周波数は切りかわりません。

■ バッテリーとの接続が断たれたときは

 ~  に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

- アンテナの位置がそのときどきで変わるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。
-  を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。
- ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。アンテナは車両前方に倒して格納することができます。(→P. 210)

 注意

■ **自動洗車機にかけるときは**

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

■ **アンテナの損傷を防ぐために**

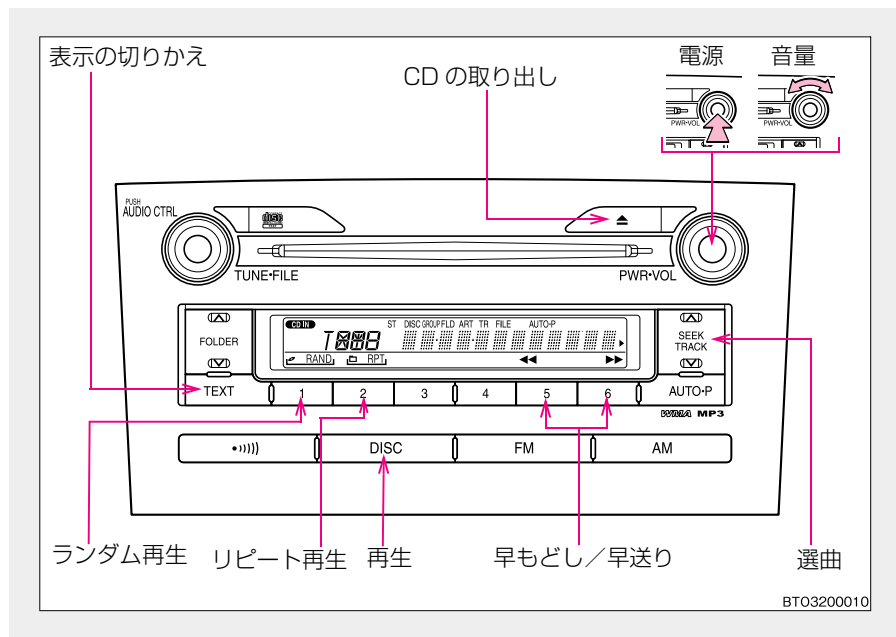
以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき

■ **洗車機などアンテナを取りはずしたときは**

アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

CD プレーヤー*の使い方



CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

 を押して CD を取り出す

曲を選ぶ



の "Λ" (次曲) または "V" (前曲) を押して聞きたい曲の番号を表示させる

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

早もどし、早送りする

早送りするには、 (◀◀) または (▶▶) を押し続ける

ランダム (RAND) 再生する

(RAND) を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

リピート (RPT) 再生する

(RPT) を押す

表示を切りかえる

を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名



知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合、 を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 (RAND) または (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。



■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

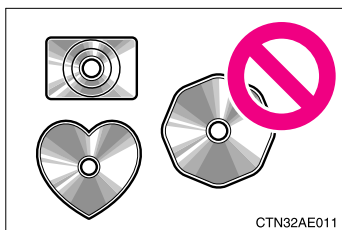
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

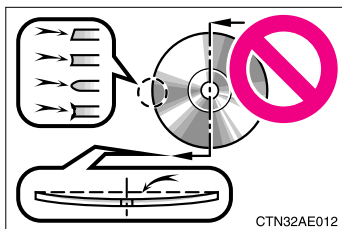
⚠ 注意

■ 使用できない CD、アダプター

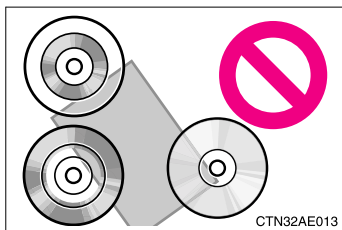
以下のようなCDや 8cm CD アダプター、Dual Discを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



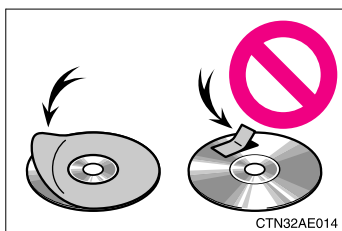
- 直径 12cm の円形以外の CD



- 低品質または変形している CD



- 記録部分が透明または半透明の CD

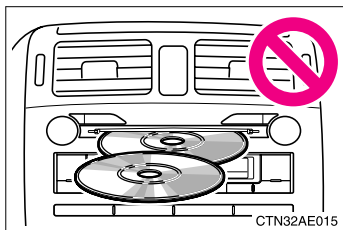


- セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

 注意**■ CD プレーヤーの取り扱いについて**

以下のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

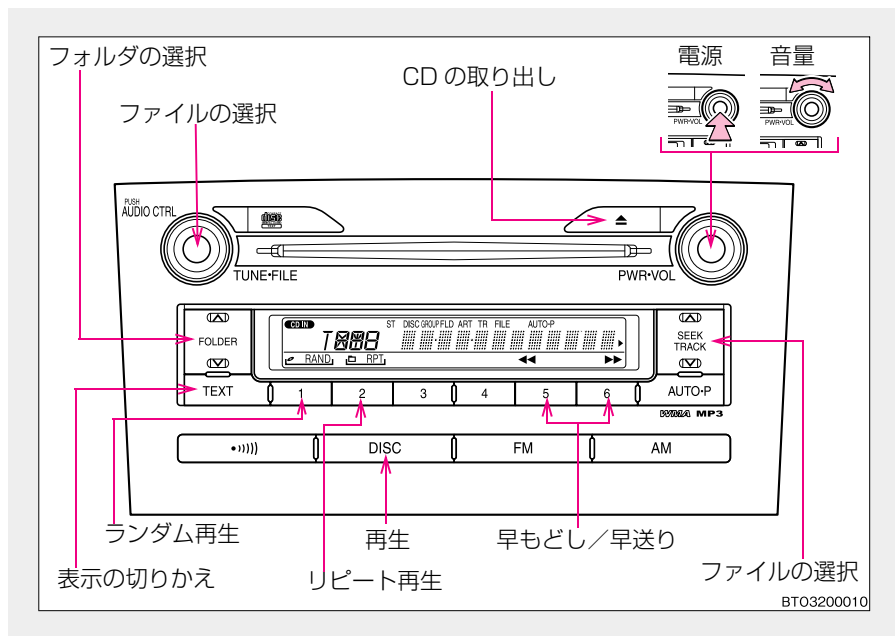
- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 変形したディスクを使用しない



- 一度に2枚以上のCDを挿入しない

3-2. オーディオの使い方

MP3/WMA ディスクの聞き方*



MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 171)

早もどし、早送りする

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 172)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる



の "Λ" (次フォルダ) または "V" (前フォルダ) を押して聞きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダにもどるには、"V" を "ピッ" と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する



を回して、または  の "Λ" (次ファイル) または "V" (前ファイル) を押して、聞きたいファイルを探す

ファイルを繰り返して再生する

 (RPT) を押す

フォルダを繰り返して再生する

 (RPT) を "ピッ" と音が鳴るまで押す

ランダム (RAND) 再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生するには

 (RAND) を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生するには

 (RAND) を "ピッ" と音が鳴るまで押す

表示を切りかえる

 を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル (MP3 のみ) → 曲名 → アーティスト名

知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合、 を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

 をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度  (RAND) または  (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■ 再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。



■ CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■ CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■ レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■ MP3/WMA ファイルについて

MP3 (MPEG Audio LAYER3) は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA (Window Media™ Audio) は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。

使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

● 再生可能な MP3 ファイルの規格について

- ・ 対応規格

MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)

- ・ 対応サンプリング周波数

MPEG1 LAYER3 : 32、44.1、48 (kHz)

MPEG2 LSF LAYER3 : 16、22.05、24 (kHz)

- ・ 対応ビットレート

MPEG1 LAYER3 : 64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)

MPEG2 LSF LAYER3 : 64、80、96、112、128、144、160 (kbps)

※ VBR に対応しています。

- ・ 対応チャンネルモード : ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

- ・ 対応規格
WMA Ver.7、8、9
- ・ 対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
- ・ 対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3/WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。

CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

- ・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
- ・ ファイルフォーマット：IS 09660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

- ・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
- ・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数：全角 16 文字（半角のみのときは 32 文字）
- ・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
- ・ ディスク内最大ファイル数：255

- ファイル名について
MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 ".MP3" または ".wma" がついたものだけです。
- マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。
- ID3 タグ /WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。
- MP3/WMA の再生について
MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは再生できません。
- 拡張子について
MP3/WMA 以外のファイルに ".MP3" または ".wma" の拡張子がついていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

- ・ 安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
- ・ CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
- ・ MP3/WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
- ・ ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

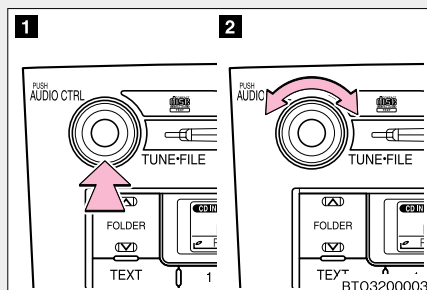


注意

- 使用できない CD、アダプター (→P. 174)
- CD プレーヤーの取り扱いについて (→P. 175)

3-2. オーディオの使い方

快適に聞かために（メーカーオプションのCDプレーヤー、AM/FMラジオ装着車）



1 ツマミを押してモードを表示させる

2 ダイヤルを回して以下の設定を変更する

- 音質と音量バランス（→P. 183）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

- オートマチックサウンドレベライザー（→P. 184）

設定を変更するには

■ 音質モードの切りかえ



を押すごとに次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質の調整



を回して音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオまたはCDプレーヤーそれぞれで調整できます。

■ オートマチックサウンドレベライザー（ASL）

音質モードが ASL のとき、 を右に回すと ASL が LOW → MID → HIGH になり、左に回すと ASL オフになります。

走行時の室内騒音量に応じて音質や音量を自動的に調整します。

3-2. オーディオの使い方

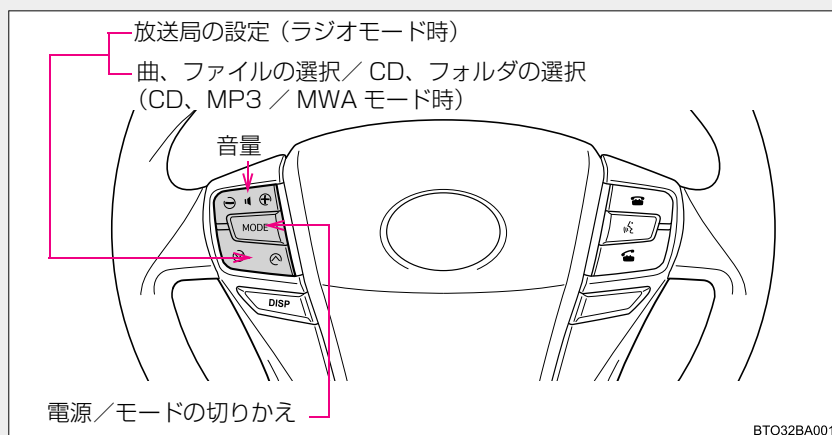
ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオなどを操作することができます。

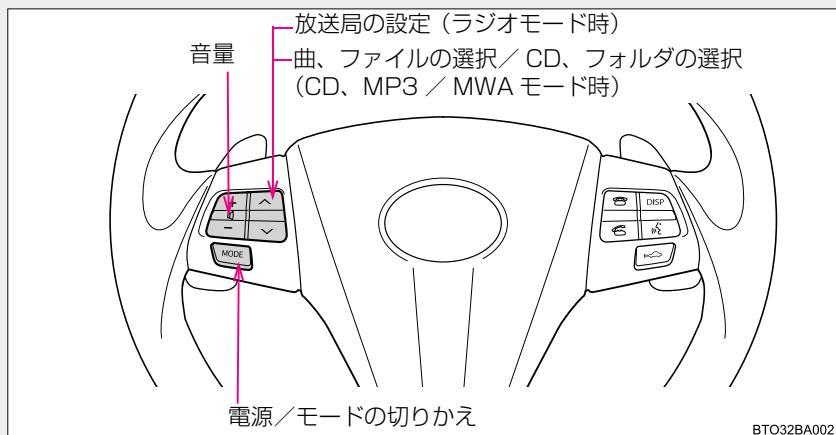
モードの切りかえや、CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

▶ 4 本スポークステアリング装着車



▶ 3本スポークステアリング装着車



電源を入れる

MODE を押す

ON のときは、ボタンを "ピッ" と音が鳴るまで押すと OFF になります。

モードを切りかえる

電源が ON のとき、MODE を押す

次のように切りかわります。

AM → FM → CD (MP3/WMA)

CD が挿入されていないときは、選択できません。

音量を調整する

🔊 の + 側を押す (大きくする)

🔊 の - 側を押す (小さくする)

ボタンを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

手順 1 MODE を押して、AM または FM を選択する

手順 2  または  を押す。

ボタンを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

"ピッ" と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

■ 選曲するには

手順 1 MODE を押して、CD を選択する

手順 2  または  を押して、希望の曲を選択する

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 MODE を押して、CD (MP3/WMA) を選択する

手順 2  または  を押して、希望の曲を選択する

■ フォルダの選択をするには

手順 1 MODE を押して、CD (MP3/WMA) を選択する

手順 2  または  を"ピッ" と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する

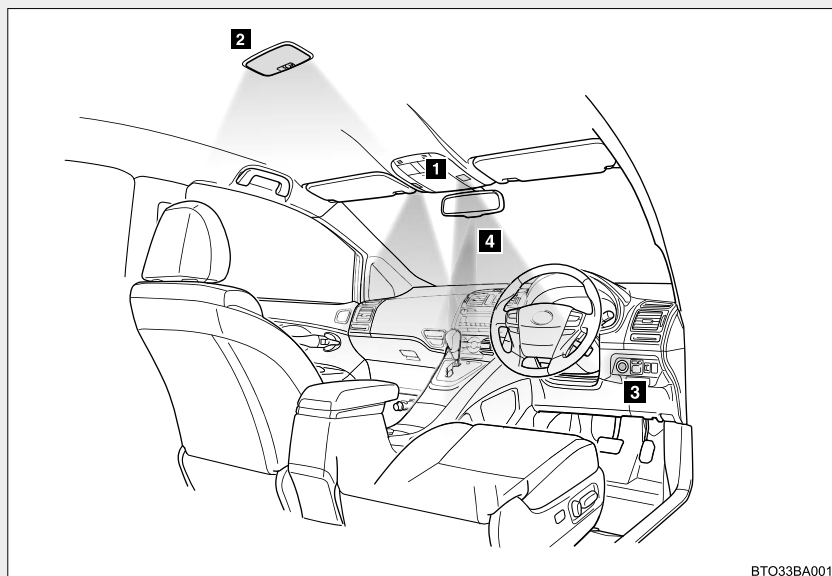


警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

室内灯一覧



BTO33BA001

- 1 パーソナルライト (→P. 189)
- 2 ルームライト (→P. 189)
- 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明
- 4 シフトイルミネーション照明

知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でルームライトスイッチのドアポジションが ON のときに、ルームライトと“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

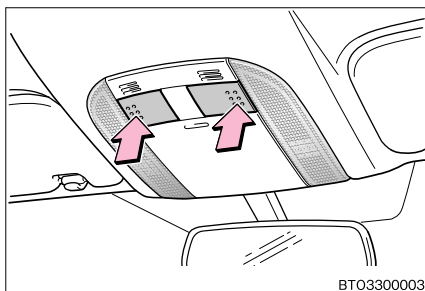
■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“エンジン スタート ストップ”スイッチにより、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

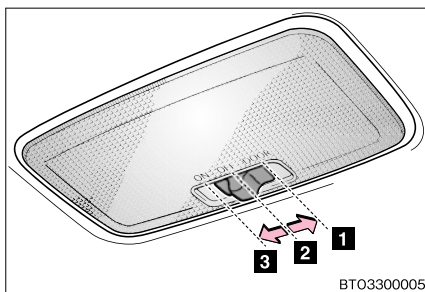
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 306)

パーソナルライト



点灯 / 消灯

ルームライト



1 DOOR（ドア連動）

2 OFF（消灯）

3 ON（点灯）



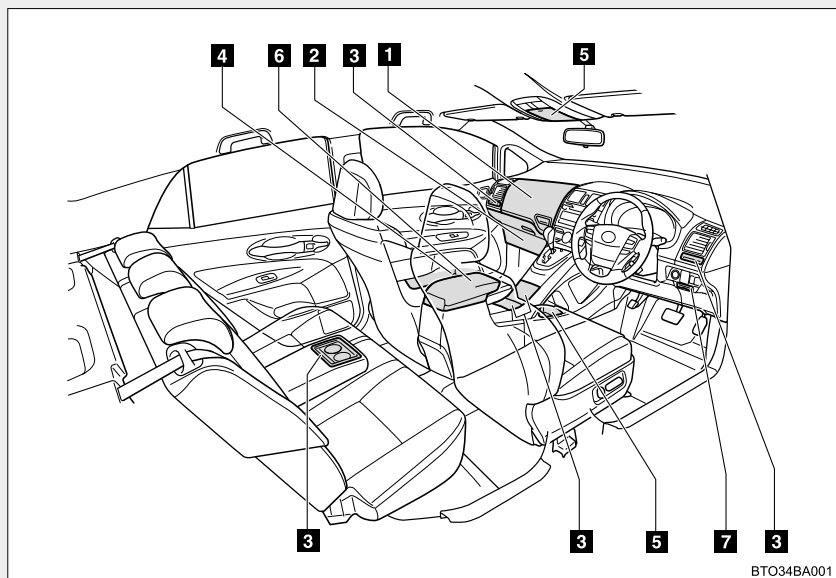
知識

■ ルームライトについて

スイッチの DOOR（ドア連動）が ON のときはイルミネーテッドエントリーシステムによりルームライトが自動的に点灯、消灯します。

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧

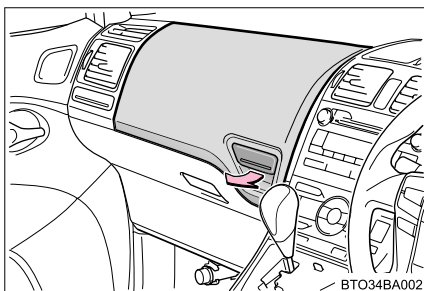


- 1** 助手席アッパーボックス
- 2** グローブボックス
- 3** カップホルダー
- 4** ボトルホルダー
- 5** 小物入れ
- 6** 2 段式コンソールボックス
- 7** カードホルダー*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席アッパーボックス、グローブボックス

助手席アッパーボックス



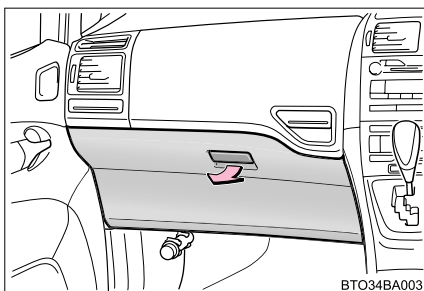
レバーを引き上げる

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いた助手席アッパーボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックス



レバーを引き上げる

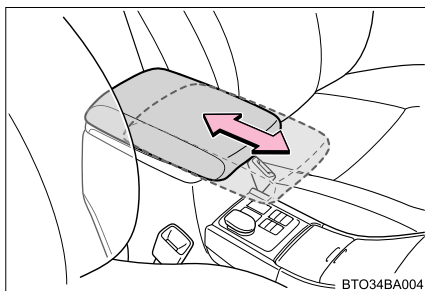
⚠ 警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

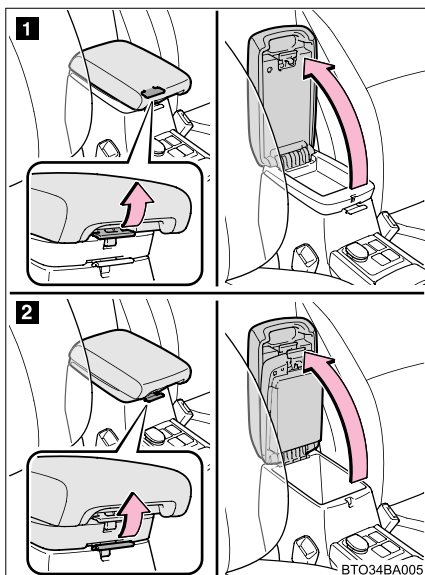
2 段式コンソールボックス

■ スライドさせる



アームレストをスライドする

■ 開ける



ノブを引き上げロックを解除したまま、フタを持ち上げて開く

1 上側のノブを引き上げる

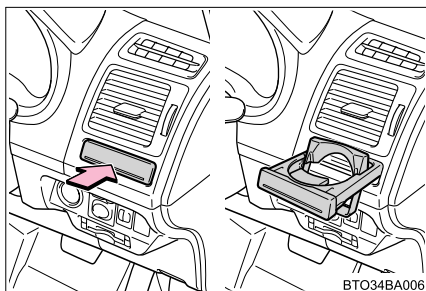
2 下側のノブを引き上げる

カップホルダー

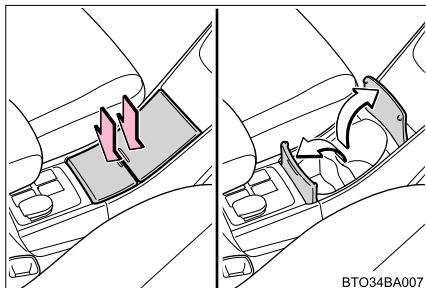
警告**■ 走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

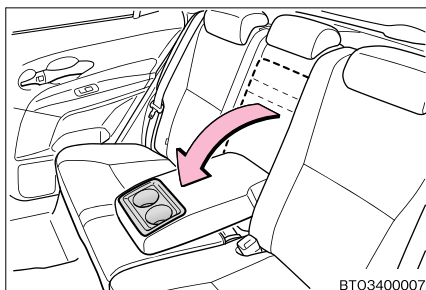
カップホルダー**▶ プッシュオープンカップホルダー**

カップホルダーを押して出す

▶ センターコンソール

フタを押して開ける

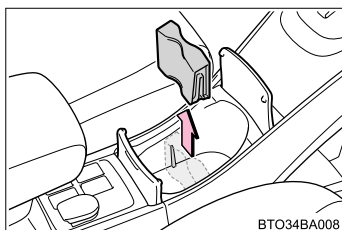
▶ リヤ



リヤセンターアームレストを引き出す

 知識

■ センターコンソールの仕切りについて



仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

 警告

■ 収納してはいけない物

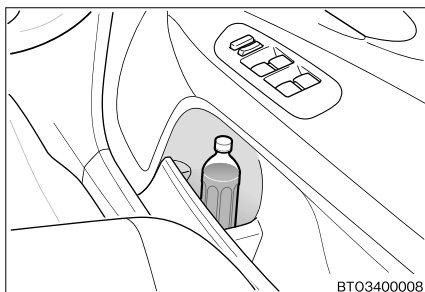
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

ボトルホルダー



知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

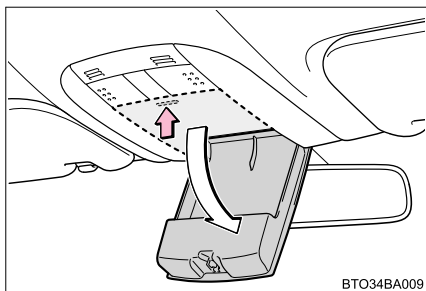
⚠ 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

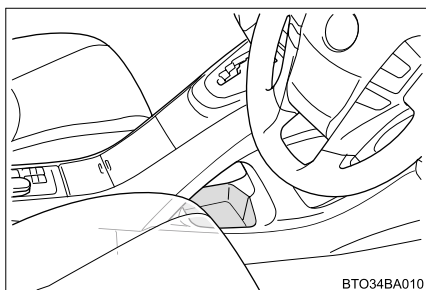
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール



ふたを押す

▶ コンソールトレイ



カードホルダー

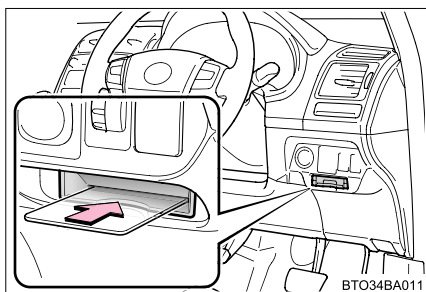
⚠ 警告**■ 走行中の警告**

小物入れを開けたままにしないでください。

急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

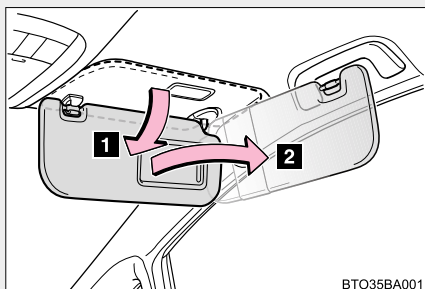
■ 収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

- 200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- メガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ、プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れをおこすことがあります。

カードホルダー*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

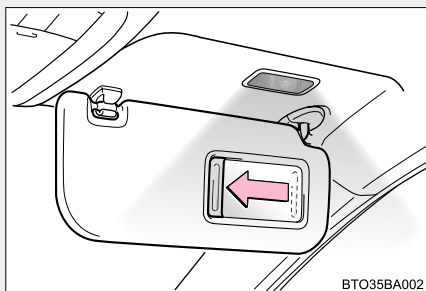


1 下ろす

2 下ろした状態でフックからは
ずし、横へ回す

3-5. その他の室内装備の使い方

バニティミラー

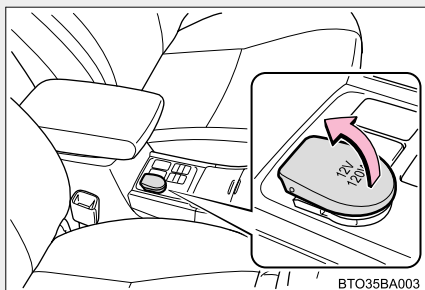


カバーを開けるとライトが点灯します。

3-5. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



知識

■使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

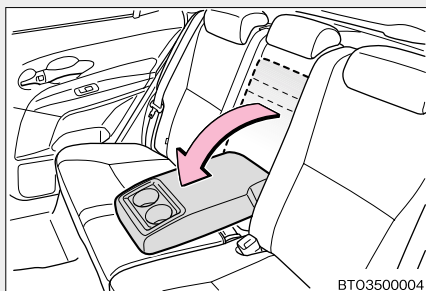
■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電機製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アームレスト



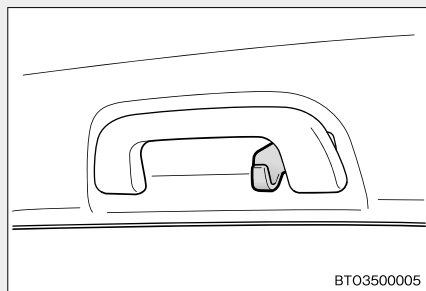
引き出して使用します。

 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ&コートフック

リヤのアシストグリップにはコートフックがついています。



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

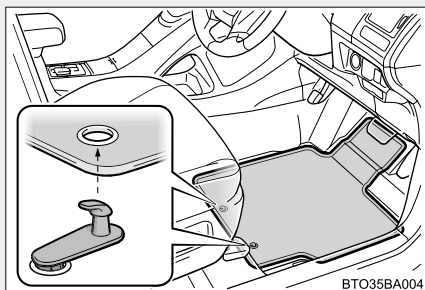
注意

■ 破損を防ぐために

アシストグリップやコートフックに過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

⚠ 警告

■フロアマットを敷くときは

以下のことを必ずお守りください。

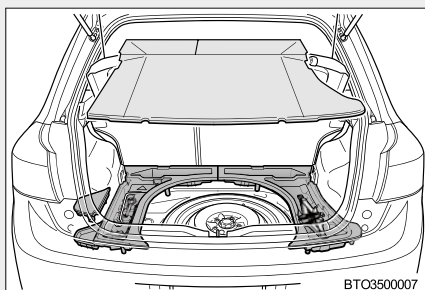
お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- フロアマットを裏返して使用しない
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

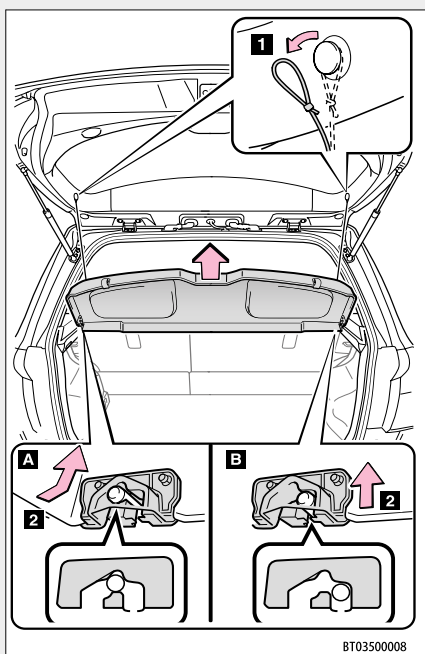
3-5. その他の室内装備の使い方

ラゲージルーム内装備

■ 小物入れ



■ パッケージトレイ

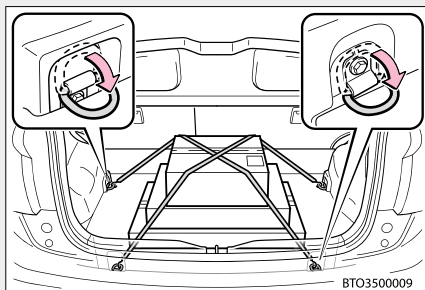


1 止めヒモを左右のフックからはずす

2 トレイを取りはずす

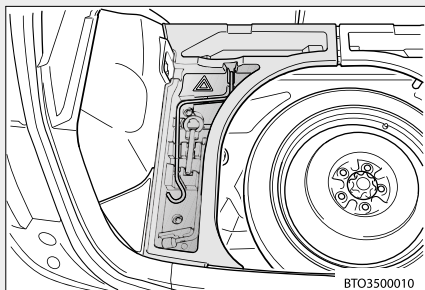
通常は“ A ”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。
ただし、トレイを“ A ”の矢印の方向に動かすことができないときは、“ B ”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。

■ デッキフック



フックを使って荷物を固定することができます。

■ 三角表示板収納スペース



三角表示板※を収納することができます。

※：三角表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

□ 知識

■ 三角表示板について

高速道路や自動車専用道路で故障して停車した場合は三角表示板または停止表示灯を使用してください。（法的にも義務付けられています）

■ 収納について

三角表示板を収納する場合、三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

 警告

■ **パッケージトレイについて**

パッケージトレイの上にお子さまが乗ったりしないでください。パッケージトレイが破損し、お子さまが生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

■ **デッキフックについて**

必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ **三角表示板を収納するときは**

確実に固定されていることを確認してください。

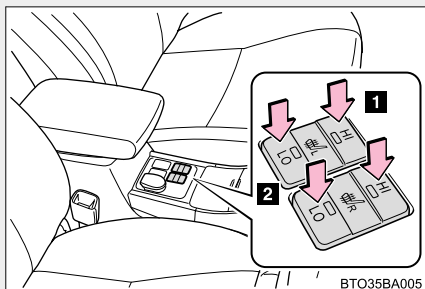
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ **パッケージトレイについて**

- 上に重いものを置かないでください
- パッケージトレイの下に大きな荷物を積んだときは、バックドアを閉める前に、パッケージトレイと荷物が当たらないことを確認してください。

快適温熱シートヒーター*



1 HI(強)

2 LO(弱)

スイッチを押すと、押した側の作動表示灯が点灯します。

押した側と反対側のスイッチを軽く押すと中立の位置にもどり、作動が停止して作動表示灯が消灯します。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 警告

■ やけどについて

- 低温やけどを負う恐れがあるため、以下の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。
- 仮眠するときは使用しないでください。
シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意

■ **快適温熱シートヒーターの故障を防ぐために**

凸凹のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

■ **シート表皮やシートヒーターの損傷を防ぐために**

清掃するときは、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
(→P. 213)

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	210
内装の手入れ.....	213
タイヤについて.....	216

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	219
ガレージジャッキ.....	221
エンジンルームカバー	223
電球（バルブ）の交換	225
ヒューズの点検、交換	236
キーの電池交換.....	243
ウォッシャー液の補給	245
エアコンフィルターの 清掃、交換	246

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

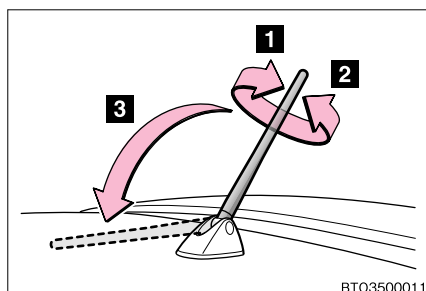
- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを取りはずしたり、格納することができます。



1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーがひっかかり、洗車できない場合や、傷付いたりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。自動洗車機に入れる前に車両のフューエルリッドがしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ 塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

■ ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- シリコンや研磨剤の入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す。
- 晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる。

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■ 塗装の損傷を避けるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 47)

 警告

■ **車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤを濡らさないでください。(→P. 65)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスに映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
- シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

■ 革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

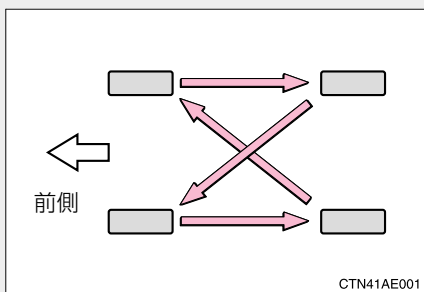
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

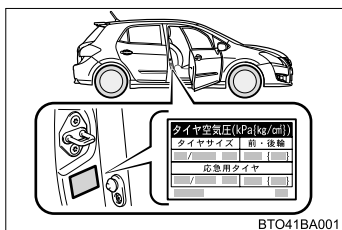


図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ		前輪	後輪
205/ 55R16 91V	2AZ-FE エンジン車	210 (2.1) kPa (kg/cm ²)	
225/ 45R17 91W	2GR-FE エンジン車	230 (2.3) kPa (kg/ cm ²)	210 (2.1) kPa (kg/ cm ²)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤローテーションを行ったときは

指定空気圧に調整してください。

特に 17 インチホイール装着車では、前後輪で指定するタイヤ空気圧が異なります。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

注意

■走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

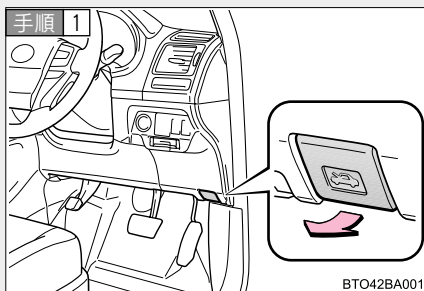
■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

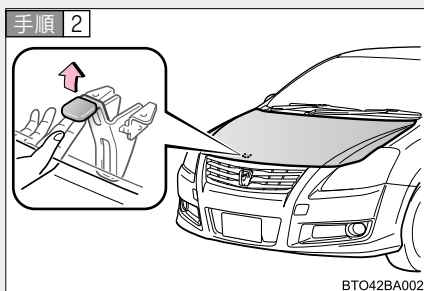
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

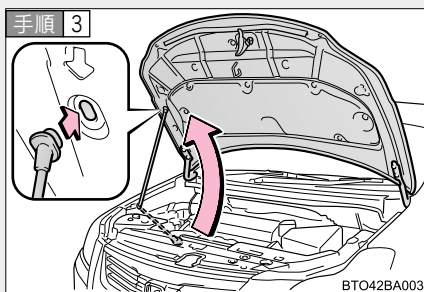
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネットオープナーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネット
を開ける



ボンネットステーをステー穴に
差し込む

知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

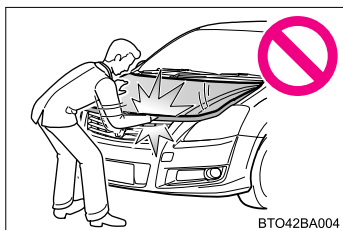
■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

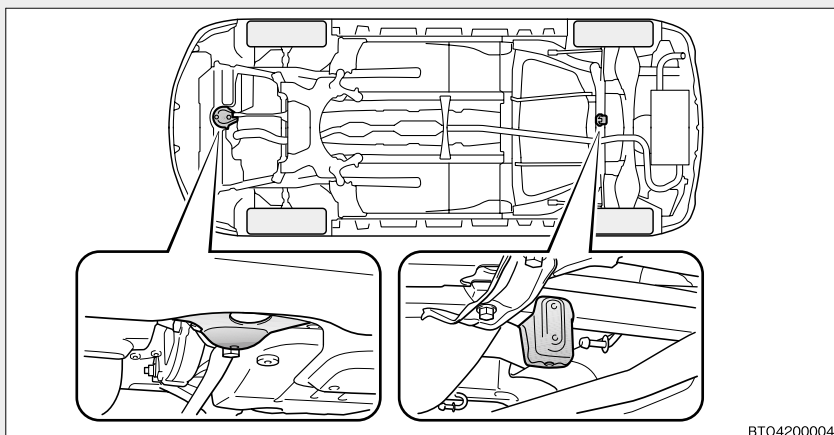
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

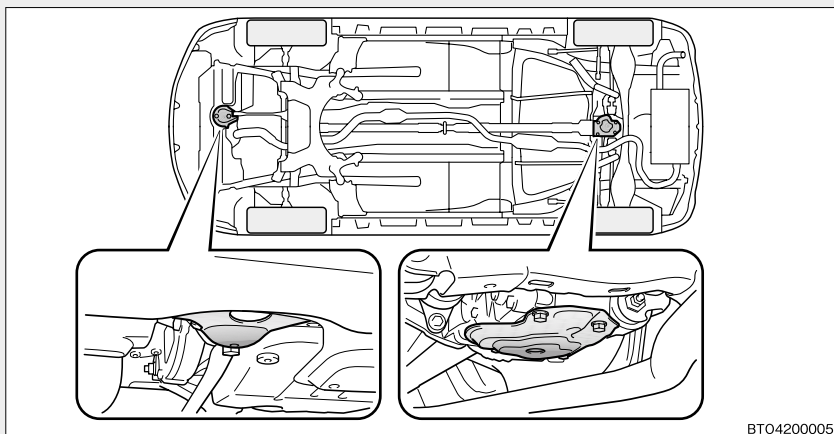
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ FF（前輪駆動）



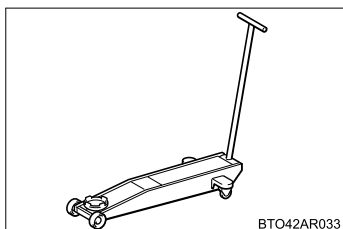
■ 4WD（4 輪駆動）



⚠ 警告

■ 車両を持ち上げるときは

死亡または重大な障害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



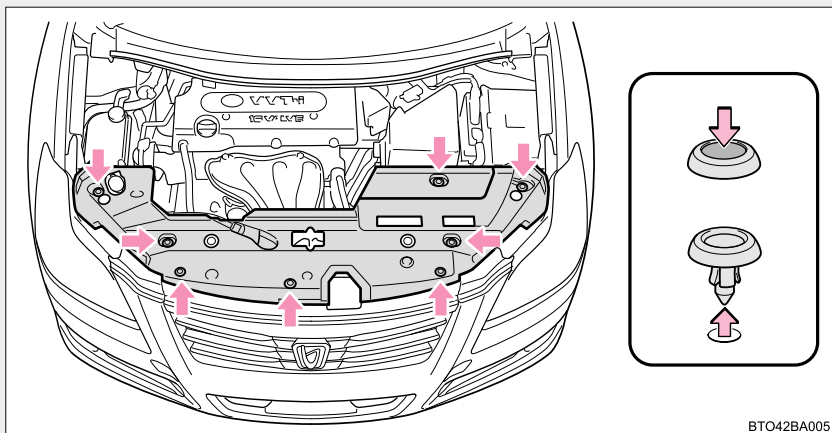
● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

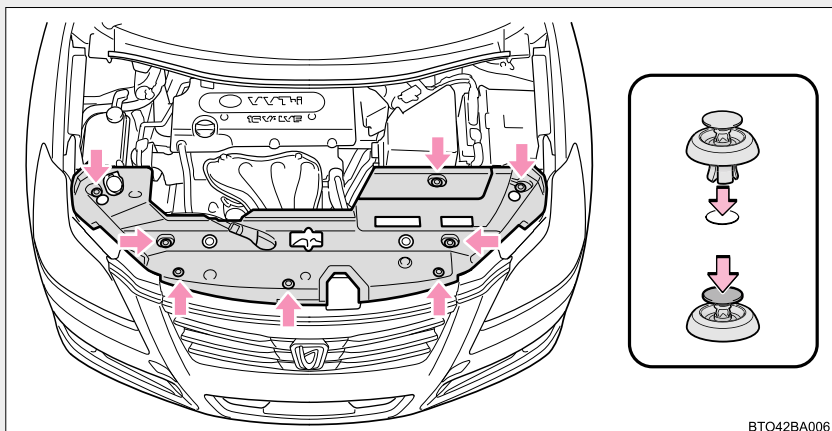
4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方



■ クリップの取り付け方



 警告

■ **けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ **エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

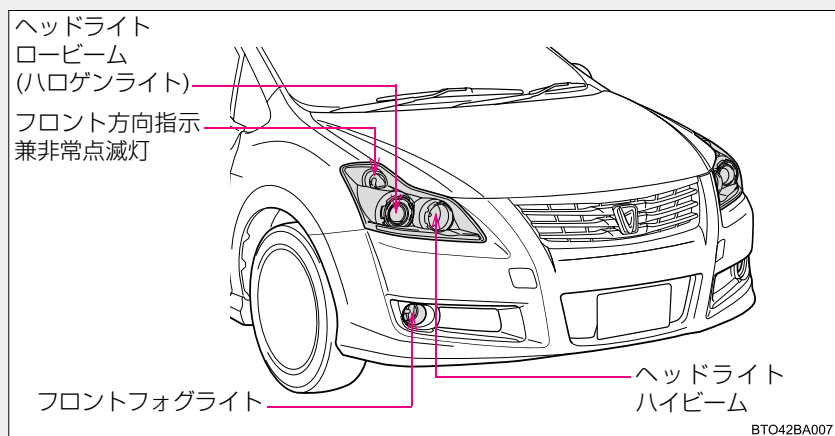
電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

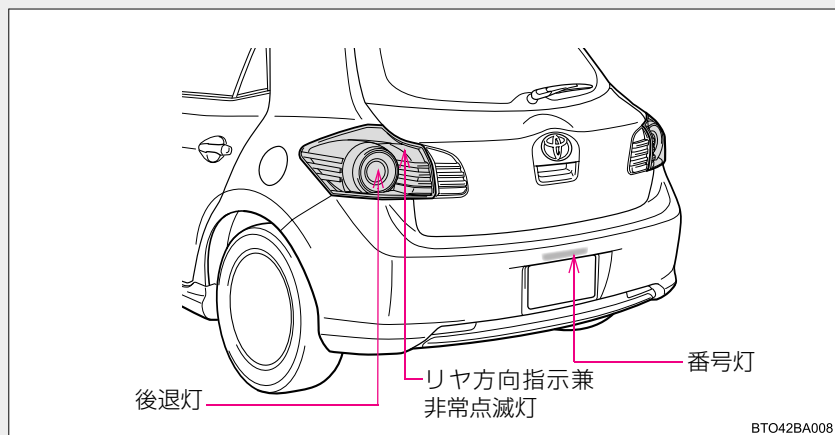
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 304）

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



電球交換の仕方

■ ハロゲンヘッドライト（ロービーム）＊

手順 1

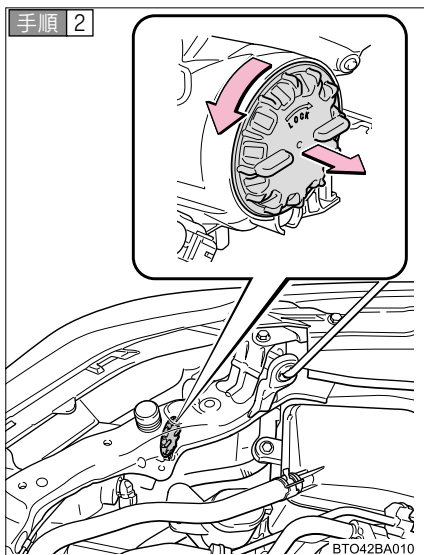
▶ 運転席側

ウォッシャーノズルを移動してから交換します（→P. 233）

▶ 助手席側

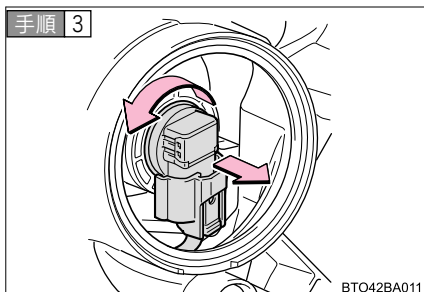
エアクリーナーダクトをはずしてから交換します（→P. 234）

手順 2



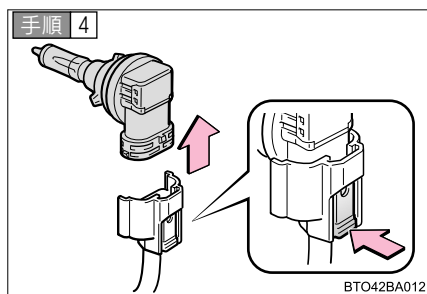
カバーをはずす
カバーにある三角マークを「LOCK」と逆の方向に回し、カバー全体を手前に引きはずします。

手順 3



ソケットを取りはずす

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備



電球を取りはずす

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1

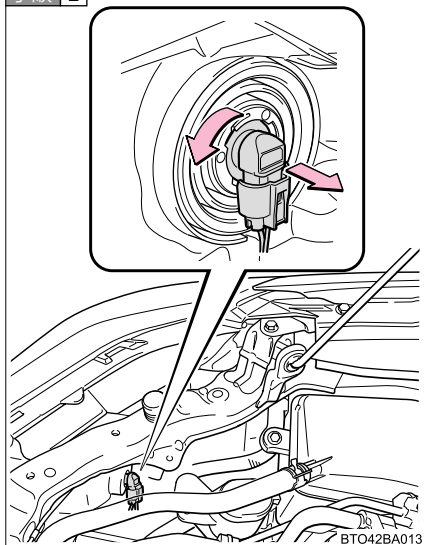
▶ 運転席側

ウォッシャーノズルを移動してから交換します（→P. 233）

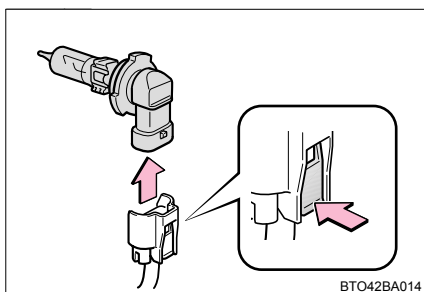
▶ 助手席側

エアクリーナーダクトをはずしてから交換します（→P. 234）

手順 2



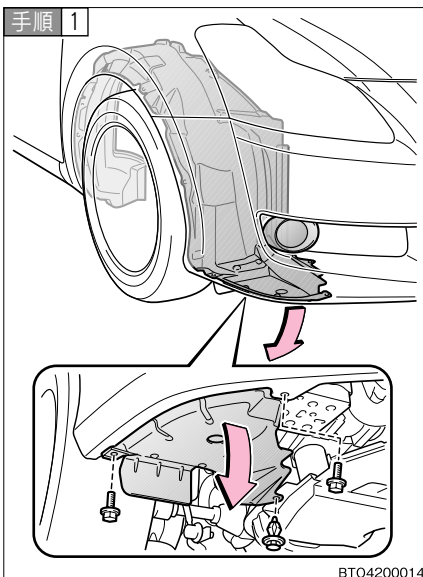
ソケットを取りはずす



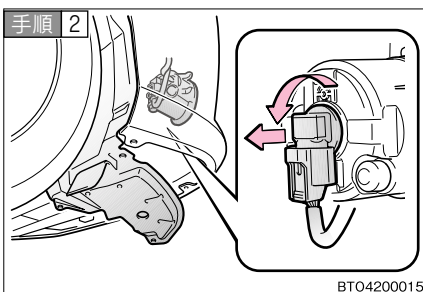
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

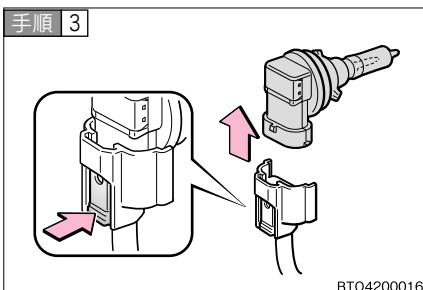
■ フロントフォグライト



ボルトとクリップを取りはずし、
フェンダーライナーをめくる



ソケットを取りはずす



電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1

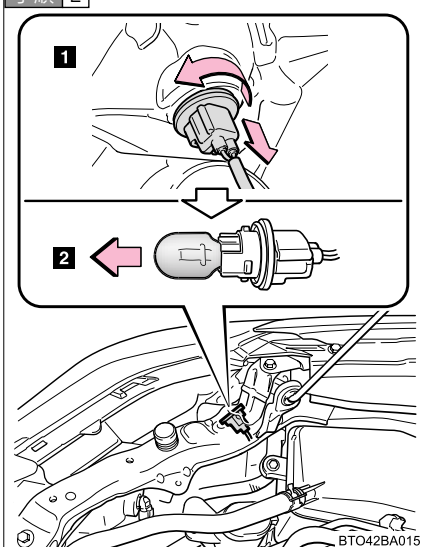
▶ 運転席側

ウォッシャーノズルを移動してから交換します (→P. 233)

▶ 助手席側

エアクリーナーダクトをはずしてから交換します (→P. 234)

手順 2

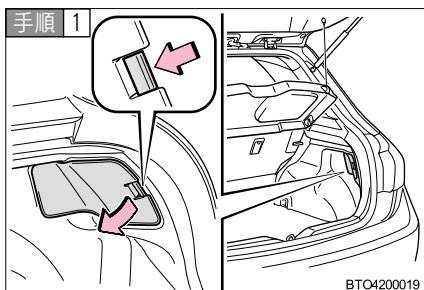


1 ソケットを取りはずす

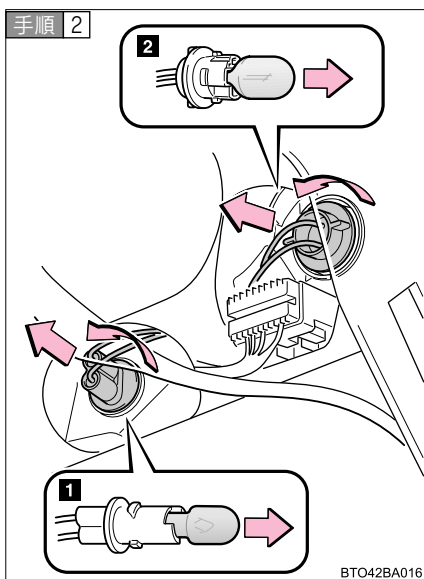
2 電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯



バックドアを開け、カバーを取りはずす



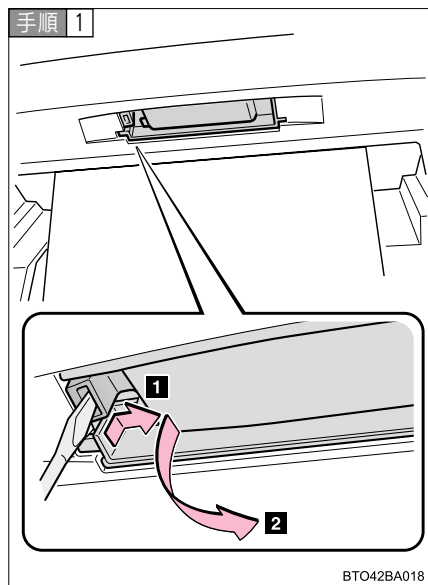
ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

1 後退灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

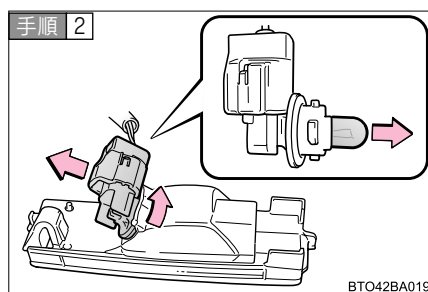
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯



カバーを取りはずす

マイナスドライバー等を図のように挿し込み、**1**の方向に移動させロックを解除させながら、**2**のように下に引く



ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト）
- 車幅灯
- サイド方向指示灯兼非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップライト

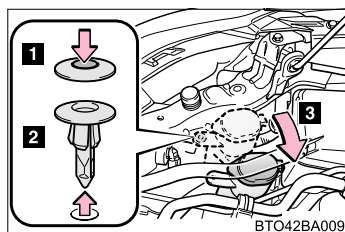
知識

■ 運転席側のヘッドライト、フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

ウォッシャーノズルの上部の固定クリップをはずして、ノズルを移動してから交換します。

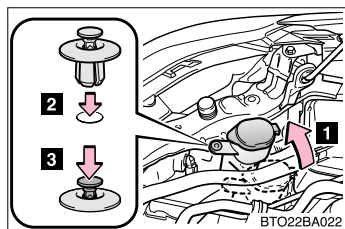
交換後は、必ずノズルをしっかりと取り付け、上部をクリップで固定してください。

- ウォッシャーノズルの移動のしかた



- 1 クリップの中心を押す
- 2 クリップを引き抜く
- 3 ノズルを移動する

- クリップの取り付け方



- 1 ウォッシャーノズルを取り付ける
- 2 クリップを差し込む
- 3 クリップの中心を押す

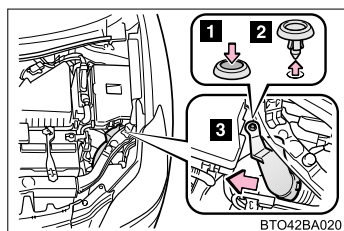
知識

■ 助手席側のヘッドライト、フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

エアクリーナーダクトの上部の固定クリップをはずして、ダクトをはずしてから交換します。

交換後は、必ずエアクリーナーダクトをしっかり取り付け、上部をクリップで固定してください。

● エアクリーナーダクトの上部の取りはずし方



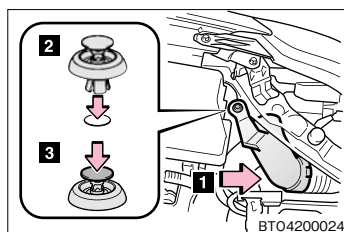
1 クリップの中心を押す

2 クリップを引き抜く

3 ダクトをはずす

・ 車両型式などでダクトの形状が異なります。

● クリップの取り付け方



1 ダクトを取り付ける

2 クリップを差し込む

3 クリップの中心を押す

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

● レンズ内側に大粒の水滴がついている

● ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。

電圧が正常にもどると再点灯します。

⚠ 警告**■電球を交換するときは**

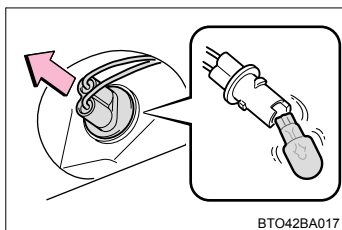
- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■後退灯の電球を交換するときは

ソケットを取りはずす際、ソケットから電球がはずれ、電球を落とさないよう注意してください。

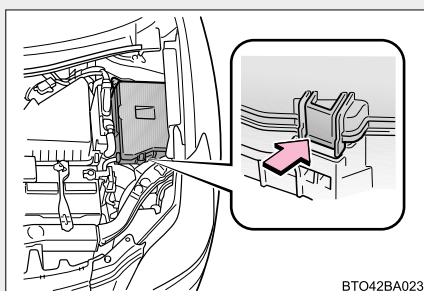
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

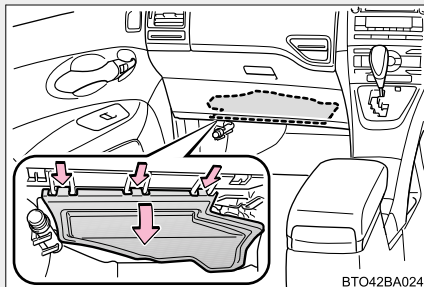
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

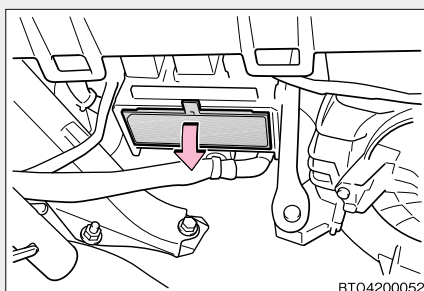


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元



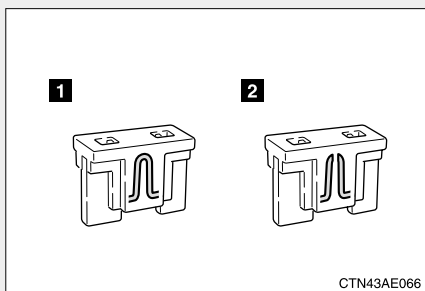
1 足元のカバーを取りはずす



2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 238) で確認する

手順 4 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する
ヒューズはすしは、トヨタ販売店でお買い求めください。



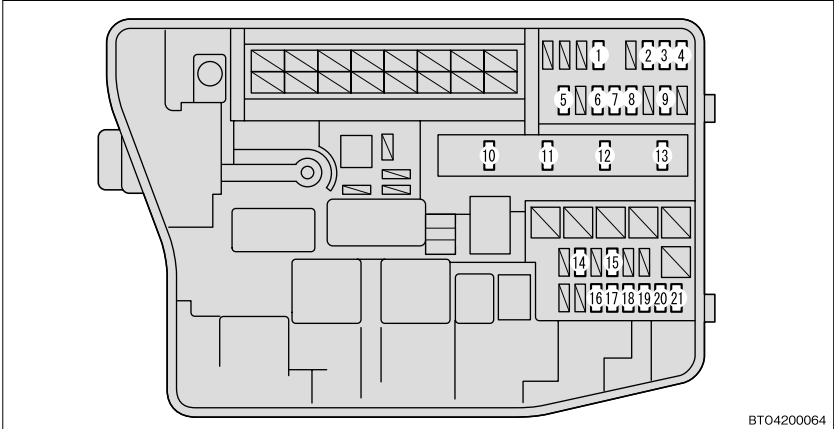
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-B2	10 A	エアコン、パワーウインドウ、スマートエントリー&スタートシステム、トランスミッション
2	ECU-B	10 A	メーター、ETC、ステアリングセンサ
3	RAD NO. 1	15 A	オーディオ、ナビゲーションシステム、バックガイドモニター
4	DOME	10 A	室内灯、スマートエントリー&スタートシステム
5	AM2 NO. 2	7.5 A	メインボデー ECU
6	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯、非常点滅灯、メーターインジケーター
7	ETCS	10 A	EFI システム
8	AM2	30 A	始動系
9	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
10	A/F	20 A	空燃費センサー
11	EFI MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO. 1、EFI NO. 2、燃料ポンプ

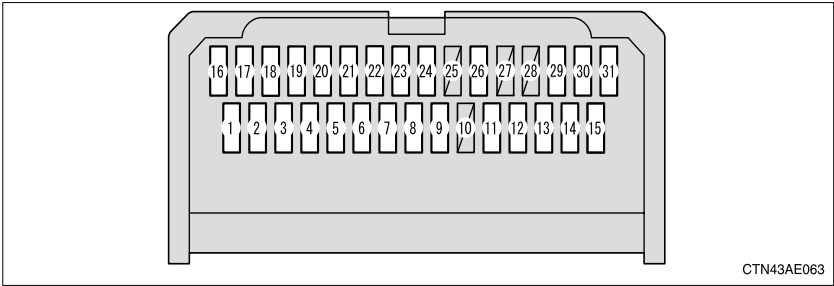
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	HORN	10 A	ホーン
13	IG2	15 A	EFI システム、IGN、METER
14	PSB	30 A	ブリクラッシュシートベルト
15	FR DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー*
16	EFI NO. 2	10 A	EFI システム
17	EFI NO. 1	10 A	EFI システム
18	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）、 メーターインジケーター
19	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
20	H-LP RH LO	15 A ※ ¹	右側ヘッドライト（ロービーム）
		10 A ※ ²	
21	H-LP LH LO	15 A ※ ¹	左側ヘッドライト（ロービーム）
		10 A ※ ²	

※¹：ヘッドライトロービームが H I D バルブ車

※²：ヘッドライトロービームがハロゲン バルブ車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P S-HTR	15 A	助手席側シートヒーター*
2	HTR-IG	10 A	エアコン
3	WIPER	25 A	フロントワイパー
4	RR WIPER	15 A	リヤワイパー
5	WASHER	15 A	フロントウォッシャー、リヤウォッシャー
6	ECU-IG NO. 1	10 A	自動光軸調整システム、メインボデー ECU、電動パワーステアリング、電動クーリングファン、シフトロックシステム、ABS、VSC、オーディオ、4WD システム、ステアリングセンサー、バックガイドモニター、シーケンシャルシフト、プリクラッシュシートベルト、ヨーレートセンサー、制動灯、シートベルトテンションリデューサー
7	ECU-IG NO. 2	10 A	後退灯、オルタネーター、リヤウインドウデフォグガー、エアコン、フロントワイパーデアイサー、方向指示、非常点滅灯、EFI システム
8	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、ABS、VSC、メインボデー ECU、EFI システム、シフトロックシステム
10	—	—	—
11	DOOR	25 A	パワードアロックシステム、メインボデー ECU
12	ACC-B	25 A	CIG、ACC
13	4WD	7.5 A	4WD システム
14	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
15	AM1	7.5 A	未使用
16	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、光軸調整システム、メーター照明、EFI システム
17	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、グローブボックスライト、シフト照明、ステアリングスイッチ
18	D S-HTR	15 A	運転席側シートヒーター*
19	FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
20	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
21	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
22	SUNROOF	20 A	未使用
23	CIG	15 A	アクセサリースOCKET
24	ACC	7.5 A	電動ミラー、オーディオ、ナビゲーションシステム、メインボデー ECU、ETC、バックガイドモニター、スマートエントリー&スタートシステム
25	—	—	—

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
26	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
27	—	—	—
28	—	—	—
29	RR FOG	7.5 A	—
30	IGN	7.5 A	ステアリングロック、SRS エアバッグシステム、CAN ゲートウェイ、始動系、EFI システム
31	METER	7.5 A	メーター



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 225)
- 取りかえても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。



警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

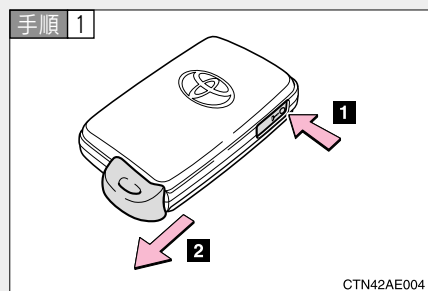
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

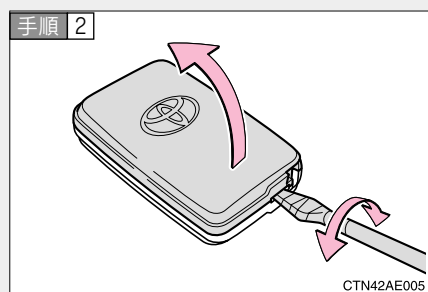
■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

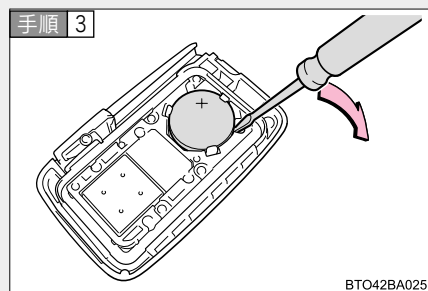
■ 電池交換の仕方



メカニカルキーを抜く



カバーをはずす



消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

知識

■ 電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

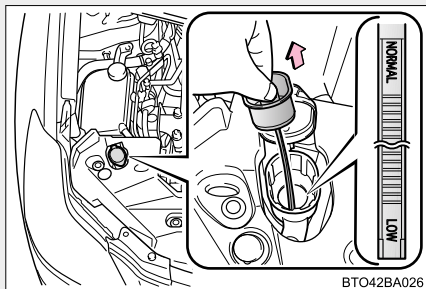
注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれを当ててからはずしてください。
カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給



液面がLOWの位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

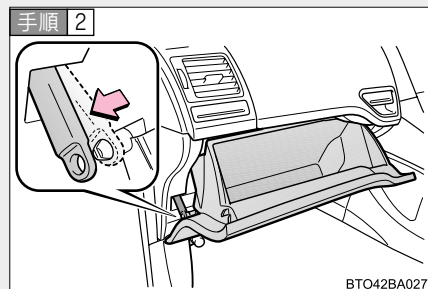
必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

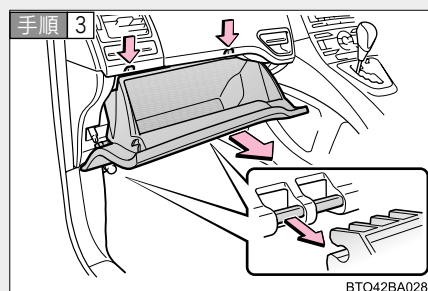
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

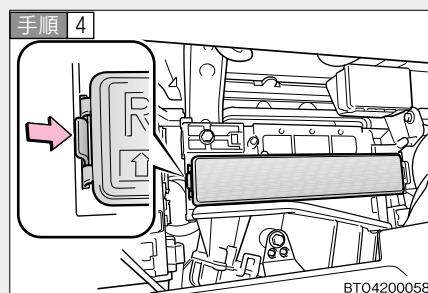
手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする



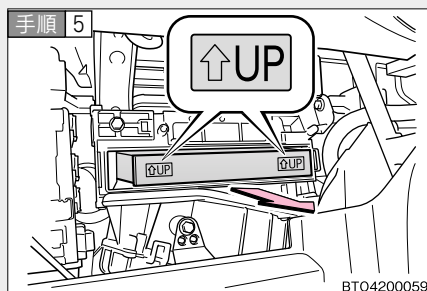
グローブボックスを開きダンパースターのピンをはずす



グローブボックスを持ち上げ、下部のツメをはずして取りはずす



フィルターカバーを取りはずす



フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km※]ごと

交換：30,000km[15,000km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

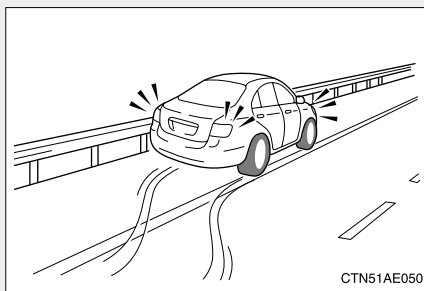
故障したときは.....	250
非常点滅灯	251
発炎筒	252
けん引について.....	254
イベントデータ レコーダー	258

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	260
警告メッセージが 表示されたときは	264
パンクしたときは.....	274
エンジンが かからないときは	283
シフトレバーが シフトできないときは	285
キーを無くしたときは	286
電子キーが正常に 働かないときは	287
バッテリーが あがったときは	289
オーバーヒートしたときは ..	292
スタックしたときは	294

5-1. まず初めに 故障したときは

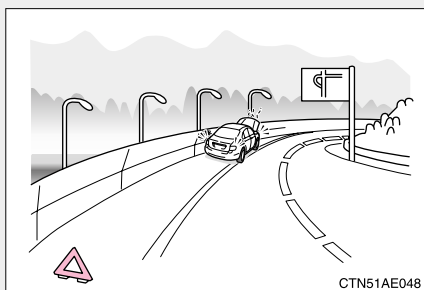
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



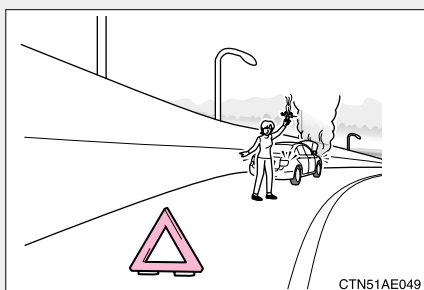
非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→P. 251)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



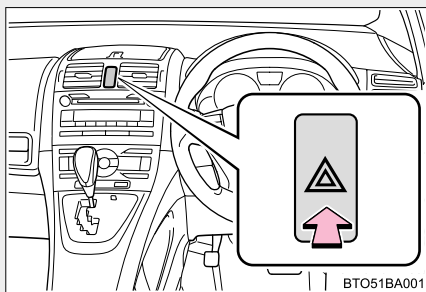
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 252)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押す
と消灯します。

注意

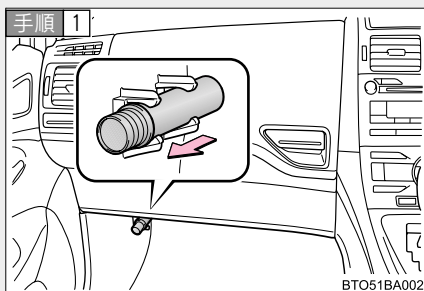
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

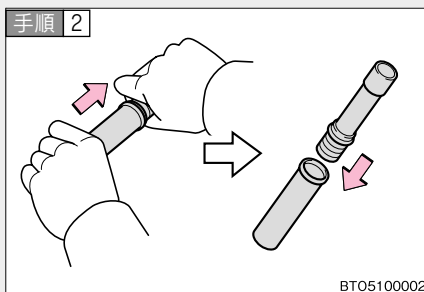
発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。

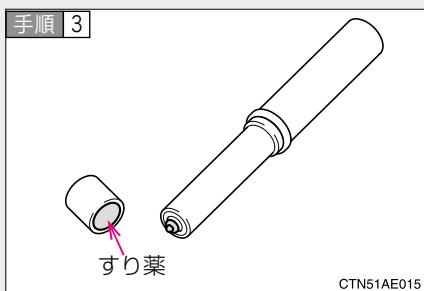
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店で求めください。

**警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

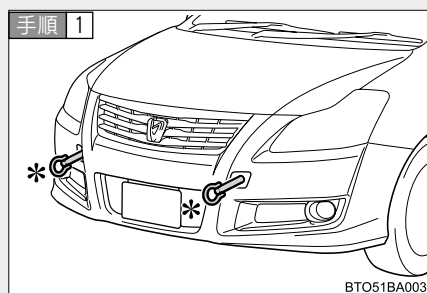
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

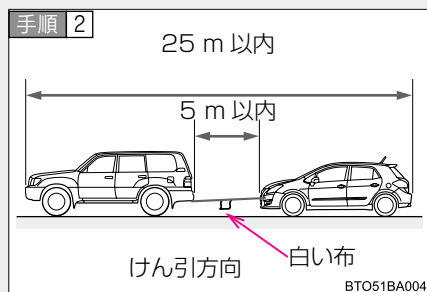
■ けん引されるときは



車体に傷つかないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

* 車両に搭載されるけん引フックは 1 本です。



ロープの中央に白い布をつける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm)

以上

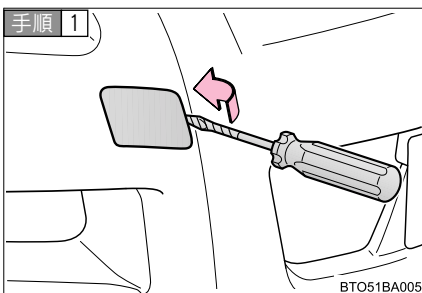
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

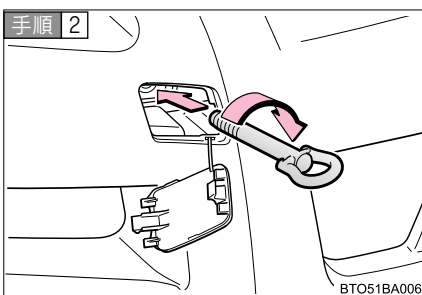
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

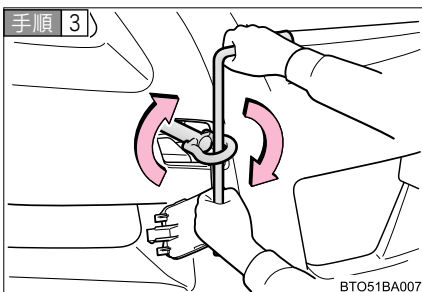
けん引フックの取り付け方



マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす



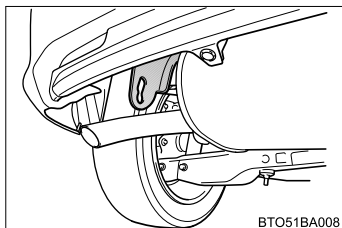
けん引フックを穴に差しこみ軽く締める



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■ リヤ固縛用フック



緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ けん引フックの収納位置

→P. 274

警告

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■ 車両を運搬するときは

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

 警告**■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転席および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

→P. 268

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	ディスチャージヘッドライト オートレベリング警告灯* ・自動光軸調整システムの異常
	PCS 警告灯* ・プリクラッシュセーフティシステムの異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 9L 以下）	燃料を給油
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	オートマチックトランスミッション油温警告灯* トランスミッションオイルの温度の異常	→P. 99
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 264

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

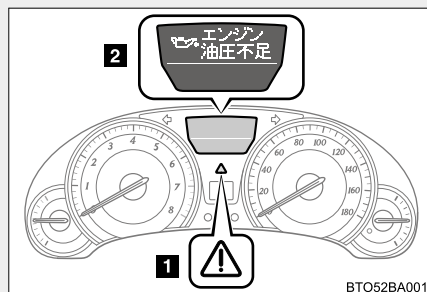
 知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。



1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

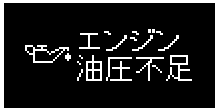
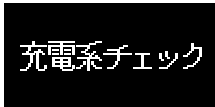
ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。
 	充電系統の異常 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD チェック 	4WD システム*の異常 警告ブザーが鳴ります。
ステアリングロック 確認 	ステアリングロックシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。
ABS チェック 	ABS/ ブレーキアシストの異常 警告ブザーが鳴ります。
エアバッグ チェック 	SRS エアバッグ / プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
エンジンチェック 	エンジン電子制御システム、電子制御スロットル、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 警告ブザーが鳴ります。
VSC チェック 	TRC、VSC の異常 警告ブザーが鳴ります。
PCSシステム チェック PCS 	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常 警告ブザーが鳴ります。
クルーズシステム チェック CRUISE (点滅) 	レーダークルーズコントロールシステム*の異常 安全な場所にお車を止め、エンジンを再度かけなおしてレーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。

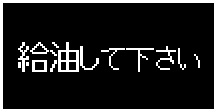
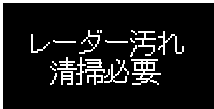
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
パワーステアリング チェック 	パワーステアリングシステムの異常

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
 	バックドアが確実に閉まっていない	バックドアを閉める
パーキングブレーキ 未解除 	パーキングブレーキをかけたまま、車速が 10 km/h を超えた 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	燃料の不足	燃料残量を点検し、燃料を補給する。
 	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない 警告ブザーが鳴ります。	グリルまたはセンサーの汚れを取りのぞく プリクラッシュセーフティシステムが熱になると点滅します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
  	レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取りのぞく
  	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。	ワイパーを止めるか低速作動にかえる

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 (点滅) 	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
  (点滅)	衝突の可能性が高い、 またはプリクラッシュ ブレーキ*が作動していることを示す	ブレーキで減速する

 知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

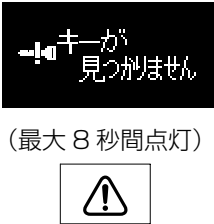
車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし		電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを携帯する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	レンジに 入れて下さい キーが 見つかりません (交互に表示) 	電子キーを携帯し ていない状態かつ、 シフトレバーがP 以外の状態で、“エ ンジン スタート ストップ” スイッ チを OFF にせず に運転席ドアが開 閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを携帯 する
1 回	なし	キー 배터리 残りわずか 	電子キーの電池残 量が少ない	新しい電池と交換 する。 (→P. 243)
1 回	なし	始動時はブレーキを 踏んで下さい 	“ エンジン スタ ート ストップ” ス イッチが OFF の 状態でいずれかの ドアを開閉してからエンジンをかけ ずに “ エンジン スタート ストッ プ” スイッチをア クセサリーモード に 2 回した	ブレーキを踏んで “ エンジン スタ ート ストップ” ス イッチを押す

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ステアリングロック 未解除	“エンジン スタートストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“エンジン スタートストップ” スイッチを押す

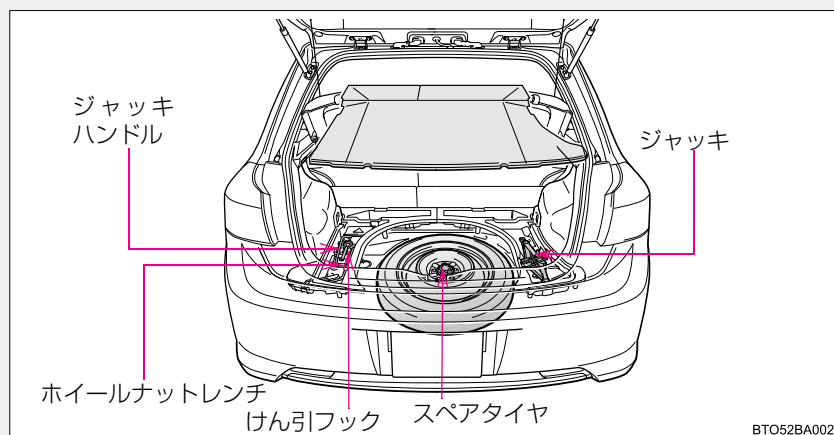
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 216 をご覧ください。)

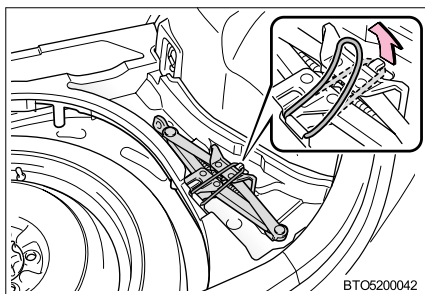
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

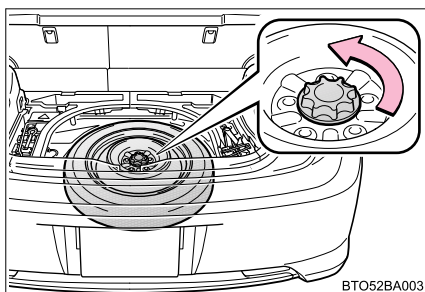


ジャッキの取り出しかた



固定バンドをはずし、ジャッキを取り出す

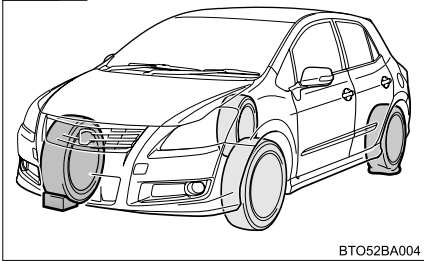
応急用タイヤの取り出しかた



止め具をはずし、タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

手順 1

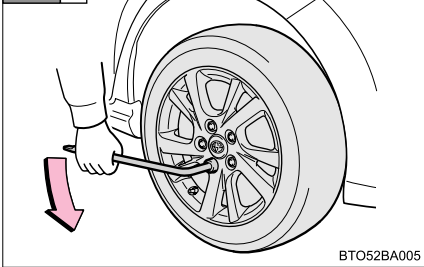


輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

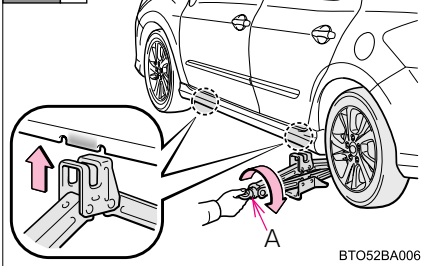
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

手順 2

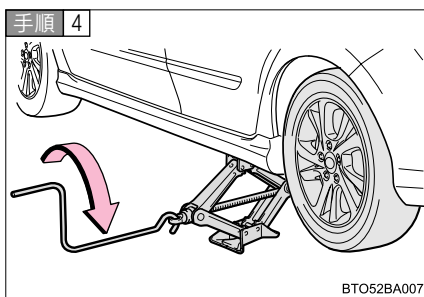


ナットを少し（約 1 回転）緩める

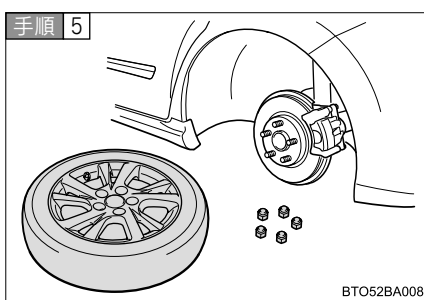
手順 3



ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

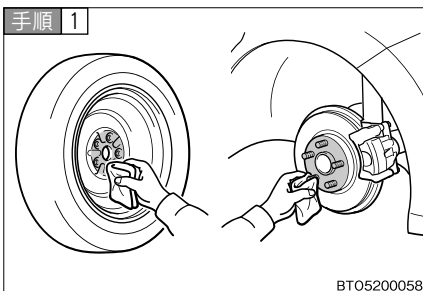


ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷つかないように意匠面を上にする。

タイヤの取り付け

手順 1

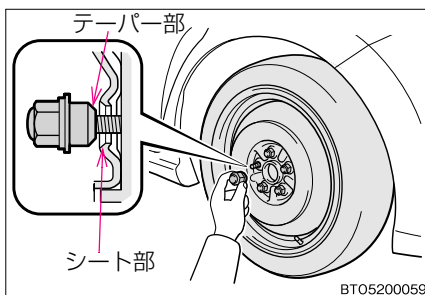


ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

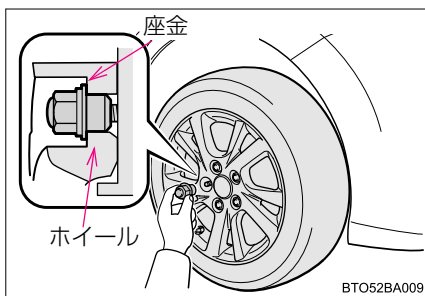
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

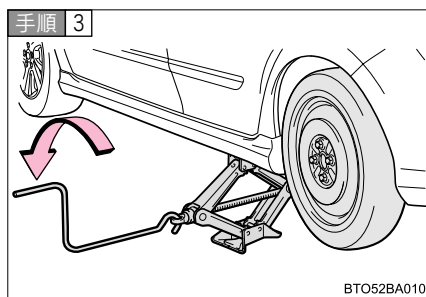


ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

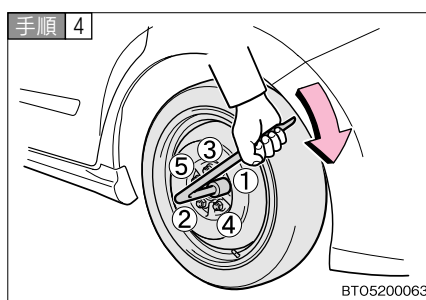
▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき



ナットの座金がホイールに当たるまで回す



車体を下げる



図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 304)

 警告

■ **ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使わない
 - 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ **タイヤ交換について**

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに $103 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1050 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットが緩み、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

 警告**■ 応急用タイヤを使用するときは**

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換ください
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- レーダークルーズコントロール*
- プリクラッシュセーフティーシステム*
- ナビゲーションシステム*
- バックガイドモニター*
- インテリジェントパーキングアシスト*
- NAVI・AI-SHIFT*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意

■ **パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ **応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ **応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 91）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 92）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 91）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 62）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 289）
- バッテリーのターミナルが緩んでいる可能性があります。

■ スターターが回らない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 289）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、約 15 秒間 “エンジン スタート ストップ” スイッチを長押しする

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

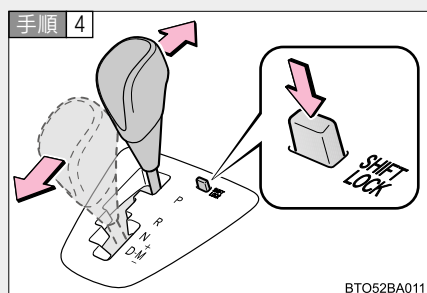
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押している間はレバーを
シフトできます。

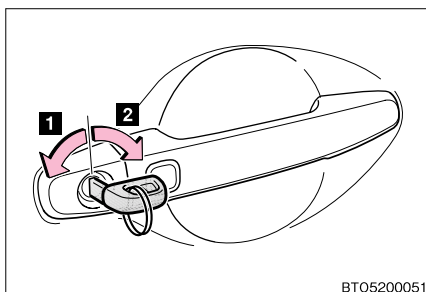
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 20)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P. 30)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠



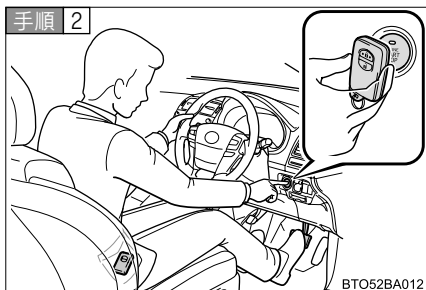
メカニカルキー (→P. 20) を使って操作します。

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む



電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れます

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 91)

エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

 知識

■ **エンジン停止のしかた**

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

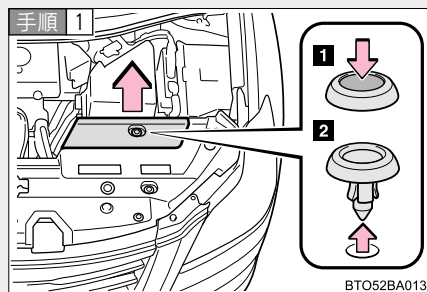
■ **電池交換について**

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 243)

バッテリーがあがったときは

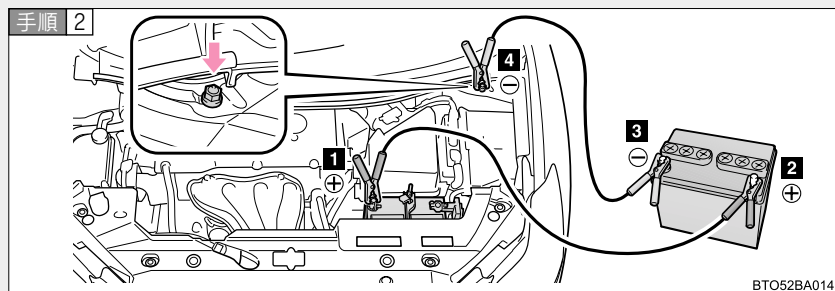
バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。



バッテリーの上にあるカバーをはずす

クリップをはずし、カバーを上げてはずします。



ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

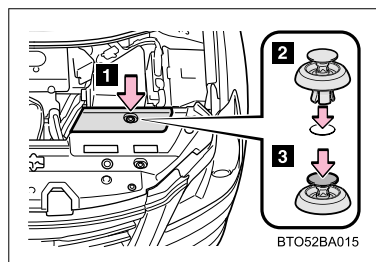
- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリー上部のカバーの取り付けについて

しっかり取り付け、上部をクリップで固定してください。



- 1 カバーを取り付ける
- 2 クリップを差し込む
- 3 クリップの中心を押す

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

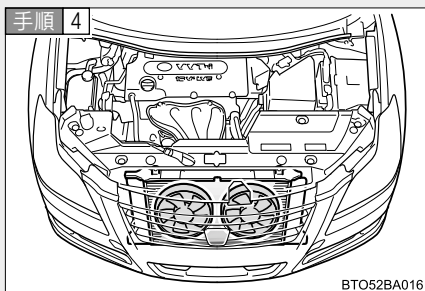
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

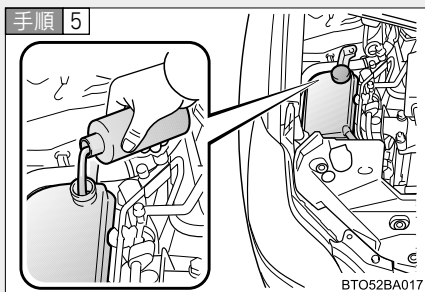
水温計の針が下がってきてからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

▶ FF 車（前輪駆動）

- 手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする
- 手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く
- 手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう
- 手順 4 エンジンを再始動する
- 手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

- 手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする
- 手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く
- 手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう
- 手順 4 エンジンを再始動する
- 手順 5 4WD オートモードになっていることを確認する（→P. 122）
- 手順 6 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

 警告**■脱出するときの警告**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両の仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（油脂類の容量と銘柄）..... 298

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧..... 306

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめ
します。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に
相当する品質のものをご使用ください。

燃料		
銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	2AZ-FE	60
無鉛プレミアムガソリン （無鉛ハイオク）	2GR-FE	

エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ※ —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20	2AZ-FE	4.1	4.3
トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30			
トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30			
トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20			
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30			

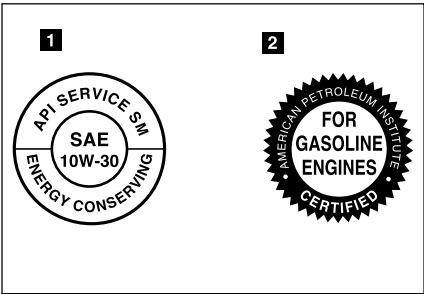
※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30	2GR-FE	5.7	6.1
トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30			
トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 ※ —API SL, EC SAE 5W-20			
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30			

※：5W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 推奨エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

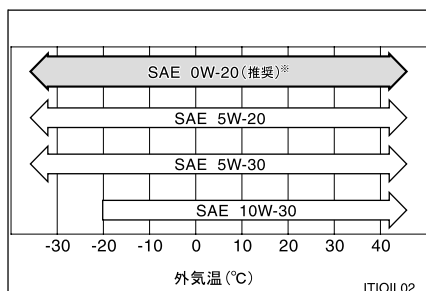


- 1 API マーク
- 2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

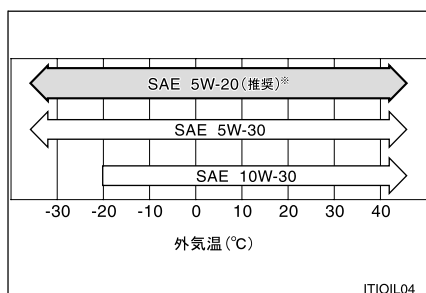
下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車



※：5W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30 の30 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度	2AZ-FE	6.2
濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	2GR-FE	8.7

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値*)
トヨタ純正 CVT フルード TC	2AZ-FE	8.7
トヨタ純正オートフルード WS	2GR-FE	6.5

* 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル*

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー*

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	69 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度(“カチッ”という音)のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)	2.5
--------------	-----

タイヤ

タイヤサイズ			タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/55R16 91V	2AZ-FE エンジン搭載車	210 (2.1)	
	225/45R17 91W	2GR-FE エンジン搭載車	230 (2.3)	210 (2.1)
スペアタイヤ	T125/70D17 98M		420 (4.2)	

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハイビーム (バルブタイプ: HB3)	60
	ロービーム (ディスチャージヘッドライト)	35
	ロービーム (バルブタイプ: H11)	55
	車幅灯	LED *
	フロントフォグライト (バルブタイプ: H11)	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED *
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯&尾灯	LED *
	尾灯	LED *
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED *
	番号灯	5

* LED は、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

電球		W (ワット) 数
車内	ルームライト	8
	パーソナルライト	8
	ラゲージルームライト	5
	バニティライト	8

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
AZE156H	2AZ-FE (2.4L ガソリン)	FF (前輪駆動)
AZE154H		4WD (4 輪駆動)
GRE156H	2GR-FE (3.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。
トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 22)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 31)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
エコドライブインジケーター (→P. 83)	表示灯の点灯	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 114)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
イルミネーション (→P. 188)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし

さくいん

略語一覧 308

五十音順さくいん 309

症状別さくいん 317

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステリング
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト	201
	アクセサリースocket	200
	アンチロックブレーキシステム (ABS)	133
	アンテナ	210

い	イグニッションスイッチ	91
	イベントデータレコーダー (EDR)	258
	イルミネーテッドエントリー システム	188
	インナーミラー	53

う	ウインカー	
	W 数	304
	スイッチ	100
	電球の交換	225
	ウインドウ	
	ウォッシャー	118, 120
	パワーウインドウ	56
	リヤウインドウ	
	デフォッガー	164
	ウインドウロックスイッチ	56
	ウォーニングライト	260
	ウォッシャー	
	液の補給	245
	スイッチ	118, 120
	タンク容量	303
	冬の前の準備・点検	147
	運転	
	寒冷時の運転	147
	正しい姿勢	63
	手順	82
	運転席シートベルト	
	非着用警告灯	262

え	エアコン	
	オートエアコン	152, 158
	フィルターの交換	246
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ	65
	一般的な警告	70
	お子さまのための注意	70
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告	71
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件	66
	改造・分解	73
	警告灯	261
	サイドエアバッグに 関する警告	71
	サイドエアバッグの 作動条件	66
	作動条件	66
	正しい姿勢	63
	配置	65
	エレクトリックパワー ステアリング	133
	エンジン	
	イグニッションスイッチ	91
	エンジン回転計 (タコメーター)	103
	エンジンがかからない	283
	エンジン警告灯	261
	エンジンスイッチ	91
	エンジンルームカバー	223
	オーバーヒート	292
	かけ方	91
	ボンネット	219
	エンジンイモビライザー システム	62

エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	147
容量	299
お 応急用タイヤ（スペアタイヤ）	
空気圧	304
スペアタイヤ	274
オーディオ	
CD プレーヤー	171
MP3/MWA ディスク	176
調整	183
ラジオ	168
オートマチックトランスミッション （A/T）	
7 速スポーツシーケンシャルシフト トマチックモード	95
6 速スポーツダイレクトシフト モード	96
オートマチックトランス ミッション	94
シフトレバーが シフトできない	285
オートレベリングシステム	116
オーバーヒート（エンジン）	292
オーバーヘッドコンソール	196
オープナー	
給油口	58
ボンネット	219

お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ	56
エアバッグに関する警告	70
お子さまのシートベルト	
着用	49
シートベルトに関する警告	50
チャイルドシート	74
チャイルドシートの固定	74
チャイルドプロテクター	33
電子キーの電池に関する 警告	244
バッテリーに関する警告	291
パワーウインドウに 関する警告	57
オドメーター（積算距離計）	104

か カーテンシールドエアバッグ	65
カードホルダー	197
外気温表示	109
快適温熱シートヒーター	207
カスタマイズ機能	306
ガソリンスタンドでの情報	320
カップホルダー	193
故障したときは	250

き キー	
イグニッションスイッチ	91
エンジンスイッチ	91
キー	20
キーナンバー	20
キーレスエントリー （ワイヤレスドアロック）	31
キーを無くした	286
電子キー	20
電子キーの電池が切れた	287
メカニカルキー	20
給油口	58

緊急時の対処

エンジンがかからない.....	283
オーバーヒートした	292
キーを無くした	286
警告灯がついた	260
警告メッセージが 表示された	264
けん引.....	254
スタックした	294
シフトレバーが シフトできない	285
電子キーの電池が切れた.....	287
発炎筒.....	252
バッテリーがあがった.....	289
パンクした.....	274

<

空気圧 (タイヤ).....	304
区間距離計 (トリップメーター)	104
グローブボックス.....	191
クルーズコントロール レーダークルーズ コントロール	123

け

計器

メーター.....	103
メーター照度調整	104
警告器 (ホーン).....	102

警告灯

SRS エアバッグ.....	261
アンチロックブレーキ システム (ABS)	261
エンジン	261
オートマチックトランスミッシ ョン油温警告灯.....	262
シートベルト非着用.....	262
充電.....	260
ディスチャージヘッドライト オートレベリング.....	261
燃料残量.....	262
パワーステアリング.....	261
プリクラッシュセーフティ システム (PCS)	261
プリテンショナー.....	261
ブレーキ	260
ブレーキアシスト.....	261
マスターウォーニング.....	262

警告表示

SRS エアバッグ	266
4WD	266
ABS (アンチロックブレーキシステム)	266
エンジン	267
エンジンオイル圧力	265
充電	265
ステアリングロック	266
スマートエントリー& スタートシステム	271
ドア	268
燃料残量	269
パーキングブレーキ	268
パワーステアリング	268
バックドア	268
ビークルスタビリティ コントロール	267
プリクラッシュセーフティ システム (PCS)	267、269
ブレーキ	264
レーダークルーズ コントロール	267、269
警告ブザー	
シートベルト非着用	262
ブレーキ	260
化粧用 (バニティ) ミラー	199
けん引	254

こ

交換

タイヤ	274
電球	225
電子キーの電池	243
ヒューズ	236
工具	274

後退灯

W 数	304
電球の交換	225
コートフック	202
コンソールトレイ	196
コンソールボックス	192
コンライト (自動点灯・消灯装置)	114

さ

サイドエアバッグ	65
サンバイザー	198
三角表示板収納スペース	205

し

シート

正しい姿勢	63
シートヒーター	207
チャイルドシートの固定	74
調整	40
調整に関する警告	41
手入れ	213
ヘッドレスト	45

シートベルト

お子さまの着用	49
緊急時シートベルト 固定機構	49
シートベルト警告灯	262
シートベルト プリテンショナー	48
清掃・手入れ	213
正しい着用	47
チャイルドシートの固定	74
調整	47
妊娠中のかたの着用	49
プリクラッシュシートベルト	48

室内灯 (ルームライト)

W 数	305
スイッチ	189

シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	94
シフトレバーが	
シフトできない	285
シフトロックシステム	285
ジャッキ	
ガレージジャッキ	221
車載ジャッキ	274
ジャッキハンドル	274
車幅灯	
W 数	304
電球の交換	225
ライトスイッチ	114
車両型式	305
車両仕様（スペック）	298
収納装備	190
助手席アッパーボックス	191
助手席シートベルト	
非着用警告灯	262
す 水温計	103
スイッチ	
4WD オートモード	
スイッチ	122
イグニッションスイッチ	91
ウインドウロックスイッチ	56
エンジンスイッチ	91
ドアロックスイッチ	32
パワーウインドウスイッチ	56
フォグライトスイッチ	117
ライトスイッチ	114
ワイパー&ウォッシャー	
スイッチ	118、120
スタック	
スタックした	294

ステアリングホイール	
調整	52
スピードメーター	103
スペアタイヤ（応急用タイヤ）	
空気圧	304
収納場所	274
スペック	298
スマートエントリー&	
スタートシステム	
エンジンの始動	91
ドアの施錠・解錠	23
せ 清掃	
外装	210
シートベルト	213
内装	213
積算距離計	104
洗車	210
前照灯	
W 数	304
スイッチ	114
ディスチャージヘッドライトに	
関する警告	235
電球の交換	225
そ 速度計（スピードメーター）	103

た	タイヤ	
	空気圧.....	304
	交換.....	274
	スペアタイヤ.....	274
	チェーン.....	147
	点検.....	216
	パンクした.....	274
	冬用タイヤ.....	147
	ローテーション.....	216
	タコメーター.....	103

ち	チェーン (タイヤチェーン)	147
	チェンジレバー	
	オートマチックトランス	
	ミッション.....	94
	シフトレバーが	
	シフトできない.....	285
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定.....	76
	シートベルトでの固定.....	75
	チャイルドプロテクター	33
	駐車ブレーキ	
	(パーキングブレーキ).....	101

つ	ツール.....	274
----------	-----------------	------------

て	ディスプレイ	
	警告メッセージ.....	264
	トリップ	
	インフォメーション.....	109
	レーダークルーズ	
	コントロール.....	123

	手入れ	
	外装.....	210
	シートベルト.....	213
	内装.....	213
	テールランプ (尾灯)	
	W 数.....	304
	スイッチ.....	114
	デッキフック.....	205
	電球 (バルブ)	
	W 数.....	304
	交換.....	225
	電子キー	
	電池が切れた.....	287

と	ドア	
	ドアガラス.....	56
	ドアミラー.....	54
	ドアロック.....	32
	ドアガラス.....	56
	ドアミラー	
	調整.....	54
	盗難防止システム	
	エンジンイモビライザー	
	システム.....	62
	時計.....	109
	トラクションコントロール.....	133
	トリップメーター.....	104

に	荷物	
	積むときの注意.....	145

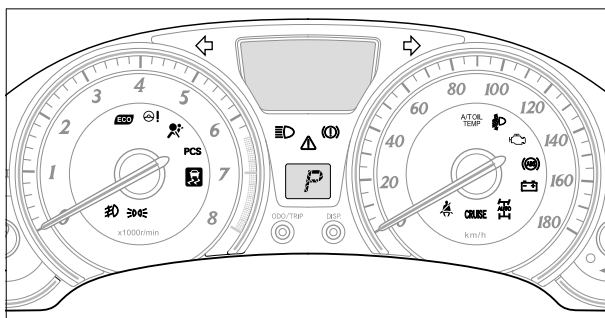
ね	燃料	
	ガソリンスタンドでの情報	320
	給油.....	58
	種類.....	298
	燃料計.....	103
	容量.....	298

は	パーキングブレーキ	101
	パーソナルライト	
	W 数	305
	スイッチ	189
	ハザード（非常点滅灯）	251
	発炎筒	252
	バックアップライト	
	W 数	304
	電球の交換	225
	バッテリー	
	バッテリーがあがった	289
	冬の前の準備点検	147
	バニティ（化粧用）ミラー	199
	バニティライト	
	W 数	305
	バニティライト	199
	バルブ（電球）	
	W 数	304
	交換	225
	パワーウィンドウ	56
	パンク	
	パンクした	274
	番号灯	
	W 数	304
	電球の交換	225
	ハンドル	
	調整	52
ひ	ビークルスタビリティ	
	コントロール	133
	ヒーター	
	オートエアコン	152, 158
	ミラーヒーター	55
	尾灯	
	W 数	304
	スイッチ	114
	ヒューズ	236

表示灯	105
ヒルスタートアシスト	
コントロール	137
ふ	
フォグライト	
W 数	304
スイッチ	117
電球の交換	225
フック	
けん引フック	254
コートフック	202
デッキフック	205
冬用タイヤ	147
プリクラッシュセーフティ	
システム（PCS）	139
ブレーキ	
パーキングブレーキ	101
ブレーキアシスト	133
フロアマット	203
フロントシート	
調整	40
フロントターンシグナルライト	
W 数	304
電球の交換	225
レバー	100
フロントフォグライト	
W 数	304
スイッチ	117
電球の交換	225
フロントワイパーデアイサー	165

へ	ヘッドライト W 数 304 手動光軸調整ダイヤル 115 スイッチ 114 ディスチャージヘッドライトに 関する警告 235 電球の交換 225 ヘッドレスト 調整 45	ら	ライト W 数 304 室内灯 188 電球の交換 225 パーソナルライト 189 バニティライト 199 フォグライト 117 ヘッドライト 114 方向指示灯 100
ほ	ホーン（警音器） 102 ホイール 216 方向指示灯 W 数 304 スイッチ 100 電球の交換 225 ボトルホルダー 195 ボンネット 219	り	リヤターンシグナルライト W 数 304 電球の交換 225
ま	マルチインフォメーション ディスプレイ 108	る	ルームライト W 数 305 スイッチ 189
み	ミラー インナーミラー 53 ドアミラー 54 バニティ（化粧用）ミラー 199	れ	冷却水 冬の前の準備・点検 147 容量 302 冷却装置 エンジンオーバーヒート 292 レーダークルーズコントロール .. 123
め	メーター（計器） メーター 103 メーター照度調整 104 メンテナンス メンテナンスデータ 298	わ	ワイパー スイッチ 118、120 ワイパーデアイサー 165 ワイヤレスドアロック 電池交換 243 リモコン 31
ゆ	ユーザーカスタマイズ機能 306		
よ	4WD オートモードスイッチ 122		

タイヤがパンクした	P. 274	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 283	エンジンがかからないときは
	P. 62	エンジンイモビライザーシステム
	P. 289	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 285	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が 赤いゾーンに入った	P. 292	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから 蒸気が立ちのぼった		
キーを無くした	P. 286	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 289	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 22 P. 31 P. 32	ドア
ぬかるみや砂地などで 動けなくなった	P. 294	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 260	警告灯がついたときは



■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 P. 260		運転席シートベルト非着用警告灯 P. 262
	ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 261		助手席シートベルト非着用警告灯 P. 262
	燃料残量警告灯 P. 262		マスターウォーニング P. 262
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 P. 261		パワーステアリング警告灯 P. 261
	エンジン警告灯 P. 261		充電警告灯 P. 260
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯 P. 261		PCS 警告灯 P. 261
	オートマチックトランスミッション油温警告灯 P. 262		

警告メッセージが表示された

P. 264 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチディスプレイの警告メッセージを確認ください。

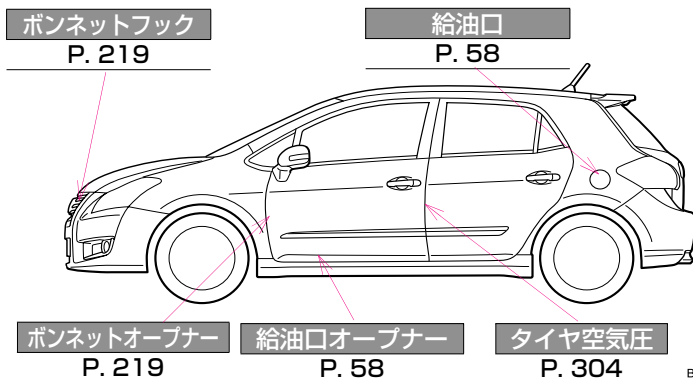
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 260)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 264)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 28
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 97
	シフトダウンしたとき	P. 97
	ブレーキを踏んだとき	P. 89

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



BTO83BA001

燃料の容量 (参考値)	60L			
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン (2AZ-FE エンジン車) 無鉛プレミアムガソリン (2GR-FE エンジン車) P. 59, 298			
タイヤが冷えて いるときの 空気圧	標準タイヤ			
	タイヤサイズ		前輪	後輪
	205/55R16 91V	2AZ-FE エンジン車	210 (2.1) kPa (kg/cm ²)	
	225/45R17 91W			
		2GR-FE エンジン車	230 (2.3) kPa (kg/cm ²)	210 (2.1) kPa (kg/cm ²)
応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)				
エンジンオイル 容量 (参考値)	オイルのみ交換時 2AZ-FE エンジン車 : 4.1 L 2GR-FE エンジン車 : 5.7 L オイルとフィルター交換時 2AZ-FE エンジン車 : 4.3 L 2GR-FE エンジン車 : 6.1 L			
エンジンオイル の種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SL5W-20 (API SL, EC, SAE 5W-20) ・ SM10W-30(API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL10W-30(API SL, EC, SAE 10W-30) ・ SM0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ※			

※ : SAE 0W-20 は、2AZ-FE エンジン車のみ使用可能

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

